SONY

4-675-433-**01** (1)

こんなときはこのマニュアル　4ページ
目次　5ページ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と本機を使う前の必要な準備について説明しています。この説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

ノートブックコンピューター
PCG-GRT シリーズ
Microsoft® Windows® XP Professional
Microsoft® Windows® XP Home Edition
搭載モデル

i™ S400

MEMORY STICK™

© 2003 Sony Corporation

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故につながることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

7～18ページの注意事項をよくお読みください。
製品全般の注意事項が記載されています。

故障したら使わない

すぐにVAIOカスタマーリンク修理窓口に修理をご依頼ください。

万一異常が起きたら

・煙が出たら
・異常な音、においがしたら
・内部に水、異物が入ったら
・製品を落としたり、キャビネットを破損したとき

❶電源を切る

❷電源コードや接続ケーブルを抜き、バッテリを取りはずす

❸VAIOカスタマーリンク修理窓口に修理を依頼する

データはバックアップをとる

ハードディスク内の記録内容は、バックアップをとって保存してください。ハードディスクにトラブルが生じて、記録内容の修復が不可能になった場合、当社は一切その責任を負いません。

警告表示の意味

この説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなどの人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を指示する記号

電気通信事業法に基づく認定について

本製品は、電気通信事業法に基づく技術基準適合認定を受けています。
認証機器名は次のとおりです。
認証機器名：PCG-8M1N/8M3N/8M4N/8M2Q

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

漏洩電流自主規制について

この装置の本体およびディスプレイは、それぞれ社団法人電子情報技術産業協会（旧JEIDA）のパソコン基準（PC-11-1988）に適合しております。

瞬時電圧低下について

本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
（社団法人電子情報技術産業協会（旧JEIDA）のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）

* 充電されたバッテリ使用時には、無停電電源装置等は不要です。

レーザー安全基準について

この装置には、レーザーに関する安全基準（JIS・C-6802）クラス1適合のDVD±RWドライブ、DVD-RWドライブまたはCD-RW/DVD-ROM一体型ドライブが搭載されています。

高調波電流規制について

この装置は、高調波ガイドライン適合品です。

著作権について

あなたが本機で録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断では使用できません。また、著作者の許可なく、取り込んだ映像・画像・音声に変更・切除その他の改変を加え、著作物の同一性を損なうことは禁じられています。コピーガード信号や著作権保護の信号が入った映像は録画することができません。

こんなときはこのマニュアル

目的に合わせて、本機に付属しているマニュアルをご活用ください。

はじめにお読みください →

取扱説明書（本書）

バイオを使うための準備など、お使いになるうえで大切な情報を記載しています。

バイオの使いかたや、困ったときの解決方法 →

サイバーサポート（画面で見る電子マニュアル）

デスクトップ画面上の（バイオマニュアル CyberSupport）をダブルクリックして起動してください。

詳しい使いかたは ヘルプ をクリックして表示される情報をご覧ください。

ソフトウェアの使いかた →

ソフトウェアのヘルプ

お使いになるソフトウェアを起動して、ヘルプをご覧ください。（ヘルプのないソフトウェアもあります。）

Windowsの使いかた →

ヘルプとサポートセンター

WindowsのヘルプやQ&A（よくある質問とその回答）から使いかたを検索できます。

目次

サイバーサポート（画面で見る電子マニュアル）を使ってみよう

バイオの使いかたについて詳しく知りたいときや、困ったことがあったときは、デスクトップ画面上の（バイオマニュアル CyberSupport）をダブルクリックして起動してください。
次の項目についても「サイバーサポート」をご覧ください。
- CDの作成方法
- DVDの作成方法　など

安全のために 2
こんなときはこのマニュアル 4
付属品を確かめる 19
各部のなまえ 23

準備する

電源を入れる 36
Windowsを準備する 40
電源を切る 44
カスタマー登録する 46

基本的な使いかた

タッチパッドを使う 56
キーボードを使う 58

インターネットを始める

インターネット接続に必要なものは 66
インターネット上のトラブルについて 69
インターネットに接続するまでの流れ 71
一般電話回線／ADSL／ISDN／CATV インターネットに接続するには 73
プロバイダと契約する 79
チェックシートを作成する 81
接続のための設定をする 87
電子メールソフトウェアの設定をする 93
インターネットに接続する 98
ホームページを見る 102
電子メールをやりとりする 107

テレビを楽しむ（PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ）

テレビを見るまでの流れ 112
アンテナにつなぐ 115
テレビを見る準備をする 119
リモコンで操作する準備をする 123

困ったときは

トラブルを解決するには 126
VAIOカスタマーリンク お問い合わせ先 128
主なトラブルとその解決方法 ... 130

その他

メモリモジュールを取り付ける／取りはずす 168
再セットアップ(リカバリ)について 173
再セットアップ(リカバリ)する 176
リカバリディスクを作成する ... 183
パーティションサイズを変更する 186
動画系ソフトウェアの操作の流れ 190
使用上のご注意 193
お手入れ 201
保証書とアフターサービス 202
主な仕様 204
付属ソフトウェアのお問い合わせ先 211
索引 223

⚠警告 **下記の注意事項を守らないと火災・感電などにより死亡や大けがの原因となります。**

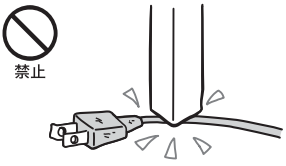
火災　感電

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 本機と机や壁などの間にはさみこんだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、VAIOカスタマーリンク修理窓口に交換をご依頼ください。



油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となります。この説明書に記されている使用条件以外の環境でのご使用は、火災や感電の原因となります。

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続ケーブルを抜いて、VAIOカスタマーリンク修理窓口に点検・修理をご依頼ください。

モデムは一般電話回線以外に接続しない

本機の内蔵モデムをISDN（デジタル）対応公衆電話のデジタル側のジャックや、構内交換機（PBX）へ接続すると、モデムに必要以上の電流が流れ、故障・発熱・火災の原因となります。
特に、ホームテレホン・ビジネスホン用の回線などには、絶対に接続しないでください。

内部をむやみに開けない

- 本機および付属の機器（ケーブルを含む）は、むやみに開けたり改造したりすると火災や感電の原因となります。内部の点検、修理はVAIOカスタマーリンク修理窓口にご依頼ください。
- メモリモジュールを取り付けたり、取りはずすときは、「メモリモジュールを取り付ける／取りはずす」（168ページ）に従って注意深く作業してください。
  また、指定されている部分以外には触れないでください。指定以外の部分にむやみに触れると、火災や感電の原因となります。

指定のACアダプタ以外は使用しない

火災や感電の原因となります。

ひざの上で長時間使用しない

長時間使用すると本機の底面が熱くなり、低温やけどの原因となります。

本機は日本国内専用です

本機に内蔵されているモデムは国内専用です。
海外などでモデムを使用すると、故障・火災・感電の原因となることがあります。

(ネットワーク/LAN)コネクタに指定以外のネットワークや電話回線を接続しない

本機の(ネットワーク/LAN)コネクタに次のネットワークや回線を接続すると、コネクタに必要以上の電流が流れ、故障や発熱、火災の原因となります。
特に、ホームテレホンやビジネスホンの回線には、絶対に接続しないでください。

- 10BASE-Tと100BASE-TXタイプ以外のネットワーク
- 一般電話回線
- ISDN(デジタル)対応公衆電話のデジタル側のジャック
- PBX(デジタル式構内交換機)回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

また、(ネットワーク/LAN)コネクタをお使いになるときは、職場などのネットワーク管理者にご相談ください。

落雷のおそれがあるときは本機を使用しない

落雷により、感電したり本機が故障することがあります。雷が予測されるときは、火災や感電、製品の故障を防ぐためにアンテナケーブルやテレホンコード、電源プラグを抜いてください。また、雷が鳴りだしたら、本機には触らないでください。

⚠警告 **下記の注意事項を守らないと、健康を害するおそれがあります。**

ディスプレイ画面を長時間続けて見ない

ディスプレイなどの画面を長時間見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。
ディスプレイ画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

キーボードを使いすぎない

キーボードやタッチパッドなどを長時間使い続けると、腕や手首が痛くなったりすることがあります。
キーボードやタッチパッドを使用中、体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐに本機の使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診察を受けてください。

大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。
特にヘッドホンで聞くときはご注意ください。
呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。

⚠注意 **下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。**

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

接続するときは電源を切る

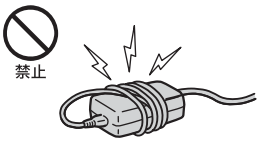
ACアダプタや接続ケーブルを接続するときは、本機や接続する機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。感電や故障の原因となることがあります。

指定された電源コードや接続ケーブルを使う

この説明書に記されている電源コードや接続ケーブルを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

電源コードや接続ケーブルをACアダプタに巻き付けない

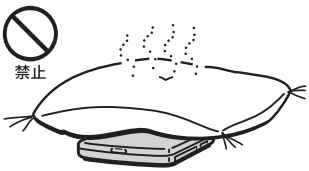
断線や故障の原因となることがあります。



排気口、吸気口をふさがない

排気口、吸気口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。

- 毛足の長い敷物（じゅうたんや毛布など）の上に放置しない。
- 布などでくるまない。



排気口からの排気に長時間あたらない

本機をご使用中、その動作状況により排気口から温風が排出されることがあります。
この温風に長時間あたると、低温やけどの原因となる場合があります。

通電中の本機やACアダプタに長時間ふれない

長時間皮膚がふれたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

本機やACアダプタを布や布団などでおおった状態で使用しない

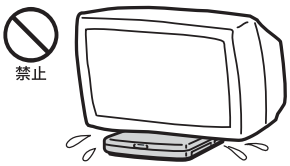
熱がこもってケースが変形したり、火災の原因となることがあります。

安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置かないでください。また、横にしたり、ひっくり返して置いたりしないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

本機の上に重いものを載せない

壊れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。



お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

移動させるときは、電源コードや接続ケーブルを抜く

接続したまま移動させると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となったり、接続している機器が落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
また、本機を落とさないようにご注意ください。

コネクタはきちんと接続する

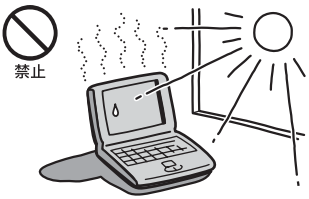
- コネクタの内部に金属片を入れないでください。ピンとピンがショート（短絡）して、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタはまっすぐに差し込んで接続してください。斜めに差し込むと、ピンとピンがショートして、火災や故障の原因となることがあります。
- コネクタに固定用のスプリングやネジがある場合は、それらで確実に固定してください。接続不良が防げます。

長時間使用しないときは電源プラグを抜く

長時間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

直射日光のあたる場所や熱器具の近くに設置・保管しない

内部の温度が上がり、火災や故障の原因となることがあります。



液晶画面に衝撃を与えない

液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

ディスプレイパネルの裏側を強く押さない

液晶画面が割れて、故障やけがの原因となることがあります。

本機に強い衝撃を与えない

故障の原因となることがあります。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、次の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

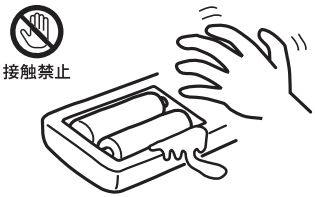
- 指定された充電方法以外で充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解しない。電子レンジやオーブンで加熱しない。コインやヘヤーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管するとショートすることがあります。
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置しない。
- バッテリに衝撃を与えない。
  落とすなどして強いショックを与えたり、重いものを載せたり、圧力をかけないでください。故障の原因となります。
- バッテリから漏れた液が目に入った場合は、きれいな水で洗ったあと、ただちに医師に相談してください。
- 本機に付属または指定された別売りのバッテリ以外は使用しないでください。
- 以下のバッテリを使用した場合の安全性は保証できません。
  − 本機に付属、または指定された別売りのバッテリ以外を使用した。
  − 分解、改造を行ったバッテリを使用した。

⚠警告

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることがあります。



必ず次の処理をする

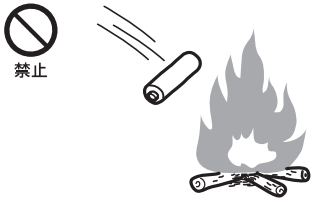
- 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。
- 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で十分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。
万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水で濡らさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



⚠警告

バッテリを廃棄する場合は、次のご注意をお守りください。

- 地方自治体の条例などに従う。
- 一般ゴミに混ぜて捨てない。

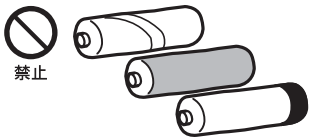
または、リサイクル協力店へお持ちください。

⚠注意

次の注意事項を守らないと故障の原因となることがあります。

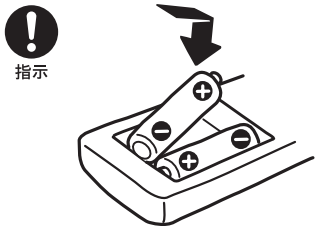
市販のアルカリまたはマンガン電池（単三型）以外の電池をリモコンに使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない
電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



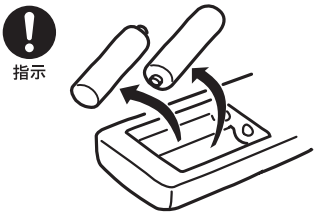
＋とーの向きを正しく入れる

＋とーを逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。
機器の表示に合わせて、正しく入れてください。



使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



指定以外のコンピュータに使わない

故障の原因となることがあります。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

前記のような場所で使うと、故障の原因となります。

分解や改造をしない

故障の原因となります。内部の点検や修理はお買い上げ店またはVAIOカスタマーリンク修理窓口にご依頼ください。

本機の発熱についてのご注意

使用中に本機の表面やACアダプタ、バッテリが熱くなることがあります

CPUの動作や充電時の電流によって発熱していますが、故障ではありません。使用している拡張機器やソフトウェアによって発熱量は異なります。

本機やACアダプタが普段よりも異常に熱くなったときは

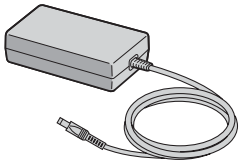
本機の電源を切り、ACアダプタの電源コードを抜き、バッテリを取りはずしてください。次に、VAIOカスタマーリンク修理窓口に修理をご依頼ください。

付属品を確かめる

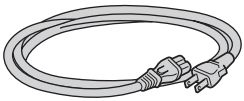
本機を初めて使うにあたって、次のものがすべてそろっているかご確認ください。
❑マークにチェックしながら確認すると便利です。
付属品が足りないときや破損しているときは、VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。
なお、付属品は本機のみで動作保証されています。

❑ **パソコン本体(1)**

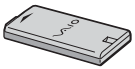
❑ **ACアダプタ(1)**



❑ **電源コード(1)**



❑ **バッテリ(1)**

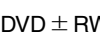


❑ **DVD±RWドライブ(PCG-GRT99/P・GRT77/Bなどの DVD±RW ドライブ搭載モデルのみ*、1)**

❑ **DVD-RWドライブ(PCG-GRT55/Bなどの DVD-RW ドライブ搭載モデルのみ*、1)**

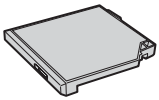
❑ **CD-RW/DVDドライブ(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bを除く CD-RW/DVD ドライブ搭載モデルのみ*、1)**

(出荷時にはあらかじめ本機に装着されています。)
* ドライブを確認するには、本機左側面のマークをご覧ください。(28ページ)

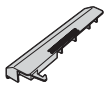
DVD±RWドライブは  、 、 マークがあります。

DVD-RWドライブには 、 マークがあります。

CD-RW/DVDドライブには 、 マークがあります。

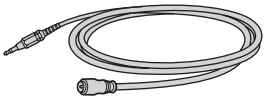


❑ **ウェイトセーバー(1)**



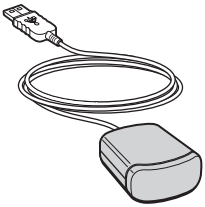
(セカンドバッテリを取り付けるときに使用します。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[基本的な使いかた]→[AC電源／バッテリを用意する]→[セカンドバッテリを取り付ける／取りはずす]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。)

❑ **アンテナ接続ケーブル**
(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/B**などの「**Giga Pocket**」搭載モデルのみ、**1**)**

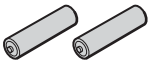


❑ **リモコン本体**
(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/B**などの「**Giga Pocket**」搭載モデルのみ、**1**)**

❑ **リモコン用受光ユニット**
(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/B**などの「**Giga Pocket**」搭載モデルのみ、**1**)**



❑ **単3乾電池**
(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/B**などの「**Giga Pocket**」搭載モデルのみ、**2**)**



説明書およびCD-ROM

- ❑ 取扱説明書(1)
- ❑ バイオで楽しもう！(1)
- ❑ バイオでテレビを楽しもう！(初級編)(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ、1)
- ❑ 「Microsoft® Windows® XP Professional*」ファースト ステップ ガイド(PCG-GRT99/Pなどの Microsoft® Windows® XP Professional プレインストールモデルのみ、1)
- ❑ 「Microsoft® Windows® XP Home Edition*」ファースト ステップ ガイド(PCG-GRT77/B・GRT55/Bなどの Microsoft® Windows® XP Home Edition プレインストールモデルのみ、1)
- ❑ Office XP Personal プレインストールパッケージ(PCG-GRT77/B・GRT55/Bなどの Office XP Personal プレインストールモデルのみ、1)
- ❑ 編集ガイド(Premiere LE)(PCG-GRT99/Pなどの「Adobe® Premiere® 6 LE」搭載モデルのみ、1)

* この説明書では以降、Windows XPと略します。特に必要な場合は正式名称を記載します。

本機はハードディスクから再セットアップ(リカバリ)することができるため、リカバリCD-ROMは付属しておりません。
詳しくは「再セットアップ(リカバリ)について」(173ページ)をご覧ください。

その他

- ❑ VAIOカスタマー登録・保証書お申込書(1)
- ❑ バイオ サービス・サポートのご案内(1)
- ❑ VAIOカルテ(1)
- ❑ ソフトウェア使用許諾契約書(1)
- ❑ その他パンフレット類

  大切な情報が記載されている場合があります。必ずご覧ください。

本機に付属のソフトウェアについては、「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」(211ページ)をご覧ください。

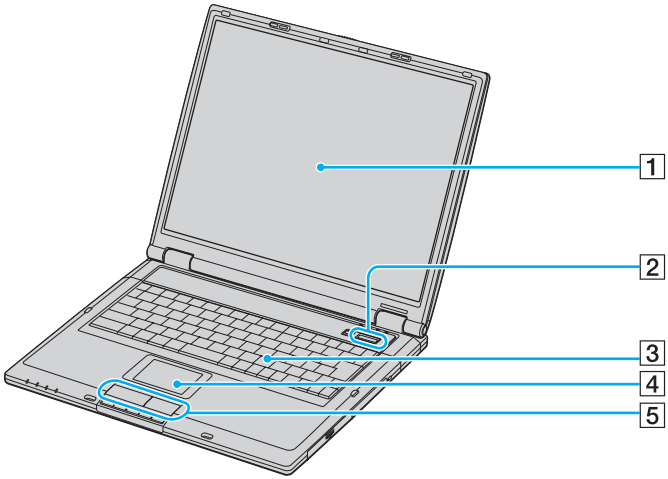
この説明書の説明図や画面について

この説明書で使われている説明図や画面は実際のものとは異なる場合があります。特に指示のない限り、本文中の説明図にはPCG-GRT99/Pを使用しています。

各部のなまえ

詳しい説明は、( )内のページ、または「サイバーサポート」をご覧ください。

本機正面



1 **液晶ディスプレイ**(143、193ページ)

2 **⏻(パワー)ボタン**(38ページ)

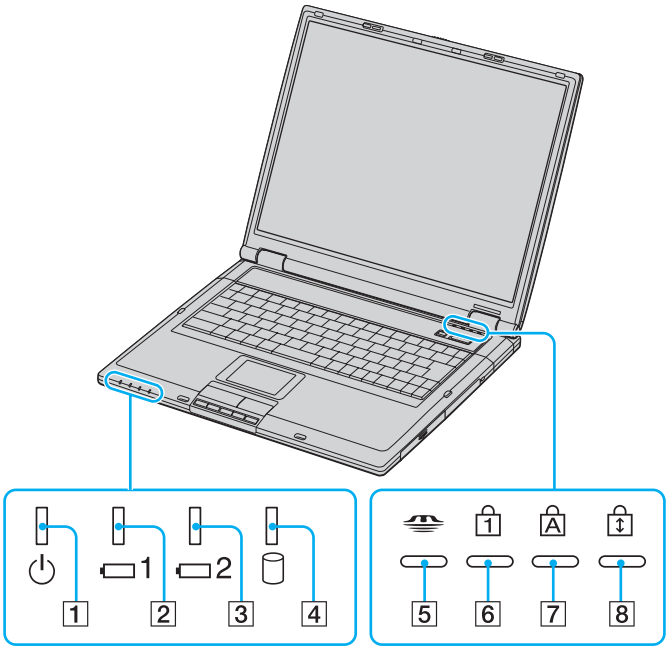
3 **キーボード**(58、146ページ)

4 **タッチパッド**(56、146ページ)

マウスの代わりに画面上のポインタを動かします。

5 **左／右ボタン**(56ページ)

マウスの左／右ボタンに相当します。



1 **(パワー)ランプ(38ページ)**

電源が入ると緑色に点灯します。

2 **1(バッテリ1)ランプ**

本機右側のバッテリベイに取り付けたバッテリの動作状態をお知らせします。

3 **2(バッテリ2)ランプ**

本機左側のマルチパーパスベイに取り付けたバッテリの動作状態をお知らせします。

4 **(ハードディスク) アクセスランプ**

ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

5 **(メモリースティック) アクセスランプ**

“メモリースティック”にアクセスしているときに点灯します。

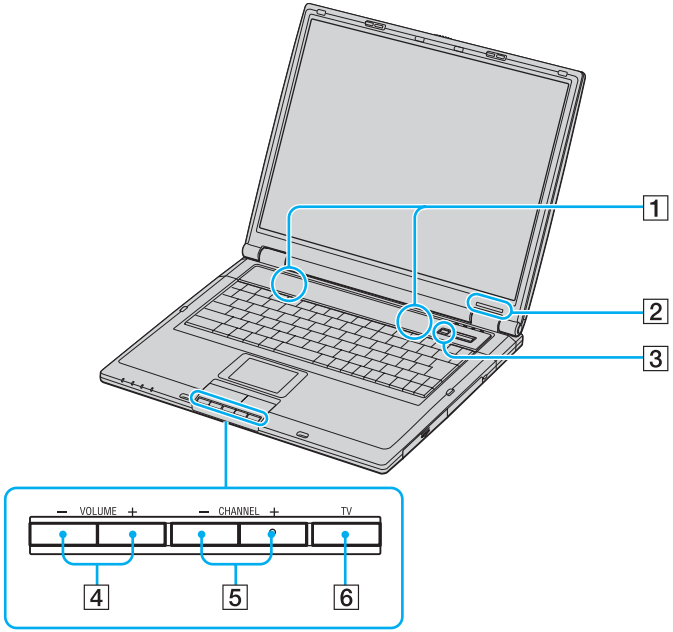
6 **(Num Lock)ランプ(59、134、148、164ページ)**

Num Lockキーを有効にすると点灯します。

7 **(Caps Lock)ランプ(60、134ページ)**

Caps Lockキーを有効にすると点灯します。

8 **(Scroll Lock)ランプ(62ページ)**



1 内蔵スピーカー（61、159ページ）

2 IDラベル（128、203ページ）

型名が記載されています。

3 ⊕（拡大）ボタン（146ページ）

画面を拡大表示します。
ボタンを押すと、解像度が変更されて画面が拡大表示され、もう1度押すと前の設定に戻ります。

4 VOLUME（ボリューム）ボタン

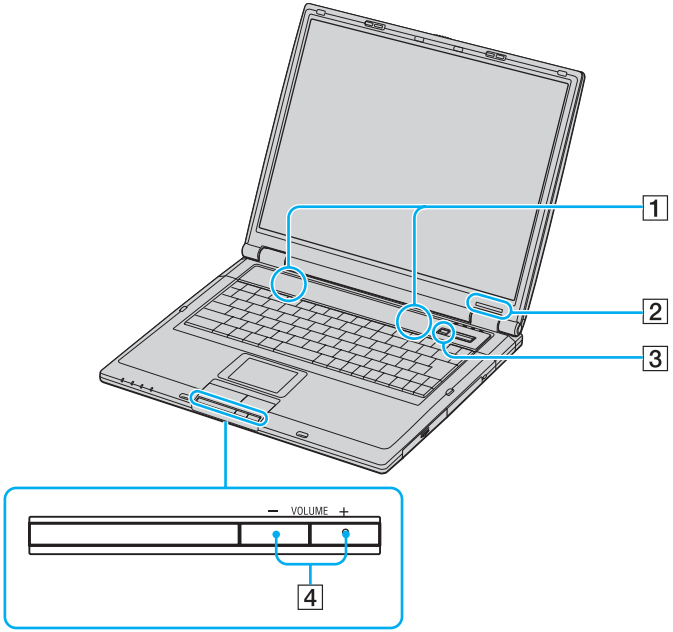
スピーカーやヘッドホンの音量を調節します。

5 CHANNEL（チャンネル）ボタン

「Giga Pocket」ソフトウェアを起動しているときに、チャンネルを切り替えます。

6 TV（テレビ）ボタン

「Giga Pocket」ソフトウェアを起動／終了します。



1 **内蔵スピーカー（61、159ページ）**

2 **IDラベル（128、203ページ）**

型名が記載されています。

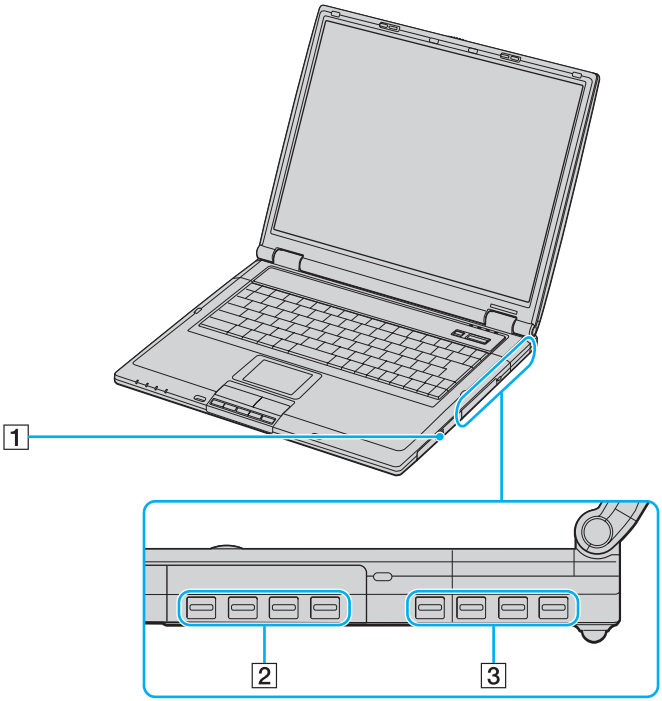
3 **⊕（拡大）ボタン（146ページ）**

画面を拡大表示します。
ボタンを押すと、解像度が変更されて画面が拡大表示され、もう1度押すと前の設定に戻ります。

4 **VOLUME（ボリューム）ボタン**

スピーカーやヘッドホンの音量を調節します。

本機右側面



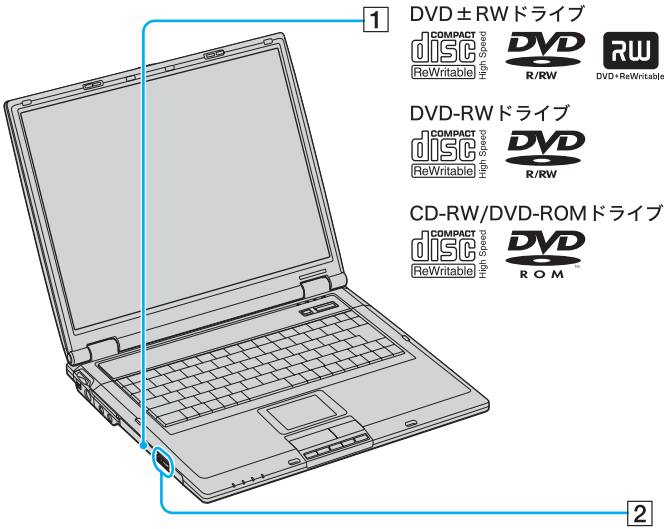
1 バッテリベイ

バッテリパックを取り付けます。

2 排気口

3 吸気口

本機左側面



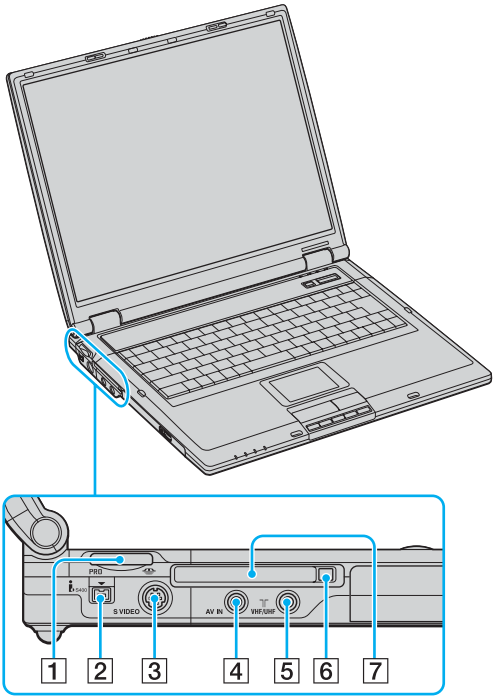
1 マルチパーパスベイ

工場出荷時にはあらかじめDVD±RWドライブ(PCG-GRT99/P・GRT77/Bなどの DVD±RWドライブ搭載モデルのみ*)/DVD-RWドライブ(PCG-GRT55/Bなどの DVD-RWドライブ搭載モデルのみ*)/CD-RW/DVD-ROM一体型ドライブ(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bを除く CD-RW/DVD-ROM一体型ドライブ搭載モデルのみ*)が装着されています。ドライブを取りはずしてセカンドバッテリを取り付けることもできます。

以降、DVD±RWドライブまたはDVD-RWドライブをドライブと略します。また、CD-RW/DVD-ROM一体型ドライブはCD-RW/DVDドライブまたはドライブと略します。

* ドライブを確認するには、本機左側面のマークをご覧ください。

2 ドライブ イジェクトボタン、アクセスランプ、マニュアルイジェクト穴



1 **(マジックゲート対応メモリースティック)スロット(156ページ)**

“メモリースティック”を挿入します。

2 S400(i.LINK)**コネクタ(156ページ)**

i.LINK端子の付いた他の機器とデータをやりとりできます。

3 S VIDEO(S VIDEO IN)**コネクタ**

ビデオデッキやアナログビデオカメラなどのS VIDEOの出力をつなぎます。

4 AV IN**コネクタ**

ビデオデッキなどの出力をつなぎます。

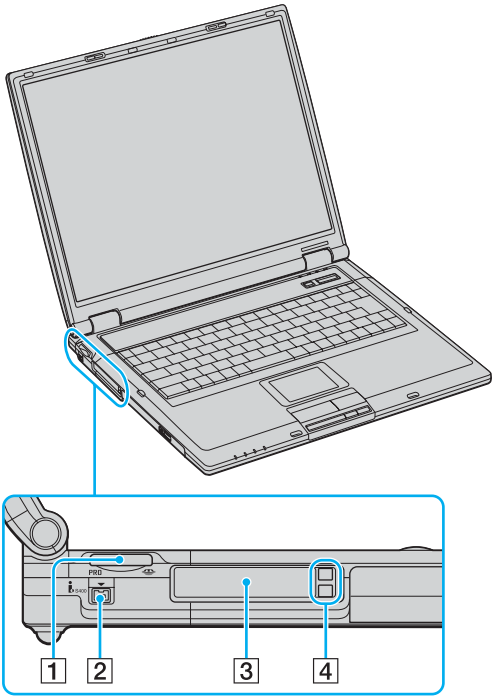
5 VHF/UHF**コネクタ**

アンテナを接続し、本機でテレビ番組を見ることができます。

6 PC**カード イジェクトボタン**

PCカードを取り出します。

7 PC**カードスロット(158、196ページ)**



1 **(マジックゲート対応メモリースティック)スロット(156ページ)**

“メモリースティック”を挿入します。

2 **S400(i.LINK)コネクタ(156ページ)**

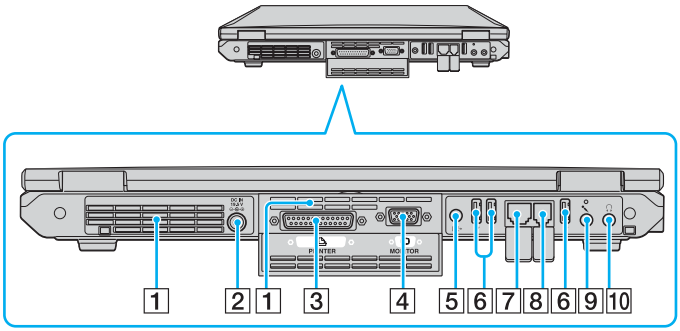
i.LINK端子の付いた他の機器とデータをやりとりできます。

3 **PCカードスロット(158、196ページ)**

4 **PCカード イジェクトボタン**

PCカードを取り出します。

本機後面



1 **排気口**

2 DC IN 19.5 V **コネクタ（37ページ）**

ACアダプタをつなぎ、電源コンセントにつなぎます。

3 PRINTER**（プリンタ）コネクタ**

プリンタをつなぎます。

4 MONITOR**（モニタ）コネクタ**

外部ディスプレイや液晶プロジェクタをつなぎます。

5 **（A/V OUT）コネクタ**

テレビをつなぎます。

6 **（USB）コネクタ**

USB規格に対応した機器をつなぎます。

7 **（ネットワーク**/LAN**）コネクタ**

LANケーブルなどをつなぎます。
LANポートを使用するタイプのADSLモデムなどに接続するときに使います。（76ページ）

8 **（モジュラジャック）（74ページ）**

電話回線をつなぎます。

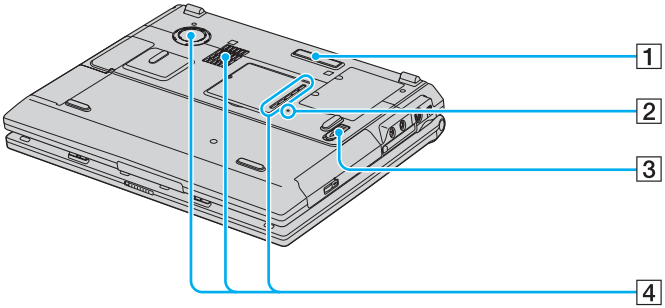
9 **（マイク）コネクタ**

マイクをつなぎます。
（ヘッドホン）コネクタと区別がしやすいように、（マイク）コネクタの上部に突起がついています。
マイクをお使いになるときは、誤って（ヘッドホン）コネクタに接続しないようにご注意ください。

10 **（ヘッドホン）コネクタ**

ヘッドホンやスピーカーをつなぎます。

本機底面



1 ポートリプリケーターコネクタ

ご注意

工場出荷時にはあらかじめカバーが取り付けられています。ポートリプリケーターを使用しないときは、カバーを取り付けておいてください。

2 リセットスイッチ（131、133ページ）

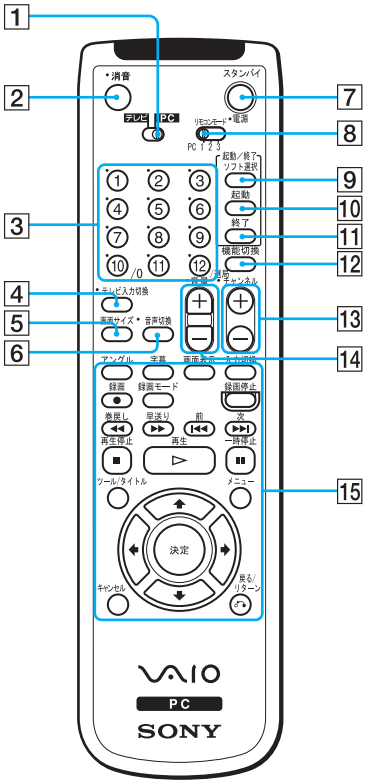
3 マルチパーパスベイ取りはずしレバー

マルチパーパスベイに取り付けたドライブまたはウェイトセーバーを取りはずします。

4 吸気口

リモコン(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)

本機に接続したリモコン用受光ユニットにリモコンを向けて、「Giga Pocket」ソフトウェアや本機に接続したテレビを操作したり、「SonicStage」ソフトウェアを操作したり、「WinDVD」ソフトウェアを操作したりすることができます。



1 テレビ/PC切換スイッチ

「Giga Pocket」ソフトウェア、「SonicStage」ソフトウェア、「WinDVD」ソフトウェアの操作をするときは、「PC」側にずらします。

本機に接続したテレビを操作するときは、「テレビ」側にずらします。

2 消音ボタン

一時的に音を消します。

3 チャンネル数字ボタン

チャンネルを選択します。

4 テレビ入力切換ボタン

テレビとビデオ入力を切り換えます。

5 画面サイズボタン

「Giga Pocket」の画面表示を切り換えます。

6 音声切換ボタン

2か国語放送などの音声を切り換えます。

7 電源／スタンバイボタン

本機の動作中にスタンバイに入ります。

8 リモコンモード切換スイッチ

詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[リモコンの設定を変更する(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

9 ソフト選択ボタン

何回か押して、ソフトウェアを選びます。

10 起動ボタン

9で選んだソフトウェアを起動します。

11 終了ボタン

9で選んだソフトウェアを終了します。

12 機能切換ボタン

テレビ／録画デッキと再生デッキを切り換えます。

13 チャンネルボタン

テレビのチャンネルを選択します。

14 音量ボタン

音量を調整します。

15 操作ボタン

9で選んだソフトウェアを操作します。

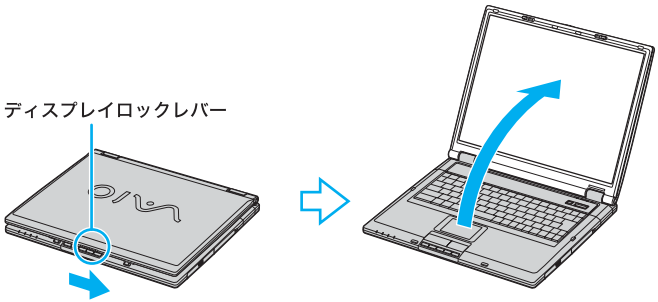
5ボタン、チャンネル＋／－ボタンに突起がついています。

準備する

電源を入れる

次の手順に従って、本機の電源を入れてください。

1 ディスプレイロックレバーを矢印の方向にずらしながら、ディスプレイパネルを開く。

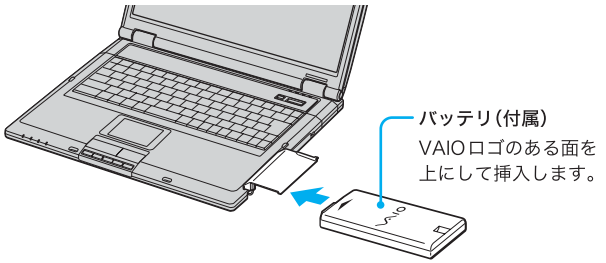


2 バッテリを取り付ける。

停電や誤ってAC 電源がはずれ、作業中のデータが失われてしまうことのないよう、付属のバッテリを取り付けます。

①バッテリベイのふたを開ける。

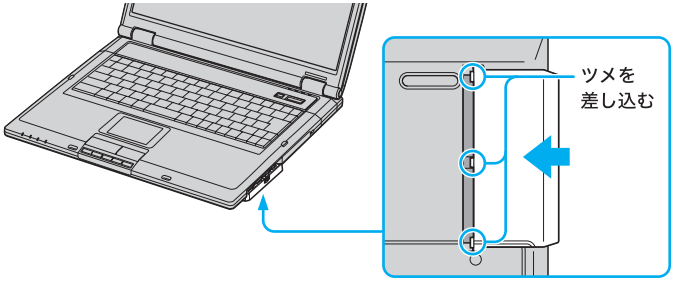
②バッテリを挿入する。



③バッテリベイのふたを閉じる。

PCG-GRT55/Bなどの液晶ディスプレイが15.0型のモデルをお使いの場合は、そのまま「カチッ」と音がするまでしっかりと閉じてください。

PCG-GRT99/P・GRT77/Bなどの液晶ディスプレイが16.1型のモデルをお使いの場合は、バッテリベイのふたについている3か所のツメを差し込み、「カチッ」と音がするまでしっかりと閉じてください。



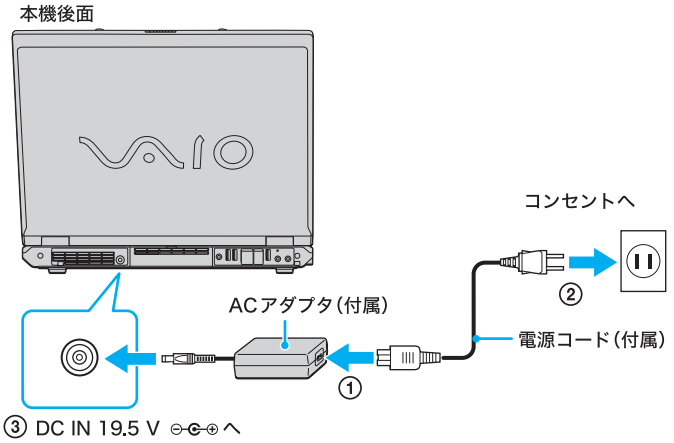
3 AC電源をつなぐ。

本機と壁のACコンセントを接続します。

①電源コードのプラグをACアダプタに差し込む。

②電源コードのもう一方のプラグを、壁のコンセントに差し込む。

③ACアダプタのプラグを、本機後面のDC IN 19.5 V ⊖-◎-⊕コネクタに差し込む。



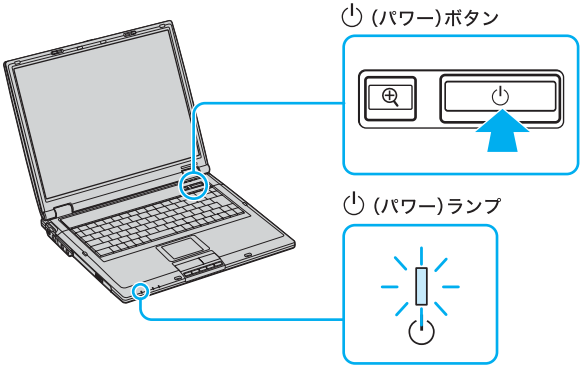
本機に取り付けた別売りのポートリプリケーター PCGA-PRGT1の⊖-◎-⊕ DC INコネクタに接続することもできます。

4 ⏻(パワー)ボタンを押し、⏻(パワー)ランプが点灯(グリーン)したら離す。

電源が入ると、⏻(パワー)ランプが点灯し、Windowsのロゴの画面が表示され、本機が起動します。

ご注意

⏻(パワー)ボタンを4秒以上押したままにすると、電源が切れてしまいます。⏻(パワー)ランプが点灯したら指を離してください。



本機の電源をはじめて入れる場合は、Windowsのロゴの画面が表示され、しばらくして「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されます。「Windowsを準備する」(40ページ)の手順に従って、Windowsのセットアップを行ってください。

ご注意

「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまでにしばらく時間がかかりますが、そのままお待ちください。
途中で電源を切るなどの操作を行うと、本機の故障の原因となります。

本機の2回目の起動時か、「Norton AntiVirus」ソフトウェアをはじめて起動したときは、「Norton AntiVirus情報ウィザード」画面が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

本機はエネルギースター規格に基づいて設計されており、工場出荷時の設定では、AC電源でご使用中に約30分操作しないと、自動的に現在作業中の状態を保持したまま、省電力動作モードへ移行します(スタンバイ[*1])。キーボードのいずれかのキーを押すか、⏻(パワー)ボタン[*2]を押すと、元の状態に戻ります。AC電源でご使用中に自動的にスタンバイに移行しないように設定することもできます[*3]。
また、バッテリで長時間使用できるようにするため、工場出荷時の設定では、バッテリでご使用中に約30分操作をしないと、システムの状態をハードディスクに書き込んでから自動的に本機の電源を切ります(休止状態[*1])。
元の状態に復帰させるには、⏻(パワー)ランプの状態により次の操作を行ってください。

- ⏻(パワー)ランプがアンバー(赤褐色)で点滅(スタンバイ)
  キーボードのいずれかのキーまたは⏻(パワー)ボタンを押す[*2]。
- ⏻(パワー)ランプが消灯(休止状態または電源オフ)
  ⏻(パワー)ボタンを押す。

[*1] 詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[バイオインフォメーション]→[知っ得情報]→[省電力動作モードについて]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

[*2] ⏻(パワー)ボタンを4秒以上押しつづけると保存された状態が破棄されますのでご注意ください。

[*3] 詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[バッテリを節約する/パフォーマンスを調整する]→[プロファイルのパワーマネージメント設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

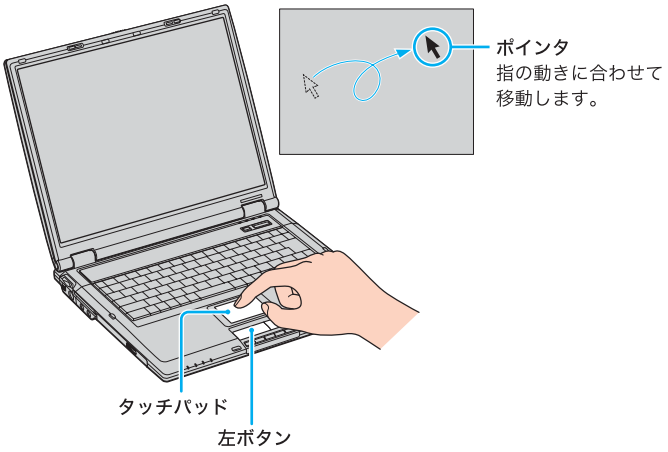
Windowsを準備する

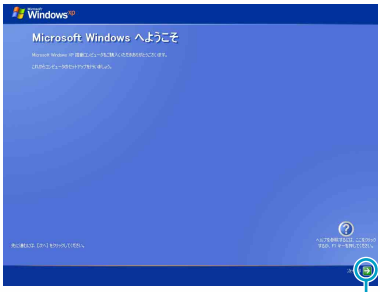
本機を使う前に、Windowsを使うための準備が必要です。
Windowsが使える状態になると、本機に付属のソフトウェアやいろいろな機能も使えるようになります。次の手順に従って、Windowsを使う準備をします。

- 停電や誤ってAC電源がはずれ、作業中のデータが失われてしまうことのないよう、次の操作を行う前に付属のバッテリを本機に取り付けてください。取り付けかたについては「電源を入れる」(36ページ)をご覧ください。
- 「タッチパッドを使う」(56ページ)や「キーボードを使う」(58ページ)では、タッチパッドやキーボードの使いかたについて説明しています。そちらもあわせてご覧ください。

1 「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されたら、画面右下にある[次へ]をクリックする。

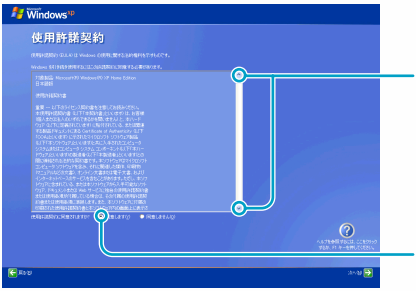
タッチパッドに触れて指を動かし、[次へ]の上までポインタを移動し、左ボタンを「カチッ」と1回押してすぐに離します。
これを「クリックする」と言います。





「使用許諾契約」画面が表示されます。

2 画面に表示された内容を読み、内容に同意するときは[同意します]の◯をクリックして◉にし、[次へ]をクリックする。



ご注意

[同意しません]の◯をクリックすると、Windowsの準備作業は中止され、Windowsと本機に付属のソフトウェアはお使いになれません。

「コンピュータに名前を付けてください」画面が表示されます。

3 必要な場合はコンピュータ名を変更し、[次へ]をクリックする。

コンピュータ名は、本機をネットワークに接続して使用する場合にコンピュータを識別するために必要です。「このコンピュータの名前」の欄に自動的に表示されますが、必要な場合は認識しやすい名前に変更してください。
また、コンピュータにわかりやすい説明をつけることもできます。その場合は「コンピュータの説明」欄に入力してから[次へ]をクリックしてください。

Windows XP Home Edition搭載モデルをお使いの場合は、手順6へ進んでください。

4 「管理者パスワードを設定してください」画面が表示されたら、「管理者パスワード」と「パスワードの確認入力」の欄にパスワードを入力し、[次へ]をクリックする。

5 「このコンピュータをドメインに参加させますか？」画面が表示されたら、ネットワーク環境に合わせて設定し、[次へ]をクリックする。

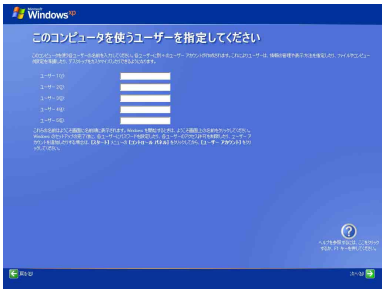
6 「インターネットに接続する方法を指定してください。」または「インターネット接続が選択されませんでした。」画面が表示されたら、[省略]をクリックする。

「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」画面が表示されます。

「インターネットに接続する方法を指定してください。」画面でお使いのデバイスの◯をクリックして[次へ]をクリックすると、デバイスによってはインターネットへ接続するための設定画面が表示されます。
その場合は画面の指示に従って操作してください。
また、インターネットに接続するための設定は、Windowsのセットアップ完了後にも行うことができます。詳しくは「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

7 [いいえ、今回はユーザー登録しません]の◯をクリックして◉にし、[次へ]をクリックする。

「このコンピュータを使うユーザーを指定してください」画面が表示されます。



「Microsoftにユーザー登録する準備はできましたか？」画面で、[はい、今すぐユーザー登録します]を選んで[次へ]をクリックすると、マイクロソフトへのオンライン登録ができます。ただし、オンライン登録するには本機を電話回線に接続しておく必要があります。
インターネットに接続するための設定について詳しくは「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

8 ユーザーの名前を入力し、[次へ]をクリックする。

複数のユーザーを入力した場合、ここで入力した名前は、本機の電源を入れたときに表示される「ようこそ」画面に表示されます。Windowsを起動するときは、表示された名前をクリックします。
Windowsのセットアップ完了後に、使用するユーザーを追加したり、設定を変更することもできます。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の できるWindows をクリックして表示される情報をご覧ください。
「設定が完了しました」画面が表示されます。

9 [完了]をクリックする。

これでWindowsが使えるようになりました。
引き続きいろいろな操作をするためには、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックして表示される情報をご覧ください。
電源の切りかたについて詳しくは、「電源を切る」(44ページ)をご覧ください。

ご注意

- 本機に付属のOS(Operating System)以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。
- デスクトップ画面上にあるアイコンには、一定の期間使用しないと自動的にデスクトップ画面上から削除されるものがあります。Windowsの初回起動時から2週間後に、アイコンを削除するかどうかを確認する画面が表示されます。その後60日ごとに、使用していないデスクトップ画面上のアイコンが自動的に検索され、削除するかどうかを確認する画面が表示されます。デスクトップ画面上のアイコンを削除しても、ソフトウェア自体は削除されません。

本機を複数のユーザーで使えます

登録したユーザーごとに専用のデスクトップ画面やマイドキュメントが用意され、それぞれのユーザーが自分専用のコンピュータのように使用することができます。
複数のユーザーでのWindowsの使用について詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の できるWindows をクリックして表示される情報をご覧ください。

電源を切る

次の手順に従って、本機の電源を切ります。

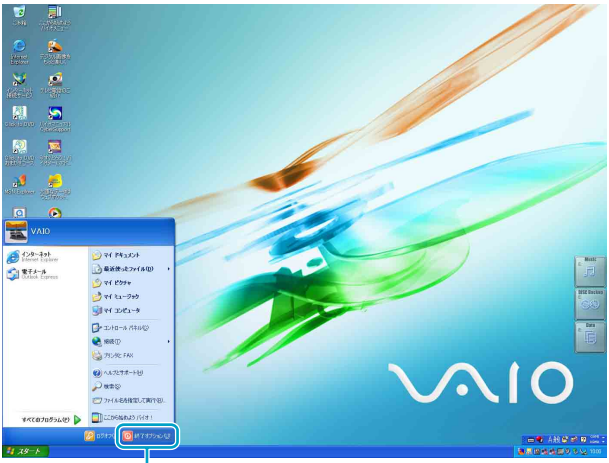
ご注意

必ず次の手順に従って電源を切ってください。手順に従って電源を切らないと本機の故障の原因となったり、作成した文書などのファイルが使えなくなることがあります。

1 [スタート]ボタンをクリックする。

「スタート」メニューが表示されます。

2 メニューの[終了オプション]をクリックする。



ここをクリックする。

「コンピュータの電源を切る」画面が表示されます。

3 [電源を切る]をクリックする。

ここをクリックする。

数秒後に本機の電源が自動的に切れ、⏻ (パワー)ランプ(グリーン)が消灯します。
液晶ディスプレイパネルを閉じるときは、⏻ (パワー)ランプが消灯したのを確認してから閉じてください。
これで、本機を使う上で必要な準備と操作はひととおり終わりました。

PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルをお使いの場合は、「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビを楽しむことができます。「テレビを楽しむ」(112ページ)の手順に従って、アンテナの接続や「Giga Pocket」ソフトウェアの地域設定などを行ってください。

カスタマー登録する

VAIOカスタマーご登録について

ソニーマーケティング株式会社およびソニー株式会社（以下、「ソニー」）はバイオをご所有のお客様へセキュリティ情報などの必要な情報をお知らせし、充実したサービス・サポートをご提供するために、「VAIOカスタマーご登録」を行っていただくことをおすすめしています。ご登録のメリットについては、VAIOホームページ（http://www.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。
また、出荷時点で付属する保証書が提供する製品の保証期間はお買い上げ時から3か月間です。
ご登録を行っていただくことで、カスタマー専用デスクから、ご購入日より1年間有効な保証書と「My Sony ID」と「お客様サポート番号」を記したご登録証「VAIO Customer's Card」をお送りします。
なお、保証について詳しくは「保証書とアフターサービス」（202ページ）をご覧ください。

VAIOカスタマーご登録に関するお問い合わせ先

カスタマー専用デスク
電話番号：0466-38-1410
受付時間：月～金 10時～18時（土日祝日、年末年始を除く）
通話料はお客様のご負担となりますのであらかじめご了承ください。

VAIOカスタマーご登録の方法

電話回線を通じて手軽にご登録が行えます。

- 付属の「VAIOカスタマー登録・保証書お申込書」にご記入の上、郵送いただくことでもご登録を行えます。
  付属の「VAIOカスタマー登録・保証書お申込書」を使ってお申し込みいただく場合は、「VAIOカスタマーID」を記したご登録証「VAIO Customer's Card」をお送りします。その後、次の手順に従って、「My Sony ID」を取得することができます。
- 次の場合を除き、ソニーがお客様の同意なく登録内容を外部へ開示することはありません。ただし、お客様個人を特定できない統計情報はこの限りではありません。
  1) お客様にお知らせした使用目的のために、業務を委託する協力会社に開示が必要な場合。(ソニーは、当該協力会社に対して、お客様の情報の厳重な管理と使用目的の遵守を徹底します。)
  2) 司法機関または行政機関から法的義務を伴う要請を受けた場合。
- VAIOカスタマーご登録は、本機の再セットアップをしたあとなどに再び行う必要はありません。住所などのご登録内容の変更を行うときは、VAIOホームページ内(http://www.vaio.sony.co.jp/)のページ上で、変更手続きが行えます。また、[スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[VAIO オンラインカスタマー登録]をクリックして変更手続きを行うこともできます。
- 13才より小さいおこさまは、ほごしゃのかたといっしょにとうろくしてください。

ご注意

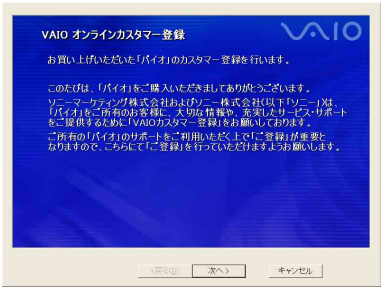
- VAIOオンラインカスタマーご登録は、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみ行うことができます。
- VAIOオンラインカスタマーご登録にご使用いただく電話回線は一般電話回線だけでなく、ISDN回線にも対応しています。ISDN回線をお使いになる場合は、本機の (USB)コネクタとターミナルアダプタのUSBコネクタをつないでください。(77ページ)
  ISDN回線やターミナルアダプタについて詳しくは、NTT(局番なしの116番)またはターミナルアダプタの製造元にお問い合わせください。

1 電話回線につなぐ。

73ページの手順に従ってつなぎます。

2 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[VAIO オンラインカスタマー登録]をクリックする。

「VAIO オンラインカスタマー登録」画面が表示されます。



カスタマー登録をしない、または後でするときは、[キャンセル]をクリックして表示される画面で[終了]をクリックすると、「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。インターネットに接続する設定を行うときは、画面の指示に従って操作してください。インターネットを利用しない、または後で入会手続きを行う場合は、[キャンセル]をクリックします。
インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

3 [次へ]をクリックする。

「登録手順について」画面が表示されます。

1つ前の画面を見たいときは、[戻る]をクリックします。

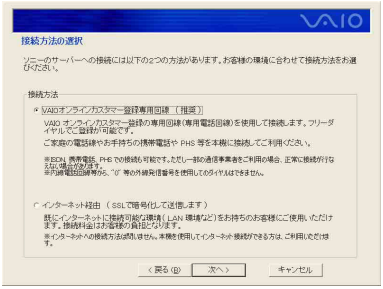
4 [次へ]をクリックする。

「ID・パスワードの入力」画面が表示されます。

本機を含めてバイオをすでに2台以上お持ちの方など、すでに「VAIOカスタマーID」や「My Sony ID」をお持ちの方はIDを入力し、画面の指示に従って操作してください。

5 **[次へ]をクリックする。**

「接続方法の選択」画面が表示されます。



6 **「VAIOオンラインカスタマー登録専用回線」の○をクリックして◉にし、[次へ]をクリックする。**

「発信方式の設定」画面が表示されます。

ご注意

- 外線発信（0発信）はできません。
- 「インターネット経由」を選んでご登録いただく場合、接続料金はお客様の負担となります。

ターミナルアダプタ、携帯電話、PHSなど、お使いになる通信機器によっては、正しく接続できないことがあります。この場合は、本機の（モジュラジャック）と一般電話回線をつなぎ（73ページ）、通信を行ってください。

- [次へ]をクリックすると、手順7に進む前に「接続デバイスの選択」画面が表示されることがあります。この場合は、通信に使う機器を選び、[次へ]をクリックしてください。
- 「インターネット経由」を選んで[次へ]をクリックしたときは、「インターネット経由の接続設定」画面が表示されますので、画面の指示に従って操作してください。
  また、LANの環境などによっては、「インターネット経由の接続設定」画面でプロキシの設定をする必要があります。プロキシの設定について詳しくは、各法人・団体様のシステム管理者におたずねください。

7 **お使いの電話回線の発信方式（ダイヤル方法）を選び、[次へ]をクリックする。**

ご注意

ターミナルアダプタ、携帯電話、PHSなど、お使いになる通信機器によっては、正しく接続できないことがあります。この場合は、本機の（モジュラジャック）と一般電話回線をつなぎ（73ページ）、通信を行ってください。

- 本機を一般電話回線につないでいるときのみトーン式／パルス式ダイヤルを選びます。
- トーン式ダイヤルとは
  電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしない電話機のダイヤル方法です。
- パルス式ダイヤルとは
  ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機のダイヤル方法です。
- お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、契約している電話会社へお問い合わせください。

8 **電話回線がつながっていることを確認し、[問い合せる]をクリックする。**

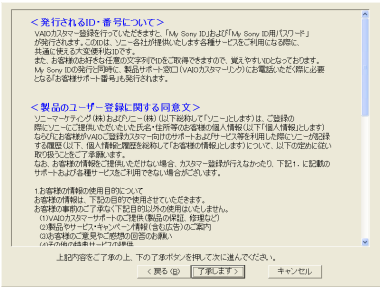
電話回線を通じて通信が行われ、完了すると「問い合せ完了」画面が表示されます。

9 **[次へ]をクリックする。**

「VAIO カスタマー登録の特典／VAIO カスタマー登録のご注意」画面が表示されます。

10 **[次へ]をクリックする。**

「発行されるID・番号について／製品のユーザー登録に関する同意文」画面が表示されます。



11 **スクロールバーの または をクリックして、画面に現れた内容をすべて読み、内容を了承するときは[了承します]をクリックする。**

「IDの規約の確認」画面が表示されます。

12 スクロールバーの ▲ または ▼ をクリックして、画面に現れた内容をすべて読み、内容に同意するときは[同意する]をクリックする。

「お客様氏名の入力」画面が表示されます。
画面の指示に従って操作してください。入力が完了すると、「希望するID・パスワードの入力」画面が表示されます。

ご注意

[同意しない]をクリックすると、「ここでこのアプリケーションを終了すると登録が完了しません。」というメッセージが表示されます。[終了]をクリックすると、「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。

- 「お客様氏名の入力」画面の「本機を登録される方」で「組織・団体に属するご担当者名での登録」を選んだときは、組織・団体用の情報を入力する画面が表示されます。
  画面の指示に従って情報を入力してください。
- 「お客様ご住所等の入力」画面の「郵便番号」はハイフンを除いて入力してください。
- 「お客様ご住所等の入力」画面で「郵便番号」を入力した後、[住所検索]をクリックすると、簡単に住所検索ができます。
- 「お客様ご住所等の入力」画面下部の「保証書等の送付先住所は上記と同様でよろしいですか？」の項目は必ず入力してください。

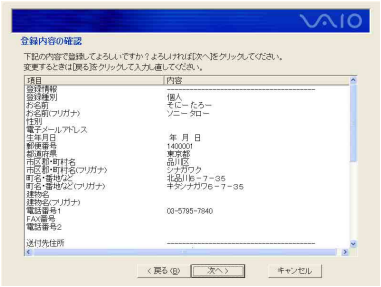
13 「My Sony ID」の「@」前にご希望の文字列、「My Sony ID用パスワード」、「パスワード初期化のための合言葉」を入力し、[次へ]をクリックする。

「製品情報の入力」画面が表示されます。
画面の指示に従って操作してください。入力が完了すると、「登録内容の確認」画面が表示されます。

ご注意

- 「My Sony ID用パスワード」は英字と数字を混ぜて入力してください。英字のみ、または数字のみのパスワードは設定できません。
- 「My Sony ID用パスワード」は「登録内容の確認」画面では表示されません。「My Sony ID用パスワード」を忘れないようご注意ください。

「パスワード初期化のための合言葉」は、「My Sony ID用パスワード」を忘れてしまったときに備え、あらかじめ設定しておいた質問と答えを使って、パスワードの初期化と再設定を行う機能です。



14 登録内容を確認し、[次へ]をクリックする。

「確認してください」画面が表示されます。

ご注意

ターミナルアダプタ、携帯電話、PHSなど、お使いになる通信機器によっては、正しく接続できないことがあります。この場合は、本機の（モジュラジャック）と一般電話回線をつなぎ（73ページ）、通信を行ってください。

15 [登録する]をクリックする。

登録内容が電話回線を通じて送られ、送信が終わると「登録完了」画面が表示されます。

16 [次へ]をクリックする。

「ご登録の完了」画面が表示されます。

「My Sony ID」と「お客様サポート番号」について

VAIO登録カスタマー向けのサービスをご利用の際には「My Sony ID」をお使いください。
VAIOカスタマーリンクへ電話でお問い合わせいただく際には「お客様サポート番号」をご使用ください。

ご注意

VAIOカスタマーリンクへ電話でお問い合わせいただく際に、「My Sony ID」はご使用できません。

「My Sony ID」と「お客様サポート番号」は、後日ソニーより「VAIO Customer's Card」「1年間保証書」などとともに郵送でお知らせいたします。なお、次の手順17、18の操作を行い、「My Sony ID」と「お客様サポート番号」の情報をファイルとして保存しておくことをおすすめします。

17 [ID と番号をファイルに保存する]をクリックする。

「名前を付けて保存」画面が表示されます。

18 ファイルに任意の名前を付け、[保存]をクリックする。

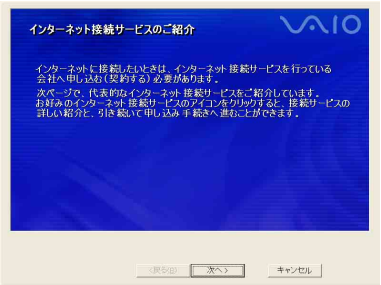
お客様の「My Sony ID」と「お客様サポート番号」の情報がファイルとして「マイ ドキュメント」フォルダの中に保存されます。

ご注意

保存されたデータを他人に見られたり、紛失しないようご注意ください。

19 [OK]をクリックする。

「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。



[OK]をクリックすると、サービス内容などをお知らせする画面が表示されることがあります。この場合は、[次へ]をクリックしてください。「インターネット接続サービスのご紹介」画面が表示されます。

これでVAIOオンラインカスタマー登録は終了です。引き続きインターネットに接続する設定を行うときは、画面の指示に従って操作してください。
インターネットを利用しない、または後で入会手続きを行う場合は、[キャンセル]をクリックします。
インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

VAIOカスタマーご登録が終わると、デスクトップ画面上に が表示されます。
このアイコンをダブルクリックすると、バイオに関するサービス・サポート情報やVAIOホームページのご案内などのお知らせを見ることができます。

VAIOカスタマー登録情報を変更するには

1 **[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[VAIO オンラインカスタマー登録]をクリックする。**

「お客様はすでにVAIOカスタマーに登録されています。・・・・・・」というメッセージが表示されます。

2 **[はい]をクリックする。**

「VAIO オンラインカスタマー登録」画面が表示されます。

3 **[次へ]をクリックする。**

「登録情報変更手順について」画面が表示されます。

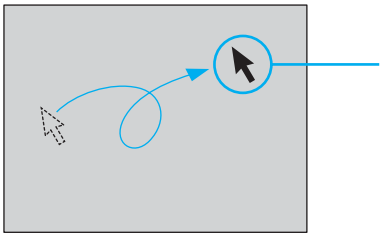
4 **[次へ]をクリックする。**

「My Sony ID、My Sony ID用パスワードの入力」画面が表示されます。画面の指示に従って操作し、登録内容を変更してください。

基本的な使いかた

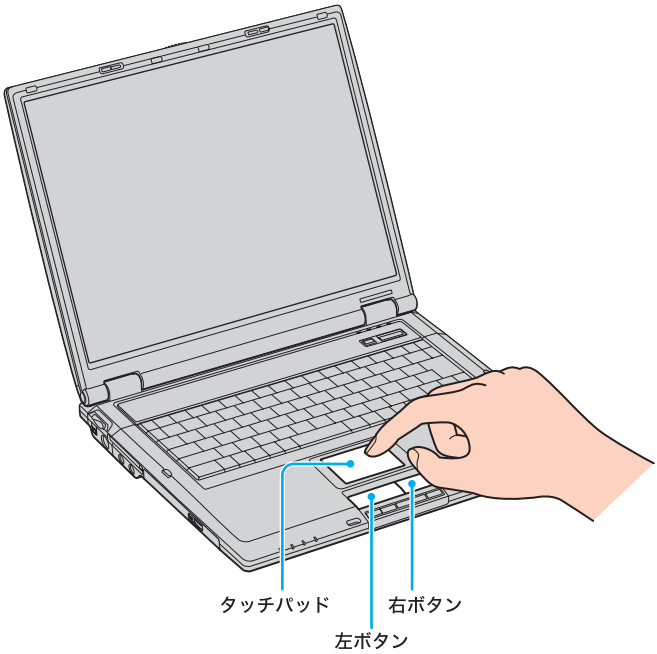
タッチパッドを使う

タッチパッドに触れて指を動かすと、画面上のポインタも同じ方向に移動します。



ポインタ
指の動きに合わせて移動します。

ポインタを目的の位置まで動かして左または右のボタンを押すだけで、メニューを選んだり、さまざまな命令をコンピュータに伝えることができます。



クリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、タッチパッドの手前にある左ボタンを1回押します。[OK]や[キャンセル]などのボタンを押したり、メニューを選ぶときなどに使います。
また、タッチパッドを指で1回軽くたたいても同じ働きをします。

ダブルクリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、左ボタンを2回続けて押します。
ワードプロセッサや表計算などのソフトウェアを実行したり、作成した文書などのファイルを開くときなどに使います。
また、タッチパッドを2回続けて軽くたたいても同じ働きをします。

右クリックする

ポインタを希望の位置に合わせて、右ボタンを1回押します。
押したときのポインタの位置によって、さまざまな内容のポップアップメニューが表示されます。

ドラッグする

ポインタを希望の位置に合わせて、左ボタンを押したまま、タッチパッド上で指を動かします。ファイルを移動したり、ウィンドウの大きさを変更するときなどに使います。
また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かしても同じ働きをします。

ドラッグアンドドロップする

ファイルなどのアイコンをドラッグし、他のフォルダやウィンドウ、ソフトウェアのアイコンなどの上で左ボタンを離します。ファイルを移動したり、コピーするときなどに使います。
また、タッチパッドを2回続けて軽くたたき、そのままタッチパッド上で指を動かしてアイコンなどの上で指を離しても同じ働きをします。

スクロールする

指をタッチパッド上の右端に合わせて、上下に動かします。選択されているウィンドウ上の垂直方向のスクロールバーを移動できます。
指をタッチパッドの右上または右下に置いたままにして、ウィンドウを上方向または下方向にスクロールし続けることができます。
また、指をタッチパッドの下端に合わせて、左右に動かします。選択されているウィンドウ上の水平方向のスクロールバーを移動できます。

上記は工場出荷時の設定です。設定を変更したり、タッチパッドをより便利に使うこともできます。

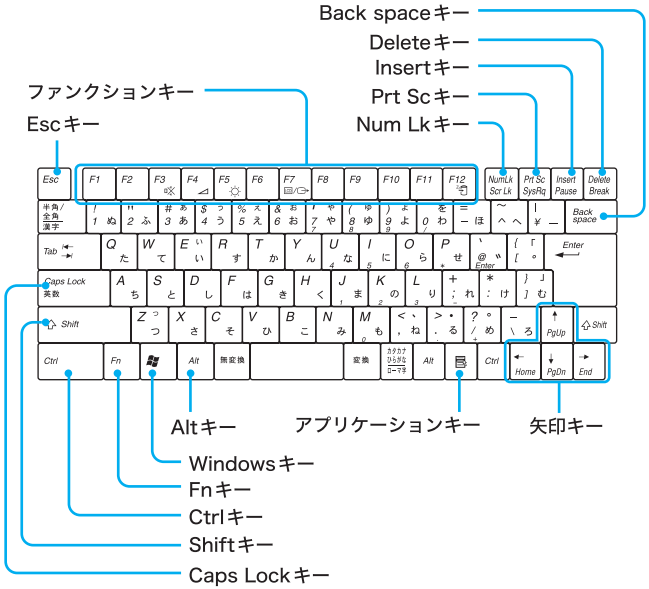
詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[タッチパッドをカスタマイズする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

キーボードを使う

キーボードを使って文字や記号を入力したり、コンピュータへ命令を送ることができます。ここでは、主なキーのなまえと機能を紹介します。
使用するソフトウェアによって働きが異なるものもあります。各ソフトウェアのヘルプもあわせてご覧ください。
文字の入力のしかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の できるWindows をクリックして表示される情報をご覧ください。

ご注意

- キートップがはずれてしまったら、「キートップがはずれた」(148ページ)をご覧になり、正しく取り付け直してください。
- キートップを故意にはずしたり、取り付けるときに無理に力を加えると故障や破損の原因となります。取り扱いにはご注意ください。

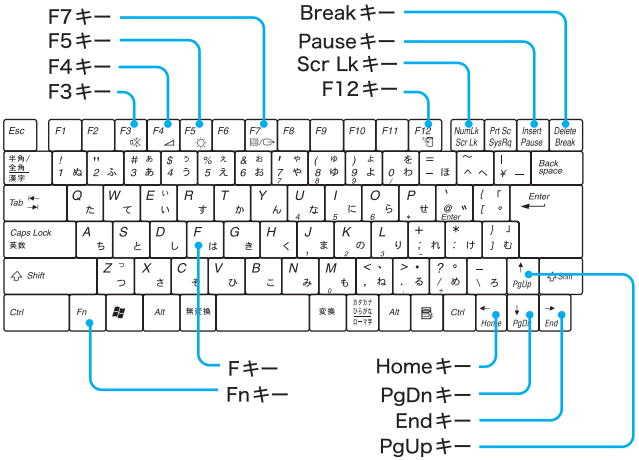


なまえ	機能
Esc(エスケープ)キー	設定を取り消したり、実行を中止するときなどに押します。
ファンクションキー	使用するソフトウェアによって働きが異なります。Fnキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。詳しくは、「Fnキーとの組み合わせ」(61ページ)をご覧ください。
Num Lk(ナムロック)キー	テンキーと組み合わせて使うと、数字を入力できます。Num Lkキーを押すと、キーボードの右上にある (Num Lock)ランプが点灯します。もう1度Num Lkキーを押すと、消灯します。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[各部の説明]→[キーボード]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
Prt Sc(プリントスクリーン)キー	表示されている画面全体をクリップボードに取り込みます。Altキーを押しながらこのキーを押すと、選択されているウィンドウだけを取り込みます。取り込んだ画像は「ペイント」などのソフトウェアで保存、加工、印刷できます。
Insert(インサート)キー	文字入力モードを切り替えます。文字を入力するとき、このキーを押すごとにカーソルの位置に文字を挿入するか、カーソルの位置から文字を上書きするか切り替えることができます。使用するソフトウェアによっては働かない場合があります。
Delete(デリート)キー	カーソルの右側の文字を消します。
Back space(バックスペース)キー	カーソルの左側の文字を消します。
矢印キー	カーソルを動かしたり、数ページにわたる画面の次ページまたは前ページを表示できます。
アプリケーションキー	タッチパッドの右ボタンを押したときと同じ働きをします。

なまえ	機能
Alt（オルト）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。オルタネートキーともいいます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
Windows（ウィンドウズ）キー	Windowsの［スタート］メニューが表示されます。他のキーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプおよび「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、［基本的な使いかた］→［キーボード／タッチパッドを使う］→［ショートカットキー一覧］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
Fn（エフエヌ）キー	キーボード上で紫色で表記されている機能を使うとき、このキーと組み合わせて押します。詳しくは、「Fnキーとの組み合わせ」（61ページ）をご覧ください。
Ctrl（コントロール）キー	文字キーなどと組み合わせて使うと、特定の機能を実行します。使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。 例）Ctrlキーを押しながら、Sキーを押す。 メニューから「保存する」を選ばずに、ファイルを保存できます。
Shift（シフト）キー	文字キーと組み合わせて使うと、大文字を入力できます。また、文字キーと他の機能キーと組み合わせて使うと、特定の機能を実行できます。
Caps Lock（キャプスロック）キー	Shift（シフト）キーを押しながらこのキーを押し、キーボードの右上にある A （Caps Lock）ランプが点灯しているときに、文字キーを押すと、アルファベットの大文字を入力できます。 もう1度、Shiftキーを押しながらこのキーを押すと、 A （Caps Lock）ランプが消え、アルファベットの小文字入力に戻ります。

ショートカットキー一覧

Fnキーとの組み合わせ



キー操作の表記

例：Fn＋ 🔇 (F3)→Fnキーを押しながらF3キーを押す。

組み合わせ	機能
Fn＋ 🔇 (F3)	スピーカーやヘッドホンの音声を入／切します。
Fn＋ 🔉 (F4)	スピーカーやヘッドホンの音量を調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ音量表示が表示されます。このときに↑または→キーを押すと大きくなり、↓または←キーを押すと小さくなります。
Fn＋ ☼ (F5)	液晶ディスプレイの明るさを調節できます。このコマンドを実行すると、数秒間だけ明るさ表示が表示されます。このときに↑または→キーを押すと明るい画像になり、↓または←キーを押すと暗い画像になります。

組み合わせ	機能
Fn＋ LCD / ⇨ (F7)	本機の MONITOR（モニタ）コネクタや ⇨（A/V OUT）コネクタに接続した外部ディスプレイやテレビなどと、本機の液晶ディスプレイの表示を切り替えます。 このコマンドを実行すると、数秒間だけ出力先表示が表示されます。 Fnキーを押しながらF7キーを押して、出力先表示を切り替えてください。 出力先表示は、Fnキーを押しながらF7キーを押すたびに切り替わります。 出力先表示は以下のように表示されます。 • 本体液晶：液晶ディスプレイのみに表示されます。 • 本体液晶＋外部モニタ（VGA）：液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示されます。* • 外部モニタ（VGA）：外部ディスプレイのみに表示されます。* • 本体液晶＋TV（VIDEO）：液晶ディスプレイとテレビに同時に表示されます。* • TV（VIDEO）：テレビのみに表示されます。* * 外部出力表示は、外部ディスプレイなどが接続されていないときは表示されません。 **ご注意** 動画再生中には、ディスプレイの切り替えは行わないでください。
Fn＋ Zz (F12)	本機の液晶ディスプレイやCPUだけでなく、ほとんどの電源供給を停止します（休止状態）。使用環境はハードディスクに書き込まれるので復帰後もそのまま作業ができ、電源オフからの起動よりも早く本機を使用できます。
Fn＋Scr Lk（スクロールロック）	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
Fn＋Pause（ポーズ）	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

組み合わせ	機能
Fn＋Break（ブレイク）	使用するソフトウェアによって働きが異なります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。
Fn＋PgUp（ページアップ）	現在表示している画面の前のページを表示します。
Fn＋End（エンド）	行の最後にカーソルを移動します。
Fn＋PgDn（ページダウン）	現在表示している画面の次のページを表示します。
Fn＋Home（ホーム）	行の先頭にカーソルを移動します。
Fn＋F	画面の解像度を液晶パネルの解像度より低くしているとき、液晶ディスプレイ表示の拡大／縮小を切り替えることができます。

Fnキーを5回押して「固定Fnキー機能」画面を表示し、[固定Fnキー機能を使用する]をチェックしてから[OK]をクリックすると、同時に2つのキーを押さずに、Fnキーと他のキーをそれぞれ押してこれらの操作を行うことができます。

Fnキーの固定を解除するには、通知領域の を右クリックし、[固定Fnキー機能を無効にする]をクリックします。

ご注意

Windows起動後でないと作動しないものがあります。

インターネットを始める

インターネット接続に必要なものは

世界中の情報に接することのできるインターネットですが、情報を受け取ったり、発信したりするためには専用のソフトウェアが必要になります。また、電話回線を通してインターネットにつなぐためにインターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。
インターネットに接続するために必要なものは以下のとおりです。

接続回線

インターネットに接続するための回線には、以下のような種類があります。接続について詳しくは、「一般電話回線／ADSL／ISDN／CATVインターネットに接続するには」（73ページ）をご覧ください。

回線の種類	解説
一般電話回線	通常の電話が使っている回線です。
ADSL	ADSLとは「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットへ常時接続できるサービスのことです。 **ご注意** • ADSL接続サービスの申し込み方法、料金、必要な機器とその接続方法について詳しくは、契約するADSL接続サービスを提供している接続業者にお問い合わせください。 • ISDN回線でADSLを利用することはできません。詳しくは、契約するADSL接続業者にお問い合わせください。
ISDN	NTTのデジタル通信網を使った回線で、1回線で従来の2回線が使えます。 ISDN回線をお使いになる場合は、NTT（局番なしの116番）にご相談ください。
CATVインターネット	CATV事業者が提供するCATVインターネット回線を利用してインターネットに常時接続できるサービスのことです。詳しくは、CATV事業者にお問い合わせください。

モデム

電子メールをやりとりしたり、インターネット上のホームページを見るためにインターネットに接続するための装置です。回線の種類によって、以下のようなものがあります。

回線の種類	モデムの種類
一般電話回線	モデム（本機内蔵）
ADSL	ADSL モデム（別売り）
ISDN	ISDNダイヤルアップルータ（別売り） または、ターミナルアダプタ（別売り）
CATVインターネット	ケーブルモデム（別売り）

ソフトウェア

インターネットに接続してホームページを見るには専用のソフトウェア（「ウェブブラウザ」と言います。）が必要です。また、電子メールをやりとりするにも専用のソフトウェアが必要です。本機には両方の専用ソフトウェアが付属しています。
本機には以下のウェブブラウザおよび電子メールソフトウェアが付属しています。

❑ ウェブブラウザ

Microsoft Internet Explorer

❑ 電子メールソフトウェア

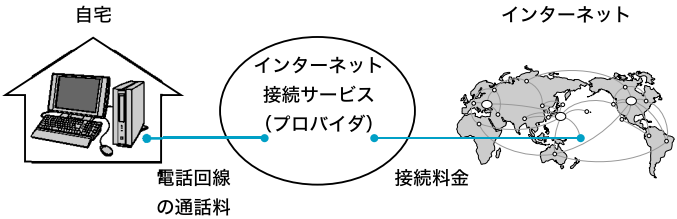
Outlook Express

この説明書では、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアと「Outlook Express」ソフトウェアの設定と使いかたを中心に説明していきます。
これらのソフトウェアの特長について詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の

をクリックし、[インターネット・メール]をクリックして、各ソフトウェアの紹介をご覧ください。

インターネット接続サービス(インターネットサービスプロバイダ:ISP)

インターネットにつなぐためには、インターネット接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。この会社のことを「インターネットサービスプロバイダ」(ISP)または単に「プロバイダ」と言います。(以下、「プロバイダ」と記します。)
プロバイダはインターネットと本機との間を仲介する役割を持っています。プロバイダと契約すると、インターネットを使って、いろいろな情報が載ったホームページを簡単に見ることができます。また、「電子メールアドレス」という、あなたの住所のようなものが契約時に用意されます。電子メールアドレスは、電子メールを送受信するときの宛先になります。これらの他に、契約するプロバイダによっていろいろなサービスがあります。
プロバイダと契約すると、サービスに応じた接続料金がかかります。また、プロバイダとの契約条件によっては、接続料金とは別に電話回線の通話料がかかることがあります。



ご注意

- 本機および付属ソフトウェアの設定によっては、本機の電源を切っている間でも、自動的にインターネットに接続することがあります。自動接続すると、接続を自動的に終了しないことがあります。この場合、通話料と接続料金が多額になる可能性がありますので、ご注意ください。
- インターネットに接続している間は、電話をかけたり、受けたりできないことがあります。

ワイヤレスLAN機能[*1]を使ってインターネットに接続する場合は、ワイヤレスLANアクセスポイント[*2]が必要です。
ワイヤレスLANアクセスポイントの設定については、ワイヤレスLANアクセスポイントに付属の取扱説明書をご覧ください。

[*1] ワイヤレスLAN機能搭載モデルをお使いの場合は、無線でインターネットに接続できます。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[拡張・接続/データのやりとり]→[ワイヤレスLAN対応機器とデータをやりとりする]→[ワイヤレスLANで通信する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
ワイヤレスLANを搭載していないモデルをお使いの場合は、ワイヤレスLANカードなどが必要です。ワイヤレスLANカードについて詳しくは、ワイヤレスLANカードに付属の取扱説明書をご覧ください。

[*2] ADSLモデムなどに内蔵されている場合もあります。

インターネット上のトラブルについて

現在一般に普及し、さまざまなサービスを提供しているインターネットですが、普及に伴いトラブルも発生しています。
インターネットは非常に便利なものですが、使いかたを誤ったり、安易な気持ちで使用すると思わぬトラブルにあう可能性があります。

インターネット上の情報について

インターネット上の情報はすべてが正しいとは限りません。
ひぼう・中傷・暴力・わいせつなど、情報を受ける側もモラルを持って情報を利用する必要があります。
また、情報を発信する場合もマナーを守って行わないと、気がつかないところで自分が加害者になる恐れもあります。
ユーザー名やパスワードなどは他人に知られないように管理してください。

コンピュータウイルスやチェーンメールなどの被害について

ホームページからダウンロードしたファイルや悪意を持った人たちから突然送られてくる電子メールには、コンピュータウイルス（コンピュータの動作に悪影響を与えるプログラム）が潜んでいたり、チェーンメールなどにより不快な内容の電子メールが送られてくることもあります。
不審な電子メールが送られてきた場合は、安易に開いたり、添付されているプログラムを実行せずに削除してください。
また、できるだけインターネットサービスプロバイダなどに報告して、自分が加害者にならないようにしましょう。

情報の機密性について

ソフトウェアやOSなどの不具合により、コンピュータの情報などがインターネット上にもれ出すことがあります。悪意を持った人たちの標的になりやすいため対応することが必要です。
ウェブブラウザやOSの各ソフトウェアの情報が、開発元のホームページなどに掲載されていますので、不具合情報をこまめに確認することをおすすめします。
また、電子メールには完全な機密性はありません。送信する内容にはご注意ください。

インターネットショッピングでのトラブル

インターネットショッピングをするときに、むやみにクレジットカードの番号を入力しないようにご注意ください。プライバシー情報がもれる可能性があります。

注文した品物と違う、代金を送金したのに品物が届かないなどのトラブルも発生しています。できるだけ信用のおけるところを利用するなどの注意が必要です。

その他

インターネット上で無料で公開されているソフトウェアの中には、国際電話やダイヤルQ2などに接続してしまうものもあります。

知らない間に接続し、課金されている場合がありますのでご注意ください。

- インターネット上での個人情報の公開には細心の注意を払いましょう。
- 社会的に犯罪とされているものはインターネット上でも犯罪です。

インターネットに接続するまでの流れ

インターネットを利用してホームページを見たり、電子メールをやりとりするには、本機をインターネットに接続する必要があります。
以下の流れに従ってインターネットに接続します。ここでは一般電話回線を使ってインターネットに接続する流れを説明します。詳しくは、各手順の参照ページをご覧ください。

ご注意

「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーのみインターネットに接続するための設定を行うことができます。

1 電話回線につなぎましょう（73ページ）

本機を電話回線につなぎます。

2 プロバイダと契約しましょう（79ページ）

プロバイダと契約します。契約すると、インターネット接続に必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。

3 チェックシートを作成しましょう（81ページ）

プロバイダから郵送されてきた資料をもとに、チェックシートを作成します。資料の内容など、インターネット接続の設定の際の不明点については、契約したプロバイダにお問い合わせください。（79ページ）

ご注意

郵送されてくるまでしばらく時間がかかります。

4 接続のための設定をしましょう(87ページ)

チェックシートをもとに、本機を使ってインターネットに接続するための設定をします。

5 電子メールソフトウェアの設定をしましょう(93ページ)

電子メールを使うときは電子メールを使うための設定をします。

6 インターネットに接続してみましょう(98ページ)

契約したプロバイダに接続します。

インターネットに接続したあとは

ホームページを見てみましょう(102ページ)

ホームページを見る練習をします。

電子メールをやりとりしてみましょう(107ページ)

電子メールをやりとりする練習をします。

一般電話回線／ADSL／ISDN／CATV インターネットに接続するには

インターネットに接続するには、一般の電話回線に接続する方法や、ADSLに接続する方法などがあります。ここでは、一般の電話回線での接続方法と、ADSL（76ページ）、ISDN（77ページ）、CATVインターネット（78ページ）での機器の接続について説明します。

一般の電話回線につなぐときは

別売りのテレホンコードを使って本機と一般の電話回線をつなぐと、インターネットを楽しんだり、ファックスを送受信できるようになります。
本機の内蔵モデムの通信速度は、データ受信時最大56 kbpsです。データ送信時は最大33.6 kbpsに制限されています。電話回線の状況によって通信速度は変化することがあります。

ご注意

- 本機の内蔵モデムで使用可能な回線は、一般電話回線です。その他の回線に接続した場合には、故障・発火の原因となることがあります。
- 会社やホテルなどのPBX回線に接続する場合は、本機の内蔵モデムに対応している回線かどうかを、回線管理者やホテルのフロントなどにお問い合わせください。
- 分配器を使用して電話回線を分岐すると、モデムおよび接続先の機器が正しく動作しないことがあります。なお、屋内配線の中には分配器経由で各部屋に配線されている場合があります。

1 お使いの電話回線のダイヤル方法（トーン式またはパルス式）を確認する。

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」という音がしないときはトーン式ダイヤルです。ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」という音がする電話機は、パルス式ダイヤルです。

2 モデムのダイヤル方法を設定する。

①[スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。

②[プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。

③[電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

④設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。

「所在地の編集」画面が表示されます。

該当する所在地がないときは[新規]をクリックしてください。「新しい所在地」画面が表示されます。

⑤手順1で確認したお使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて[トーン]または[パルス]を選択する。

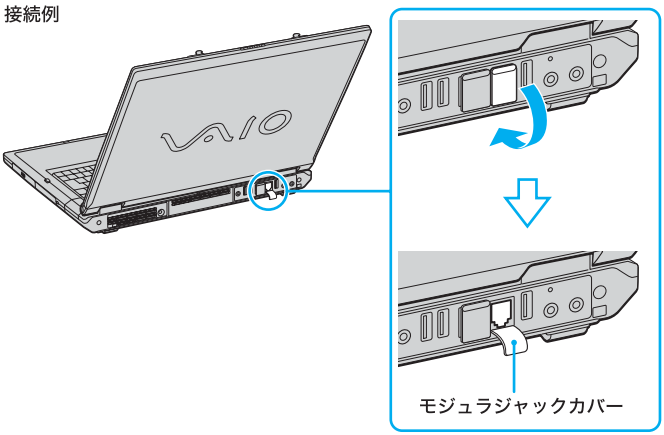
⑥ダイヤル元の市外局番を半角の数字で入力する。

外線発信番号が必要な場合は、「市内通話の場合の外線発信番号」と「市外電話の場合の外線発信番号」ともに入力してください。

⑦[OK]をクリックし、「所在地の編集」画面を閉じる。

⑧[OK]をクリックし、「電話とモデムのオプション」画面を閉じる。

3 モジュラジャックカバーを開ける。

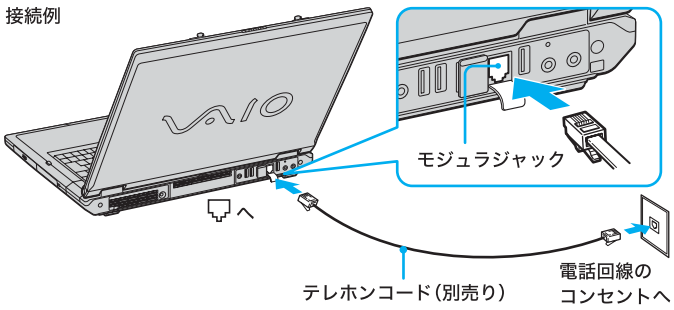


ご注意

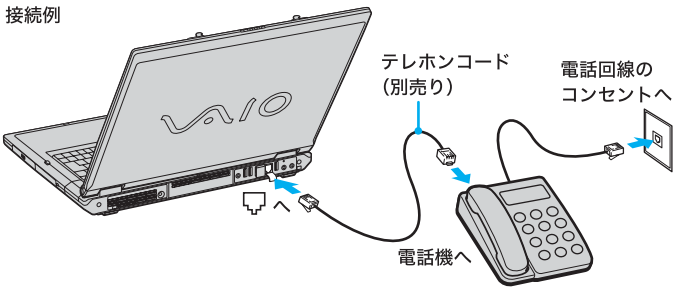
カバーを開く際は、強く引っ張りすぎないようにご注意ください。
引っ張りすぎると破損の原因となります。

4 電話回線につなぐ。

モジュラプラグのツメが「カチッ」とロックするまでまっすぐに差し込みます。



モジュラジャックが2つある電話機をお使いのときは、下図のようにつなぎます。

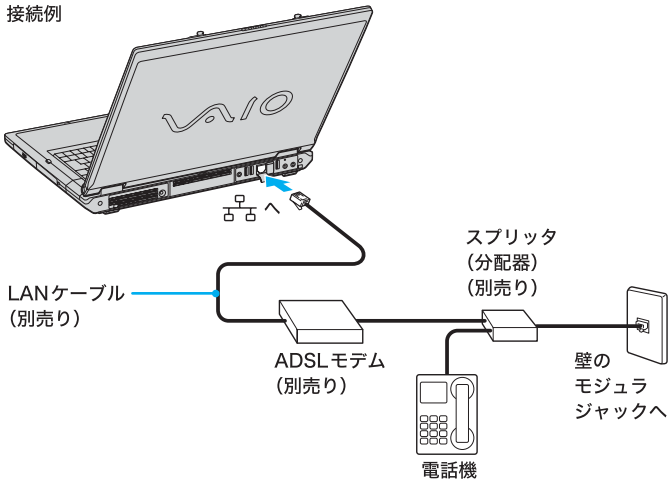


ご注意

- 接続後、お使いになる通信用ソフトウェアで、電話機やファックス、通信方法などの設定をする必要があります。詳しくは、それぞれのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
- 接続する機器によってこの接続例とは異なる場合があります。
- 本機後面の（ネットワーク/LAN）コネクタにテレホンコードを接続しないようご注意ください。

ADSL接続サービスを利用するときは

ADSLとは、「Asymmetric Digital Subscriber Line」の略で、一般電話回線を利用してインターネットに常時接続できるサービスです。このサービスを利用するには、ADSL接続サービスを提供している接続業者（プロバイダ）と契約し、申し込むことが必要です。料金やサービスの内容をご検討のうえ、ご自分にあったプロバイダと契約することをおすすめします。
プロバイダとの契約については「プロバイダと契約する」（79ページ）をご覧ください。



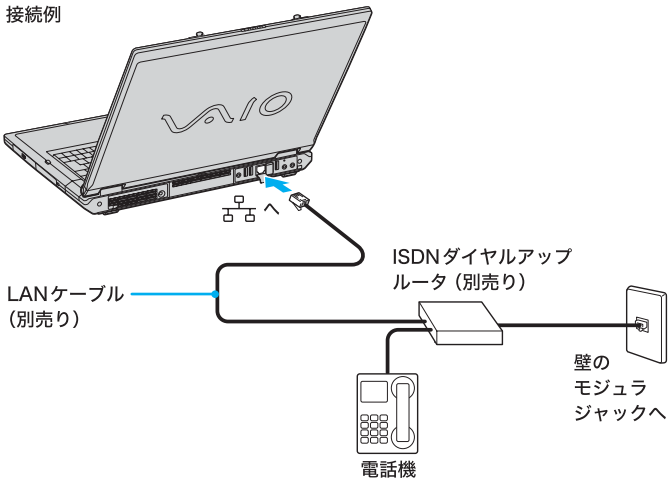
ご注意

- **ADSLの接続や設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。**
  各プロバイダのお問い合わせについては「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」（214ページ）をご覧ください。
- プロバイダや接続する機器によってこの接続例とは異なる場合があります。

ISDN回線を利用するときは

「ISDN回線」とはNTTのデジタル通信網を使った電話回線で、1回線で従来の2回線が使えます。ISDN回線を使って本機を使用するには、本機の他に「ISDNダイヤルアップルータ」や「ターミナルアダプタ」が必要です。

接続例



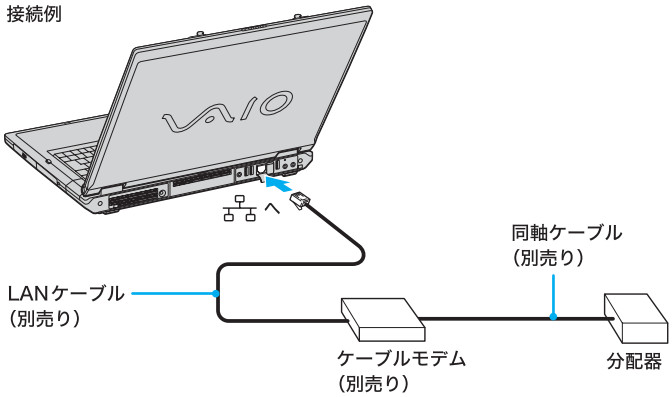
ご注意

接続する機器によってこの接続例とは異なる場合があります。

CATVインターネット回線を利用するときは

CATVインターネットとは、CATV事業者が提供するCATVインターネット回線を利用してインターネットに常時接続できるサービスのことです。CATVインターネット回線を使って本機を使用するためには、本機の他に「ケーブルモデム」が必要です。

接続例



ご注意

CATV事業者や接続する機器によってこの接続例とは異なる場合があります。

プロバイダと契約する

インターネットに接続するには、インターネット接続サービスを提供する会社「プロバイダ」と契約する必要があります。数多くのプロバイダがありますので、料金やサービスの内容をご検討のうえ、ご自分にあったプロバイダと契約することをおすすめします。
本機では、デスクトップ画面上の[インターネット新規ご入会]アイコンをダブルクリックし、表示される画面からプロバイダと契約することができます。各プロバイダのアイコンをクリックし、料金やサービス内容をご確認のうえ、お申し込みください。

- デスクトップ画面上の[インターネット新規ご入会]アイコンをダブルクリックしたあとに、特定のプロバイダの紹介画面が最初に表示されます。その他のプロバイダの紹介をご覧になるときは、現在のネットワーク環境に応じて[その他のインターネット接続サービスご紹介(モデム・電話回線経由)]または[その他のインターネット接続サービスご紹介(インターネット経由)]をクリックしてください。
- 各プロバイダの紹介は「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(214ページ)をご覧ください。

ご注意

- 契約時にクレジットカードが必要になるプロバイダもあります。
- 接続料金はプロバイダにより異なります。

プロバイダと契約したあとは

契約後は、契約内容とインターネットに接続するために必要な情報が記載された資料が、プロバイダからお手元に郵送されてくるまでお待ちください。すぐにインターネットに接続したいときは、契約するプロバイダにご相談ください。

ご注意

接続や設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。
各プロバイダのお問い合わせについては「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(214ページ)をご覧ください。

VAIO Solution Partnerについて

以下のネットワークサービス各社は「VAIO Solution Partner」として、「With You Call」「VAIO Media」に、より適した接続サービスメニューを提供しています。(2003年3月末日現在の参加予定ネットワーク接続サービス、アルファベット順)

- @nifty(ニフティ株式会社)
- BIGLOBE(日本電気株式会社)
- DION(KDDI株式会社)
- ホットスポット(NTTコミュニケーションズ株式会社)
- ODN(日本テレコム株式会社)
- ぷらら(株式会社ぷららネットワークス)
- So-net(ソニーコミュニケーションネットワーク株式会社)

チェックシートを作成する

プロバイダと契約を結ぶと、通常、インターネットに接続するために必要な情報が記載された資料が郵送されてきます。
その資料をもとにインターネットに接続するための設定をします。
プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になりながら、次ページのチェックシートをコピーするなどして、あらかじめ作成しておくと、「接続のための設定をする」(87ページ)および「電子メールソフトウェアの設定をする」(93ページ)の手順でインターネットに接続するための設定が簡単になります。
「設定項目について」(83ページ)からの説明に従ってチェックシートの各項目をご記入ください。

ご注意

- ADSLの接続や設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。
- チェックシートに書き込む内容は、あなたの個人情報です。取り扱いには充分ご注意ください。
- チェックシートは、将来、再度設定し直さなければならないときなどにも活用できますので、チェックシートは大切に保管しておいてください。
- 他人にご自分のパスワードなどの情報がもれないようにご注意ください。パスワードは、他人に自分の名前を使われたり、電子メールを読まれたりしないようにするためのものです。できるだけ紙に書き留めず、記憶しておくことをおすすめします。
- 「(4)パスワード(PPP)」はプロバイダに電話回線を通じて接続できるようにするためのパスワードです。「(14)パスワード(POPアカウントパスワード)」は電子メールを受信できるようにするためのパスワードです。これらのパスワードは両方とも同じでも、別々でもかまいません(プロバイダによって、自由に設定できる場合と、プロバイダが規定する場合があります)。

- チェックシートをコピーするなどしたうえで各項目を記入し、他人に見られることがないように、厳重に保管することをおすすめします。
- チェックシートをコピーするなどして記入しておくと、「接続のための設定をする」(87ページ)の手順を行うときに便利です。

設定項目	あなたの設定値	例（So-netの場合）
(1) ダイヤルアップ接続名		So-net
(2) 電話番号 （アクセスポイント）		03-5792-6011
(3) ユーザー名（PPP）		ichiro@aa2
(4) パスワード（PPP）		
(5) 市外局番		03
(6) トーン／パルス （電話回線の種類）		
(7) DNSサーバーアドレス （プライマリDNS）	. . .	202.238.95.24
(8) 別のDNSサーバーアドレス （セカンダリDNS）	. . .	202.238.95.26
(9) 表示名 （差出人フィールドでの表示）		Ichiro Suzuki
(10) 電子メールアドレス	@	ichiro@aa2.so-net.ne.jp
(11) 受信メール （POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー		pop.aa2.so-net.ne.jp
(12) 送信メール（SMTP）サーバー		mail.aa2.so-net.ne.jp
(13) POPアカウント名		ichiro
(14) パスワード （POPアカウントパスワード）		
(15) インターネットメール アカウント名		ichiro@aa2.so-net.ne.jp

記入内容がわからないときは契約したプロバイダにお問い合わせください。

「(7)DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)」、「(8)別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)」、「(11)受信メール(POP3、IMAPまたはHTTP)サーバー」、「(12)送信メール(SMTP)サーバー」は、プロバイダによっては設定しなくてよいことがあります。

設定項目について

(1) ダイヤルアップ接続名

デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[接続]にポインタを合わせ、[すべての接続の表示]をクリックして表示される「ネットワーク接続」画面の中の接続アイコンの名前です。
お好みの名前をご記入ください。
例：So-net

- プロバイダによっては、オンラインサインアップソフトウェアを使って契約すると自動的に接続アイコンが作られ、名前も付けられます。
- 接続アイコンをデスクトップ画面上に作ることもできます。(89ページ)

(2) 電話番号(アクセスポイント)

プロバイダから送られてきた資料をご覧になり、プロバイダのアクセスポイントの電話番号(接続先の電話番号)をご記入ください。アクセスポイントは「V.90」に対応しているものをお選びになると、より高速な通信ができます。
例：03-5792-6011

ご注意

- ここで記入する電話番号はご自分の電話番号ではありませんのでご注意ください。
- 電話番号は必ず市外局番からご記入ください。
- ISDN回線をお使いの場合やPHSを使ってインターネットに接続するときは、電話番号が異なる場合があります。詳しくは、契約したプロバイダにお問い合わせください。

(3) ユーザー名(PPP)

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、プロバイダにダイヤルアップ接続するときに使用するユーザー名をご記入ください。
例：ichiro@aa2

ユーザー名は「ユーザーID」、「PPPログイン名」、「ネットワークID」、「接続ログイン名」、「アカウント名」、「ログオン名」などともいいます。

(4) パスワード(PPP)

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、プロバイダにダイヤルアップ接続するときに使用する、ユーザー名に対するパスワードを記入します。

- このパスワードは「PPPパスワード」、「ネットワークパスワード」、「接続パスワード」などともいいます。
- パスワードの入力は、一般的に半角の英数字や記号などを使います。

(5) 市外局番

ご自分の電話番号の市外局番をご記入ください。
例:03

(6) トーン/パルス(電話回線の種類)

お使いの電話回線のダイヤル方法がトーン式かパルス式か確認してご記入ください。

トーン式:

電話機のダイヤルボタンを押すと「ピポパ」と音がし、「カチカチ」と音がしない電話機のダイヤル方法です。

パルス式:

ボタンではなくダイヤルを回す電話機、またはダイヤルボタンを押すたびに「カチカチ」と音がする電話機のダイヤル方法です。パルス式ダイヤルの場合、ダイヤルボタンを押すと受話器から電子音が聞こえるものもあります。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、NTTなど電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線(基本)使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、NTT(局番なしの116番)など電話会社にお問い合わせください。

(7) DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、ご記入ください。
例:202.238.95.24

- DNSサーバーは「ネームサーバー」、「プライマリDNSサーバー」、「プライマリネームサーバー」、「ドメインネームサーバー」ともいいます。
- この項目が必要ないプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

(8) 別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)

前ページの「(7)DNSサーバーアドレス」以外のアドレスがプロバイダから郵送されてきた資料に書かれている場合はご記入ください。
DNSサーバーアドレスは1つだけのプロバイダもあります。この場合は、「(8)別のDNSサーバーアドレス」は空欄のままでかまいません。
例:202.238.95.26

(9) 表示名(差出人フィールドでの表示)

あなたが送る電子メールの差出人欄に表示する名前をお好みでご記入ください。通常はご自分の名前のフルネームにします。
例:Ichiro Suzuki

この表示名は全角の漢字でも良いですが、日本語圏以外の相手に電子メールを送ることが多いかたは半角のアルファベットにすることをおすすめします。こうすることによって電子メールを送った相手には「Ichiro Suzuki <ichiro@aa2.so-net.ne.jp>」などと表記されます。

(10) 電子メールアドレス

電子メールをやりとりするときのあなたの宛先をご記入ください。プロバイダから郵送されてきた資料には「xxxxx@xxxx.xx.xx」と記載されています。電子メールアドレスは、あなたの住所と同じ役割をします。
例:ichiro@aa2.so-net.ne.jp

電子メールアドレスは、「E-Mailアドレス」、「Mailアドレス」、「メールアドレス」などともいいます。

(11) 受信メール(POP3、IMAPまたはHTTP)サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを受け取るサーバーのアドレスをご記入ください。受信メールサーバーは、郵便局のような役割をします。受信メールサーバーからあなたの電子メールアドレスに電子メールが送られます。
例:pop.aa2.so-net.ne.jp

- 受信メールサーバーは、「メールサーバー」、「POPサーバー」、「メール受信サーバー」、「POP3」などともいいます。
- この項目が自動的に設定されるプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

(12) 送信メール(SMTP)サーバー

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、電子メールを送信するサーバーのアドレスをご記入ください。送信メールサーバーも郵便局のような役割をします。あなたが送った電子メールを受け取り、送り先の電子メールアドレスに送ります。

例:mail.aa2.so-net.ne.jp

- 送信メールサーバーは「メールサーバー」、「SMTPサーバー」、「メール送信サーバー」、「SMTP」などともいいます。「(11)受信メールサーバー」と同じ場合もあります。
- この項目が自動的に設定されるプロバイダもあります。詳しくは、プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になるか、契約したプロバイダにお問い合わせください。

(13) POPアカウント名

プロバイダから郵送されてきた資料をご覧になり、受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名をご記入ください。「(10)電子メールアドレス」の「@」(アットマーク)より前の部分を記入します。電子メールを見るためには、このアカウント名と「(14)パスワード」の両方が必要になります。

例:「ichiro@aa2.so-net.ne.jp」が電子メールアドレスなら、POPアカウント名は「ichiro」になります。

POPアカウント名は「メールアカウント名」、「メールサーバーログイン名」、「メールログイン名」、「POPサーバーアカウント」、「POPサーバーログイン名」ともいいます。「(3)ユーザー名」と同じ場合もあります。

(14) パスワード(POPアカウントパスワード)

受信メールサーバーにアクセスするためのアカウント名に対するパスワードを半角の英数字でご記入ください。

電子メールを見るためには、「(13)POPアカウント名」とこのパスワードの両方が必要になります。

このパスワードは、「メールパスワード」、「メールサーバーパスワード」などともいいます。

(15) インターネットメールアカウント名

お好みの名前をご記入ください。わかりやすいように電子メールアドレスを入れることをおすすめします。

例:ichiro@aa2.so-net.ne.jp

接続のための設定をする

本機をインターネットに接続するための設定を行います。ここでは、本機の内蔵モデムを使って一般電話回線に接続し、インターネットにダイヤルアップ接続するための設定方法を説明します。
「チェックシートを作成する」(81ページ)で作成したチェックシートをご覧になりながら、各項目に記入した内容を実際の画面の入力欄にキーボードを使って入力していきます。以下の手順に従って操作してください。

1 本機の電源を入れる。

2 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックし、[インターネット]をクリックする。

「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

接続のための設定が終わったあとは[スタート]→[インターネット]をクリックすると、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動するようになります。もう1度「新しい接続ウィザード」を表示させたいときは、デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[アクセサリ]、[通信]、[新しい接続ウィザード]の順にクリックします。

3 [次へ]をクリックする。

「ネットワーク接続の種類」画面が表示されます。

4 [インターネットに接続する]の ○ をクリックして ◉ にし、[次へ]をクリックする。

「準備」画面が表示されます。

5 2番目の[接続を手動でセットアップする]の ○ をクリックして ◉ にし、[次へ]をクリックする。

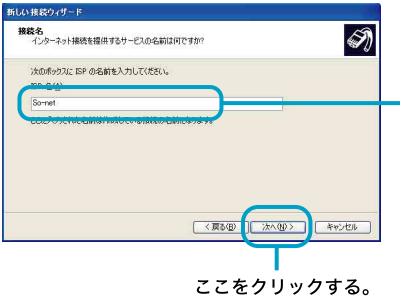
「インターネット接続」画面が表示されます。

Windows XPアップグレードサービスをご利用の場合など、すでにプロバイダのインターネットサーバーに接続したことがあるときは、[インターネットサービスプロバイダ(ISP)の一覧から選択する]の ○ をクリックして ◉ にし、[次へ]をクリックしてください。そのあとは、画面の指示に従って操作してください。

6 **[ダイヤルアップ モデムを使用して接続する]の ○ をクリックして ◉ にし、[次へ]をクリックする。**

「接続名」画面が表示されます。

7 **「ISP名」(ダイヤルアップ接続名)を入力し、[次へ]をクリックする。**

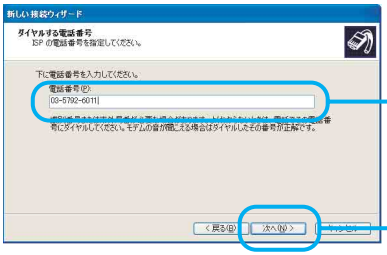


チェックシートの（1）ダイヤルアップ接続名を入力する。

ここをクリックする。

「ダイヤルする電話番号」画面が表示されます。

8 **アクセスポイントの電話番号を入力し、[次へ]をクリックする。**

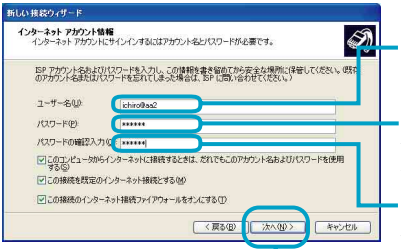


チェックシートの(2)電話番号(アクセスポイント)を入力する。

ここをクリックする。

「インターネットアカウント情報」画面が表示されます。

9 **ユーザー名とパスワードを入力し、「パスワードの確認入力」に同じパスワードを再度入力してから、[次へ]をクリックする。**



チェックシートの（3）ユーザー名（PPP）を入力する。

チェックシートの（4）パスワード（PPP）を入力する。

チェックシートの（4）パスワード（PPP）を再度入力する。

ここをクリックする。

「新しい接続ウィザードの完了」画面が表示されます。

「パスワード」はパスワードの文字数と同じ数の「*」で表示されます。

10[完了]をクリックする。

「新しい接続ウィザード」が終了します。

「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておくと、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。

11デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。

「コントロール パネル」画面が表示されます。

手順12および13の「コントロール パネル」画面での操作は、お買い上げ時の状態のものです。

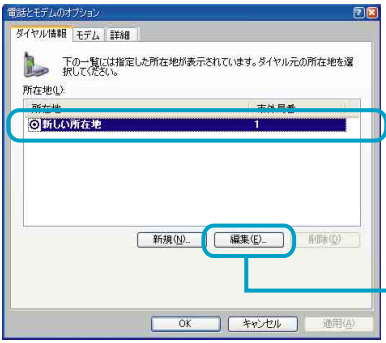
12[プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。

「プリンタとその他のハードウェア」画面が表示されます。

13[電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

14設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。

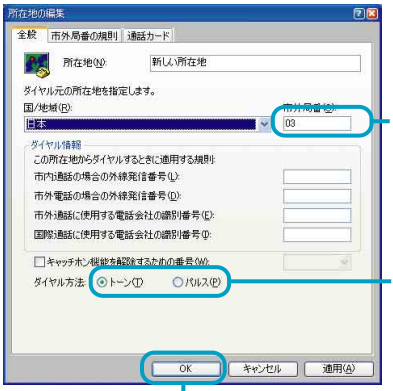


「所在地の編集」画面が表示されます。

該当する所在地がないときは[新規]をクリックしてください。「新しい所在地」画面が表示されます。

15 各項目を以下のように設定し、[OK]をクリックする。

- **市外局番**：ダイヤル元の市外局番を半角の数字で入力する。
  外線発信番号が必要な場合は、「市内通話の場合の外線発信番号」と「市外電話の場合の外線発信番号」ともに入力してください。
- **ダイヤル方法**：お使いの電話回線のダイヤル方法に合わせて[トーン]または[パルス]をクリックして選ぶ。



チェックシートの（5）
市外局番を入力する。

ここをクリックして選ぶ。
（チェックシート（6）
トーン/パルス
（電話回線の種類））

ここをクリックする。

16 「電話とモデムのオプション」画面の[OK]をクリックする。

17 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[接続]にポインタを合わせ、[すべての接続の表示]をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

以下の方法でも「ネットワーク接続」画面を表示することができます（お買い上げ時のウィンドウの設定の場合）。
デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。表示された「コントロール パネル」画面で[ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。表示された「ネットワークとインターネット接続」画面で[ネットワーク接続]アイコンをクリックする。

18 ダイヤルアップ接続（チェックシートの（1））のアイコンをダブルクリックする。

So-netの例では[So-net]をダブルクリックします。

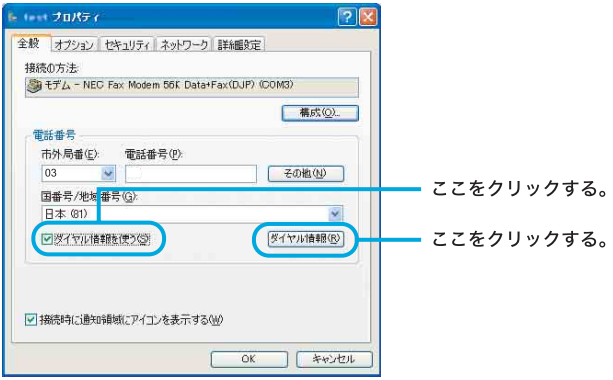
「So-netへ接続」画面が表示されます。

手順10で、「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておくと、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。これをダブルクリックして、手順19に進むこともできます。

19[プロパティ]をクリックする。

ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面が表示されます。

20[ダイヤル情報を使う]の ☐ をクリックして ☑ にし、[ダイヤル情報]をクリックする。



「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

21複数の所在地があるときは、「所在地」から設定されている所在地をクリックして選ぶ。

22「電話とモデムのオプション」画面の[OK]をクリックする。

手順23～26は、チェックシートに(7)DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)および(8)別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)を記入した場合(プロバイダから郵送されてきた資料にDNSサーバーアドレスが記入されている場合)のみ操作を行ってください。

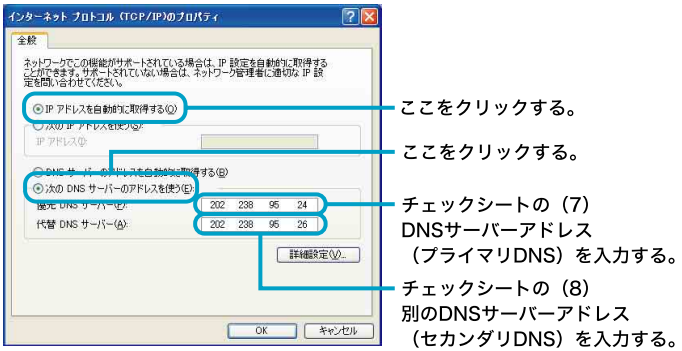
23[ネットワーク]タブをクリックする。

24「この接続は次の項目を使用します」で[インターネット プロトコル(TCP/IP)]をクリックし、[プロパティ]をクリックする。

「インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が表示されます。

25各項目を以下のように設定する。

- [IPアドレスを自動的に取得する]をクリックする。
- [次のDNSサーバーのアドレスを使う]をクリックし、DNSサーバーアドレスを入力する。



「(7) DNSサーバーアドレス(プライマリDNS)」と「(8) 別のDNSサーバーアドレス(セカンダリDNS)」は同じ場合があります。このときは「代替DNSサーバー」には入力する必要はありません。

26[OK]をクリックする。

「インターネット プロトコル(TCP/IP)のプロパティ」画面が閉じます。

27ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面で[OK]をクリックする。

ダイヤルアップ接続名のプロパティ画面が閉じます。

28「(ダイヤルアップ接続名)へ接続」画面で[キャンセル]をクリックする。

「(ダイヤルアップ接続名)へ接続」画面が閉じます。

これでインターネット接続のための設定は終わりです。

電子メールソフトウェアの設定をする

電子メールのやりとりを正しく行えるようにするための設定を行います。「チェックシートを作成する」(81ページ)で作成したチェックシートをご覧になりながら、各項目に記入した内容を実際の画面の入力欄にキーボードを使って入力していきます。以下の手順に従って操作してください。
ここでは、本機に付属の電子メールソフトウェア「Outlook Express」を例に電子メールをやりとりするための設定をしていきます。

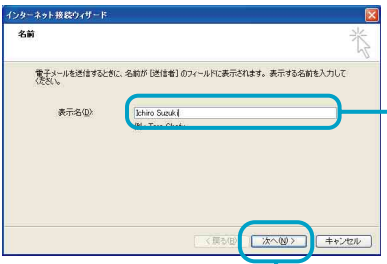
「Outlook Express」ソフトウェアの設定は1度行えば、2回目以降の起動時には不要です。

1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Outlook Express]をクリックする。

インターネット接続ウィザードの「名前」画面が表示されます。

- お使いの機種によっては、「名前」画面とは違う画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作し、手順2の画面まで進んでください。
- 電子メールソフトウェアの設定が終わったあとは[スタート]→[すべてのプログラム]→[Outlook Express]をクリックすると、「Outlook Express」ソフトウェアが起動するようになります。電子メールのアカウントを追加するなど、もう一度「インターネット接続ウィザード」を表示させたいときは、「Outlook Express」ソフトウェアを起動時に、画面上部の[ツール]をクリックし、[アカウント]をクリックします。表示される「インターネットアカウント」画面で[追加]→[メール]の順にクリックします。

2 表示したい名前を入力し、[次へ]をクリックする。

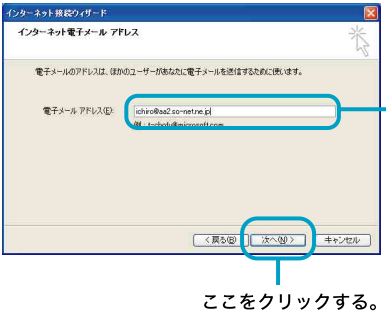


チェックシートの（9）表示名（差出人フィールドでの表示）を入力する。

ここをクリックする。

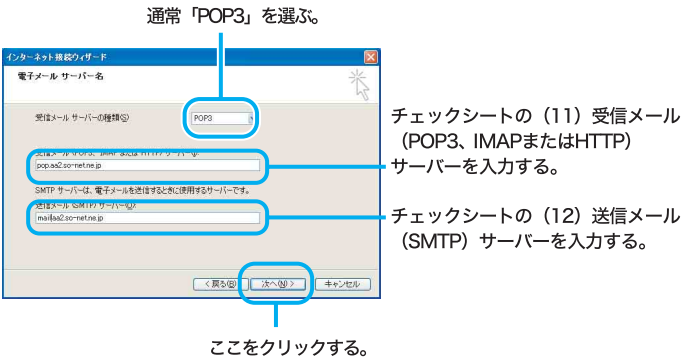
「インターネット電子メール アドレス」画面が表示されます。

3 「電子メールアドレス」に電子メールアドレスを入力して、[次へ]をクリックする。



「電子メール サーバー名」画面が表示されます。

4 受信メールサーバーと送信メールサーバーの名前を入力し、[次へ]をクリックする。

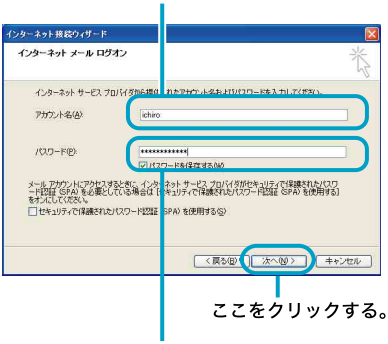


「インターネット メール ログオン」画面が表示されます。

「（11）受信メール（POP3、IMAPまたはHTTP）サーバー」の名前と「（12）送信メール（SMTP）サーバー」の名前は同じ場合があります。

5 アカウント名とパスワードを入力し、[次へ]をクリックする。

チェックシートの（13）POPアカウント名を入力する。



ここをクリックする。

チェックシートの（14）パスワード（POPアカウントパスワード）を入力する。

「設定完了」画面が表示されます。

- 「パスワード」は「*」で表示されます。
- 「パスワードを保存する」の ☐ をクリックして ☑ にすると、実際にインターネット接続するときの接続画面でパスワードを入力する手間が省けます。しかし、他人に勝手にインターネットに接続される恐れがありますのでご注意ください。

6 [完了]をクリックする。

自動的に「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。

ご注意

[完了]をクリックしたあと、その他の画面が表示されることがあります。この場合は、画面の指示に従って操作してください。

「Outlook Express」ソフトウェアで作成したメッセージは初期設定でHTML形式になります。HTML形式に対応していない電子メールソフトウェアを使っている相手にHTML形式のメッセージを送ると、相手側が正しく受け取れないことがあります。メッセージはテキスト形式で送ることをおすすめします。メッセージをテキスト形式で送るように設定するには、次の手順に従ってください。

①「Outlook Express」画面上部の[ツール]をクリックし、表示されるメニューから[オプション]をクリックする。
「オプション」画面が表示されます。

②[送信]タブをクリックする。
「送信」画面が表示されます。

③「メール送信の形式」で[テキスト形式]をクリックし、[OK]をクリックする。
送信するメッセージがテキスト形式になります。

電子メールをテキストのみで送りたいときも同様の設定でお使いください。

7 画面右上の (「閉じる」ボタン)をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

電子メールの設定を変更するには

チェックシートの「(15)インターネットメールアカウント名」は、下記の方法で変更できます。

1 「Outlook Express」画面上部の[ツール]をクリックする。

「ツール」メニューが表示されます。

2 [アカウント]をクリックする。

「インターネットアカウント」画面が表示されます。

3 [メール]タブをクリックする。

「メール」画面が表示されます。

4 [プロパティ]をクリックする。

プロパティ画面が表示されます。

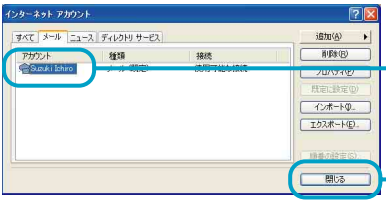
5 「メールアカウント」(「pop.aa2.so-net.ne.jp」が反転表示されている部分)を変更する。

ここでは「Suzuki Ichiro」と入力してみます。

ここを変更する。

6 [OK]をクリックする。

7 名前を変更した場合は、変更されているか確認して[閉じる]をクリックする。



ここが変更されているか確認する。

ここをクリックする。

8 「Outlook Express」画面で右上の(「閉じる」ボタン)をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

インターネットに接続する

契約したプロバイダのインターネットサーバーに一般電話回線を使用して接続するには、以下の手順に従って操作してください。

ご注意

ADSLの接続や設定に関しては、必ず各プロバイダにお問い合わせください。

各プロバイダのお問い合わせについては「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」の「ISP サインアップ」(214ページ)をご覧ください。

1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[接続]にポインタを合わせ、[すべての接続の表示]をクリックする。

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

以下の方法でも「ネットワーク接続」画面を表示することができます(お買い上げ時のウィンドウの設定の場合)。

①デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。

「コントロール パネル」画面が表示されます。

②[ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。

「ネットワークとインターネット接続」画面が表示されます。

③[ネットワーク接続]アイコンをクリックする。

2 ダイヤルアップ接続(チェックシートの(1))のアイコンをダブルクリックする。

So-netの例では[So-net]をダブルクリックします。

「So-netへ接続」画面が表示されます。

「接続のための設定をする」の手順10(89ページ)で、「新しい接続ウィザードの完了」画面の「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」にチェックしておくと、デスクトップ画面上にダイヤルアップ接続のアイコンが作られます。これをダブルクリックして、手順3に進むこともできます。

3 「So-netへ接続」画面の各項目を入力または確認する。

①パスワード（チェックシートの（4））を入力する。

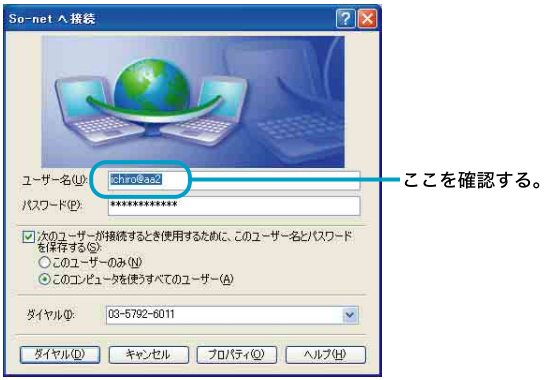
チェックシートの（4）パスワード（PPP）を入力する。

ご注意

「次のユーザーが接続するとき使用するために、このユーザー名とパスワードを保存する」の ☐ をクリックして ☑ に、「このユーザーのみ」の ◯ をクリックして ◉ にすると次回からパスワードを入力する手間が省けます。「このコンピュータを使うすべてのユーザー」の ◯ をクリックして ◉ にすると、他人に勝手にインターネットに接続される恐れがありますのでご注意ください。

- 「パスワード」（チェックシートの（4）パスワード（PPP））は「*」で表示されます。
- 「パスワード」入力欄は、「電子メールソフトウェアの設定をする」（93ページ）の手順5で、「パスワードを保存する」の ☐ をクリックして ☑ にすると、入力された状態で表示されます。

②ユーザー名(チェックシートの(3))が正しいか確認する。



③[ダイヤル]をクリックする。

プロバイダのインターネットサーバーに接続します。

「(ダイヤルアップ接続名)は現在接続しています。」画面が表示されたときは、[OK]をクリックします。

[OK]をクリックする前に[今後、このメッセージを表示しない]をチェックしておけば、次回からこの画面は表示されません。

デスクトップ画面右下には が表示されます。

これで、接続は完了です。

インターネットに接続しているときは、常にデスクトップ画面右下に が表示されます。

- ホームページを見るには
  「ホームページを見る」(102ページ)をご覧ください。
- 電子メールをやりとりするには
  「電子メールをやりとりする」(107ページ)をご覧ください。
- 接続を切断するときは
  「接続を切断するには」(101ページ)をご覧ください。
- 接続できなかった場合は
  「困ったときは:モデム・インターネット」(135ページ)をご覧ください。

接続を切断するには

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Microsoft Internet Explorer」や「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。操作を行わないときや操作が終わった後などは、インターネットの接続を切断してください。
接続を切断するには、以下の3つの方法があります。

- デスクトップ画面右下の を右クリックして表示されるメニューから[切断]をクリックする。
- デスクトップ画面右下の をダブルクリックして表示される「自動切断」画面で[今すぐ切断する]をクリックする。
- 通信用ソフトウェアで、通信を終了するコマンドを実行する。

- 電子メールを書いているときや電子メールを受け取った後に読むときは、インターネットの接続を切断しておけば接続料金はかかりません(オフライン作業)。
- ワイヤレスLAN機能などを同時に使用していると、デスクトップ画面右下の通知領域に が複数表示されます。
  アイコンにポインタを当てて接続しているアイコン名を確認してから切断してください。

ホームページを見る

インターネット上のホームページを見てみます。ホームページを見るには、「ウェブブラウザ」という専用ソフトウェアが必要です。ここでは、付属の「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを使ってホームページを見てみます。

以下の操作をする前に、デスクトップ画面右下の が表示されていることを確認してください。表示されていれば、インターネットに接続しています。インターネットに接続していない場合は、下記の操作を行うと、「新しい接続ウィザード」が起動します。「インターネットに接続する」(98ページ)の手順に従い、インターネットに接続し、 を表示させてください。

[1]「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動する

まず「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動します。

1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして、[インターネット]をクリックする。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが起動し、ホームページが表示されます。

ご注意

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを起動したときに表示されるホームページは各自の設定により異なります。設定のしかたについては、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

[2]「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見る

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアにあらかじめ登録されているホームページを見ることができます。ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページを見てみましょう。

1 **画面上部の[お気に入り]をクリックする。**

メニューが表示されます。

2 **[バイオを楽しむためのサイト]にポインタを合わせ、[VAIOホームページ]→[SUPPORT(サービス・サポート情報)]の順にクリックする。**

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

[3] ホームページのURLを入力してホームページを見る

見たいホームページのURLをすでにご存知の場合は、アドレスバーにそのURLを入力します。

ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページ(http://vcl.vaio.sony.co.jp/)を見てみます。

1 **アドレスバーに「http://vcl.vaio.sony.co.jp/」と入力する。**

「~」(チルダ)を入力するには

URLの中には「~」(チルダ)という特殊な記号を入力するものがあります。「~」(チルダ)を入力するには、MS-IMEツールバーで「半角英数」または「直接入力」を選び、Shift(シフト)キーを押しながら [~ ^^] キーを押します。

2 **キーボードのEnter(エンター)キーを押す。**

VAIOカスタマーリンクのホームページが表示されます。

[4] リンクをたどる

ホームページから他のホームページにジャンプしたり、データをインターネット上から本機にコピーすることができます。このように、ホームページから、他のページにジャンプしたり、データにジャンプすることを「リンクする」と言います。
ここでは、VAIOカスタマーリンクのホームページから、ENJOY VAIOのホームページにジャンプしてみましょう。

1 マウスやタッチパッドなどを使って (ポインタ)を[ENJOY VAIO]に移動して、 に変わったらクリックする。

ENJOY VAIOのホームページが表示されます。

ホームページの中で、 (ポインタ)が に変わる文字や画像は、リンクが張られているところです。

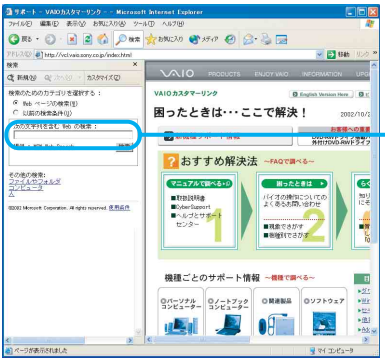
[5] 目的のホームページを検索して見る

目的のホームページを「検索」メニューで検索することができます。
ここでは「VAIO」を検索してみましょう。

1 ツールバーの[検索]をクリックする。

検索画面が表示されます。

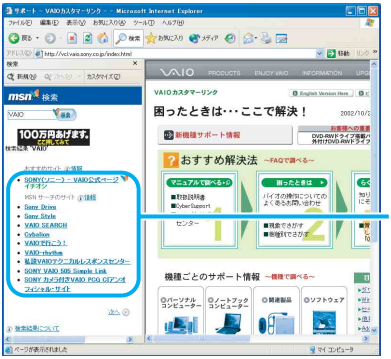
2 検索画面の中央上にある の中に「VAIO」と入力する。



3 [検索]をクリックする。

該当するホームページの検索結果が一覧表示されます。

4 見たいホームページをクリックする。



クリックしたホームページが表示されます。

[6] よく見るホームページを登録する

よく見るホームページを「お気に入り」メニューの中に登録することができます。
ここではSony online Japanのホームページを登録してみましょう。

Sony online Japanはインターネット上のソニーエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

1 アドレスバーに「http://www.sony.co.jp/」と入力する。

2 キーボードのEnter(エンター)キーを押す。

Sony online Japanのホームページが表示されます。

3 メニューバーの[お気に入り]をクリックし、次に[お気に入りに追加]をクリックする。

「お気に入りの追加」画面が表示されます。

4 「名前」に、登録するホームページを示すお好みの名前を入力し、[OK]をクリックする。

ここでは「Sony online Japan」と入力します。

Sony online Japanホームページが登録され、入力した名前が「お気に入り」メニューの中に表示されるようになります。

[7]「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了する

最後に「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了します。

1 画面左上の[ファイル]にポインタを合わせ、クリックする。

「ファイル」メニューが表示されます。

2 [閉じる]にポインタを合わせ、クリックする。

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアが終了します。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも、通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。ホームページを見ている間など、操作を行わないときや、操作が終わった後などは、インターネットへの接続を切断してください。(101ページ)

「Microsoft Internet Explorer」ソフトウェアについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。「Microsoft Internet Explorer」のヘルプを見るときは、「Microsoft Internet Explorer」画面上部の[ヘルプ]をクリックしてください。

電子メールをやりとりする

インターネットを使って、電子メールをやりとりできます。電子メールをやりとりするには、電子メールソフトウェアが必要です。
ここでは、付属の「Outlook Express」ソフトウェアを使って自分の電子メールアドレスに電子メールを送ったり、受け取ったりしてみます。

ご注意

電子メールをやりとりする手順は、インターネットへの接続やソフトウェアの設定によって変わることがあります。

[1]「Outlook Express」ソフトウェアを起動する

まず「Outlook Express」ソフトウェアを起動します。

1 デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Outlook Express]をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが起動します。
「ダイヤルアップの接続」画面が表示されたときは、[キャンセル]をクリックして画面を閉じてください。

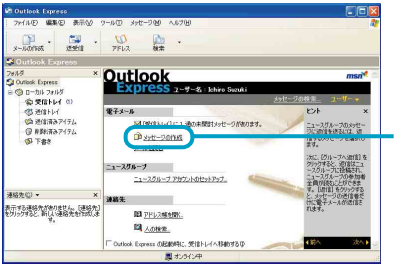
「ダイヤルアップの接続」画面で[キャンセル]をクリックするとオフライン作業となります。

[2] 電子メールを送信する

ためしに自分のメールアドレス宛に電子メールを送信してみましょう。

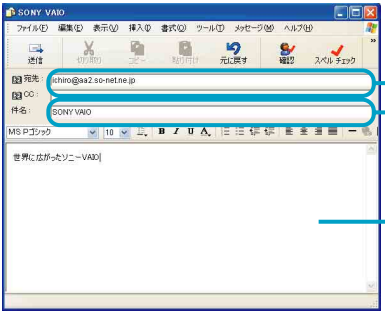
1 [メッセージの作成]をクリックする。

「メッセージの作成」画面が表示されます。



電子メールを書くときや電子メールを受け取った後に読むときは、インターネットに接続していない状態（オフライン作業）の方が接続料金と通話料がかからなくてすみます。

2 メッセージを作成する。



ここでは、メッセージに「世界中にひろがったソニーVAIO」と入れてみます。
タイトルは「SONY VAIO」にしましょう。

3 画面左上の[送信]をクリックする。

「(ダイヤルアップ接続名)に接続中」画面が表示されたのち、[接続]をクリックすると、作成した電子メールが送り先に送られます。

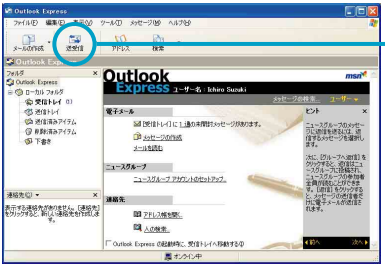
ご注意

オフライン(インターネットに接続していない状態)で[送信]をクリックした場合は、電子メールは送信トレイに保管されます。「Outlook Express」画面左上の[送受信]をクリックすると、電子メールが送り先へ送られます。

[3] 電子メールを受信する

手順[2]で送った自分のメールアドレス宛の電子メールを受信してみましょう。

1 インターネットに接続した状態で、画面左上の[送受信]をクリックする。



手順[2]で送った電子メールが届きます。

ご注意

オフライン(インターネットに接続していない状態)のときは、「オフライン作業しています。オンラインに切り替えますか？」というメッセージが表示されます。この場合は、[はい]をクリックしてください。

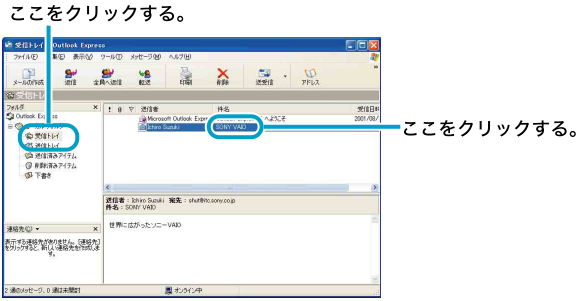
- 作成した電子メールが送信トレイにある場合は、同時に送り先に送られます。インターネットに接続していない場合は、「接続」画面が表示され、接続を促します。インターネットに接続したあとに電子メールが送受信されます。
- 電子メールの送受信のあと、ホームページを見たりしないときは、インターネットの接続を切断しましょう。(101ページ)

[4] 受け取った電子メールを見る

手順[3]で届いた電子メールを見てみます。

1 画面左側の[受信トレイ]をクリックし、[SONY VAIO]をクリックする。

受け取った電子メールのメッセージが表示されます。

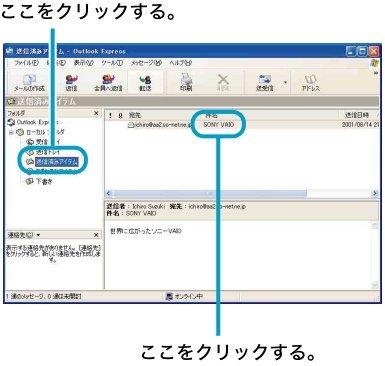


[5] 送った電子メールを見る

手順[2]で送った電子メールを見てみます。

1 画面左側の[送信済みアイテム]をクリックし、[SONY VAIO]をクリックする。

送った電子メールのメッセージが表示されます。



[6]「Outlook Express」ソフトウェアを終了する

最後に「Outlook Express」ソフトウェアを終了します。

1 画面左上の[ファイル]をクリックする。

「ファイル」メニューが表示されます。

2 [終了]をクリックする。

「Outlook Express」ソフトウェアが終了します。

ご注意

インターネットに接続している間は、ホームページを見たり、電子メールをやりとりするなどの操作を行っていないときでも、通話料やプロバイダへの接続料金がかかります。また、「Outlook Express」ソフトウェアを終了しても、インターネットへの接続は解除されません。ホームページを見ている間など、操作を行わないときや、操作が終わった後などは、インターネットへの接続を切断してください。(101ページ)

「Outlook Express」ソフトウェアについて詳しくは、ヘルプをご覧ください。「Outlook Express」のヘルプを見るときは、「Outlook Express」画面上部の[ヘルプ]をクリックしてください。

テレビを楽しむ

（PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ）

テレビを見るまでの流れ

付属の「Giga Pocket」ソフトウェアを使って、テレビを見たり、テレビ番組を録画することができます。
本機でテレビを見たり録画したりするには、次の流れに従って操作します。詳しくは、各手順の参照ページをご覧ください。

手順1 アンテナを接続する（115ページ）

本機の╖VHF/UHFコネクタと壁のアンテナコネクタを、付属のアンテナ接続ケーブルでつなぎます。

手順2 地域設定をする（119ページ）

はじめて「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見るときは、必ずチャンネルの地域設定を行ってください。

手順3 テレビを見る／録画する

上記の設定が終了したら、「Giga Pocket」ソフトウェアを起動してテレビを見たり、テレビ番組を録画できます。
「Giga Pocket」の使いかたについて詳しくは、「Giga Pocket」のヘルプをご覧ください。

画面の解像度などの設定を変更するときのご注意

画面の解像度、表示色数、リフレッシュレートをお買い上げ時の設定から変更した状態で「Giga Pocket」ソフトウェアを起動すると、「動画表示ハードウェアが他のアプリケーションで使用中です。動画を表示している他のアプリケーションを終了させてから、再度やり直してください。動画を表示している他のアプリケーションがない場合は、リフレッシュレートが高いなど画面の設定が不適切な可能性があります。」というメッセージが表示され、「Giga Pocket」ソフトウェアが起動しないことがあります。この場合は、画面の解像度、表示色数、リフレッシュレートをお買い上げ時の設定に戻してから、「Giga Pocket」ソフトウェアを起動してください。
ディスプレイの設定を変更する手順について詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[画面表示の設定を変更する]→[ディスプレイの設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

「Giga Pocket」ソフトウェアをお使いになるときのご注意

- ボリュームコントロールの設定を変更すると、テレビの録画や再生に支障をきたす場合があります。その際は、出荷時の音量設定に戻してください。(160ページ)
- 「Giga Pocket」ソフトウェアの画面サイズの「全画面表示」は、「ノーマル」のみに対応しています。
- 「Giga Pocket」ソフトウェアを起動しているときは、本機を再起動したり、スタンバイや休止状態へ移行することができません。再起動する場合などは、「Giga Pocket」ソフトウェアを終了してから行ってください。
- 録画予約中に休止状態にする場合は、必ずACアダプタをつないでください。

録画するときのご注意

- 「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアをお使いのときに、「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画をすると、正常に録画が行われない場合があります。正常に録画をするためには、「Norton AntiVirus 2003」のウイルススキャンの設定を変更することをおすすめします。
「Norton AntiVirus 2003」のウイルススキャンの設定を変更するには、次の手順に従って操作してください。なお、この設定は「Giga Pocket」ソフトウェアを一度起動して、チャンネル設定を行ったあとに行ってください。

ご注意

以下の設定を行うと、「Giga Pocket」ソフトウェアの録画先の保存フォルダや、ご自分で追加したフォルダのウイルスチェックが行われません。定期的に手動でウイルスチェックを行ってください。

1) [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Norton AntiVirus]の順にポインタを合わせ、[Norton AntiVirus 2003]をクリックする。
「Norton AntiVirus 2003」ソフトウェアが起動します。

2) 「Norton AntiVirus」画面上部の (オプション)をクリックする。
「Norton AntiVirus オプション」画面が表示されます。

3) 画面左側の「システム」の[Auto-Protect]→[除外]の順にクリックする。
画面右側に「Auto-Protect 除外リスト」が表示されます。

4) 「Auto-Protect 除外リスト」の「除外する項目」右側の[新規]をクリックする。
除外する項目を追加する画面が表示されます。

ご注意

「Giga Pocket」ソフトウェアで保存先のフォルダをご自分で追加した場合は、追加したフォルダも除外リストに追加してください。

5) [サブフォルダを含める]のチェックボックスをクリックしてチェックし、 をクリックする。
「フォルダの参照」画面が表示されます。

6) 「フォルダの参照」画面の[マイ コンピュータ]をクリックし[ローカルディスク(D:)]→[Giga Pocket V5]の順にダブルクリックする。

7) [OK]をクリックする。
手順4で表示された画面に「D:￥Giga Pocket V5」と表示されます。

8) [OK]をクリックする。

9) 「除外する項目」に「D:￥Giga Pocket V5」が追加されていることを確認し、[OK]をクリックする。

「Giga Pocket」ソフトウェアで保存先のフォルダをご自分で追加した場合は、手順4に戻り、追加したフォルダを除外リストに追加してください。

ご注意

この設定をすると、「Giga Pocket」ソフトウェアで録画されたファイルはウイルスチェックが行われません。

- 録画中に他のソフトウェアを起動したり、「Giga Pocket」以外のソフトウェアで録画されたビデオカプセルを再生すると、正常に録画されない場合があります。
- 録画開始時と録画停止時では、それぞれ数秒時間がかかります。録画開始時は、数秒早く「録画」をクリックしてください。

アンテナにつなぐ

本機でテレビを楽しむには、本機の╖VHF/UHFコネクタと壁のアンテナコネクタを接続します。
接続のしかたは場合によって異なりますので、ご自分の使用環境に合わせて接続してください。

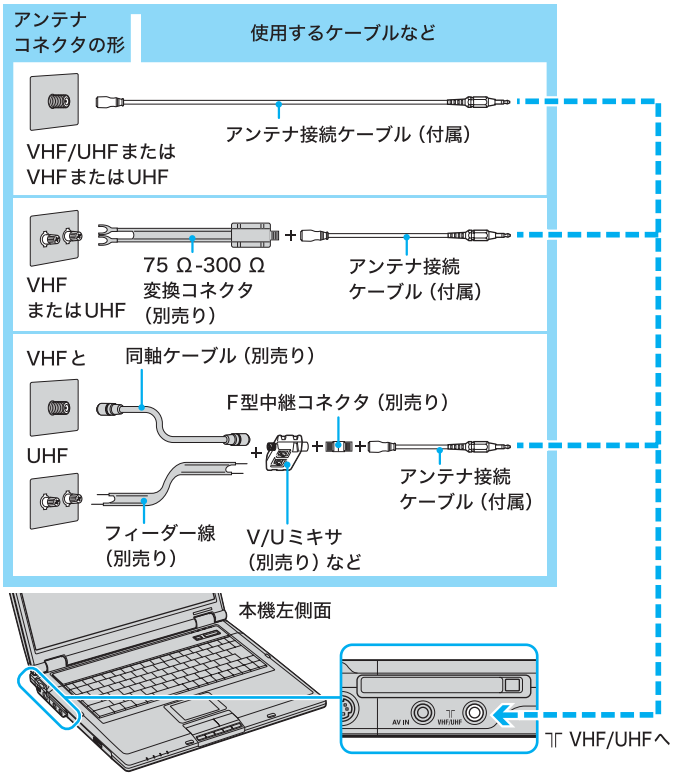
- 本機のみを壁のアンテナコネクタに接続する場合
- すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機を新たに接続する場合

ご注意

アンテナ接続ケーブルは、必ず本機の╖VHF/UHFコネクタに接続してください。

本機のみを壁のアンテナコネクタに接続する場合

テレビアンテナのつなぎかたは、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。下の例から最も近いものを選び、接続してください。
なお、いずれにも当てはまらない場合は、販売店にご相談ください。

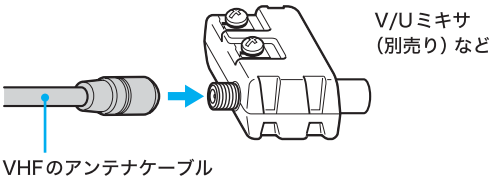


ご注意

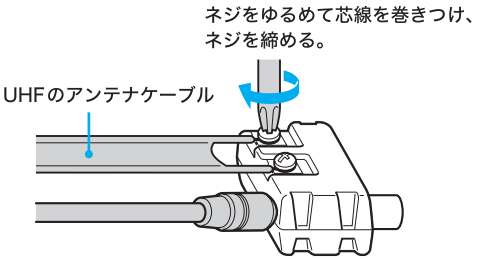
- フィーダー線は同軸ケーブルにくらべ雑音電波などの影響を受けやすく、信号が劣化します。できるだけ同軸ケーブルをご使用ください。
- フィーダー線をご使用になる場合は、本機からできるだけ離してください。
- フィーダー線をご使用になる場合は、長くなりすぎないようにご注意ください。

V/Uミキサをつなぐには

1 **VHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。**

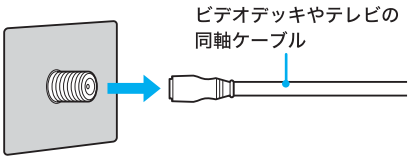


2 **UHFのアンテナケーブルをV/Uミキサにつなぐ。**



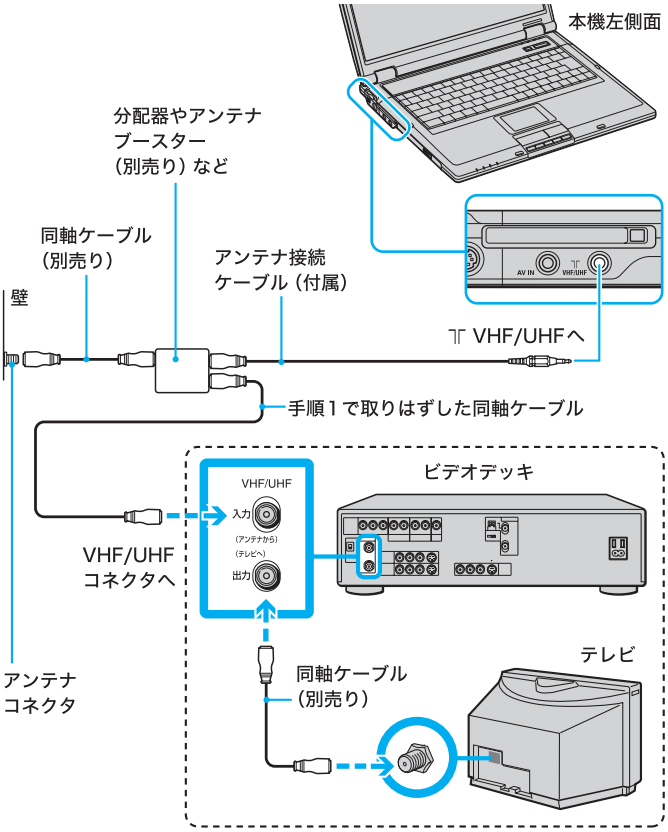
すでにビデオデッキやテレビが壁のアンテナコネクタに接続されており、本機を新たに接続する場合

1 **壁のアンテナコネクタに接続されているビデオデッキやテレビの同軸ケーブルを取りはずす。**



2 テレビアンテナを接続する。

別売りの分配器やアンテナブースターなどを使ってテレビアンテナを接続します。壁のアンテナコネクタと分配器やアンテナブースターのつなぎ方は、壁のアンテナコネクタの形や使用するケーブルによって異なります。「本機のみを壁のアンテナコネクタに接続する場合」(116ページ)から、最も近いものを選び接続してください。



点線内の接続について詳しくは、ビデオデッキまたはテレビの取扱説明書をご覧ください。

ビデオデッキをつなぐなど、テレビアンテナを分配すると電波が弱くなり、ディスプレイの画面がチラチラしたり、斜めじまが入ることがあります。この場合は、別売りのアンテナブースターをアンテナと本機の間につないでください。

テレビを見る準備をする

チャンネルの地域設定をするには

はじめて「Giga Pocket」ソフトウェアを使ってテレビを見るときには次の手順に従って、チャンネルの地域設定を行います。

ご注意

TVチューナーのセットアップウィザードを起動する場合は、コンピュータの管理者で行ってください。

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Giga Pocket]の順にポインタを合わせ、[Giga Pocket]をクリックする。

「TV チューナーのセットアップウィザード」画面が表示されます。

TVチューナーのセットアップウィザードは、[スタート]ボタン→[コントロール パネル]の順にクリックして「コントロール パネル」画面を表示させ、[プリンタとその他のハードウェア]→[TVチューナー]の順にクリックしても表示することができます。

2 本機を使用する都道府県および最も近い地域を選択する。

選択した都道府県と地域に合ったチャンネルが「チャンネルリスト」に表示されます。

3 [次へ]をクリックする。

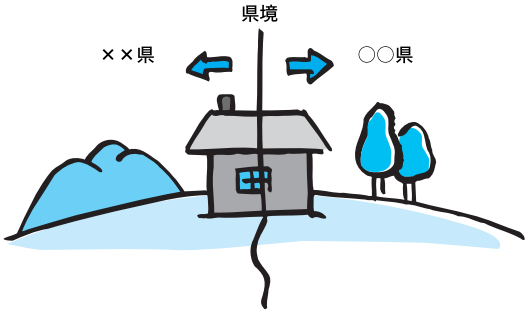
「TV チューナーのセットアップウィザード」の「チャンネルの自動検出」画面が表示されます。

4 [自動検出]をクリックする。

チャンネルの自動検出が始まり、受信中の映像が「Giga Pocket」ソフトウェアのモニターに表示されます。受信できたチャンネルには「チャンネルリスト」のチャンネル名の隣に「○」マークが表示されます。

ご注意

- チャンネルの自動検出を行う前に、本機がアンテナに接続されていることを確認してください。
- 県境でお使いの場合などは、お使いになる都道府県や地域を設定しても受信できないチャンネルがあることがあります。その場合は、[戻る]をクリックして隣接する都道府県や地域を設定するか、[追加]や[変更]をクリックして、手動でチャンネルを設定してください。
  設定方法は、「チャンネル設定を変更するには」の手順3以降と同じです。（121ページ）



5 [次へ]をクリックする。

「TV チューナーのセットアップウィザード」の「チャンネルリストの編集」画面が表示されます。

チャンネルリストの順番やリモコンに割り当てる数字を変更したい場合は、この画面で変更することができます。

6 [次へ]をクリックする。

「TV チューナーのセットアップウィザード」の「パスワードの設定」画面が表示されます。

7 「パスワード」欄にパスワードを入力して、[完了]をクリックする。

設定が完了し、TVチューナーのセットアップウィザードが閉じます。

このパスワードは、他のコンピュータから本機に接続して「Giga Pocket」ソフトウェアの機能を使用するために必要となります。

次に、「Giga Pocket」ソフトウェアのモニターで、設定したチャンネルが正しく表示されるか確認します。

8 TV をクリックする。

「Giga Pocket」画面のモニタに、TV／録画デッキの映像が表示されます。

9 CH をクリックして、一覧の中から見たいチャンネルを選ぶ。

「Giga Pocket」画面のモニタに選択したチャンネルの番組が表示されます。

「Giga Pocket」ソフトウェアについて詳しくは、「Giga Pocket」のヘルプをご覧ください。

チャンネル設定を変更するには

地域設定を行っても、映らないチャンネルがあったり、ご使用の地域で受信できるチャンネルと実際のチャンネルが異なる場合は、手動でチャンネル設定を変更することができます。

「Giga Pocket」ソフトウェアのチャンネル設定を変更するには、次の手順に従って設定を変更してください。

また、「Giga Pocket」のヘルプもあわせてご覧ください。

ここでは、「Giga Pocket」では「バイオテレビ」が「3チャンネル」に設定されているが、ご使用になっている地域では「20チャンネル」で放送されており、「バイオテレビ」のチャンネル設定を「3チャンネル」から「20チャンネル」に変更する例で説明します。

1 **[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Giga Pocket]の順にポインタを合わせ、[Giga Pocket]をクリックする。**

「Giga Pocket」ソフトウェアが起動します。

TV(テレビ)ボタンを押しても、「Giga Pocket」ソフトウェアを起動できます。

2 **[設定]をクリックして、表示されるメニューから[チャンネルの設定]をクリックする。**

「TV チューナーのプロパティ」画面が表示されます。

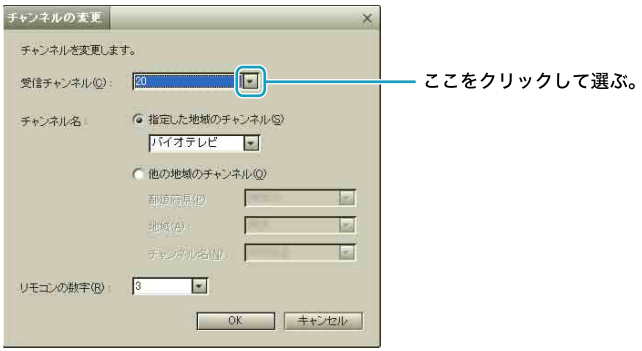
3 **「チャンネルの設定」タブをクリックする。**

4 **変更するチャンネル名(ここでは「バイオテレビ」)を選択し、[変更]をクリックする。**

「チャンネルの変更」画面が表示されます。

5 **「受信チャンネル」から設定したいチャンネル(ここでは「20チャンネル」なので「20」)を選ぶ。**

チャンネル番号がわからない場合は、「受信チャンネル」の ▼ をクリックして、設定したいテレビ局の映像が表示されるまでチャンネル番号(1～62チャンネル)を順番に選択してください。



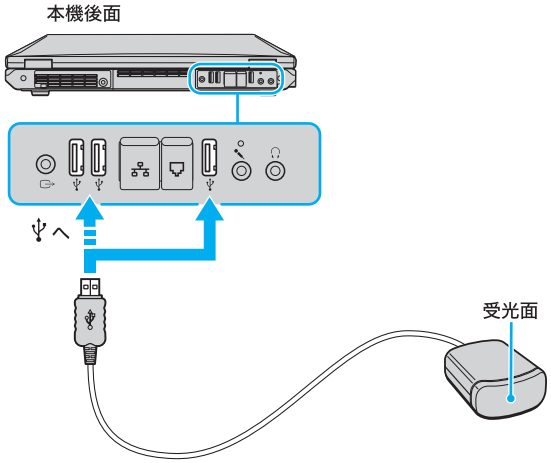
6 **[OK]をクリックする。**

以上の手順を繰り返し、映らないチャンネルすべての設定を変更してください。

リモコンで操作する準備をする

リモコン用受光ユニットを接続します。

付属のリモコン用受光ユニットを本機の(USB)コネクタに接続します。
リモコンでの操作について詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の
バイオの使いかた
をクリックし、[基本的な使いかた]→[バイオでテレビを見る／録画する(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)]→[リモコンで操作する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
受光ユニットを接続したあと、再起動のメッセージが表示されることがあります。その際は、画面の指示に従って操作してください。



本機に取り付けた別売りのポートリプリケーターPCGA-PRGT1の
USBコネクタに接続することもできます。

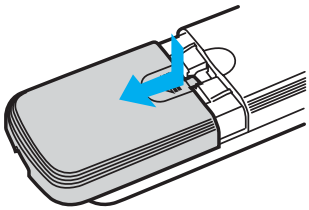
ご注意

- リモコン用受光ユニットは、本機専用です。他の機器ではお使いになれません。
- リモコン用受光ユニットを設置するときは、以下の点にご注意ください。
  ー受光面をリモコンの信号が受けやすい方向に向けてください。
  ー受光ユニットの受光面とリモコンの発光部の間に障害物がない場所に設置してください。
- 受光ユニットをUSBハブに接続してご使用の場合、またはUSB延長ケーブルをご使用の場合の動作保証はいたしかねます。必ず直接本機の(USB)コネクタ、もしくは本機に取り付けた別売りのポートリプリケーターPCGA-PRGT1のUSBコネクタに接続してください。

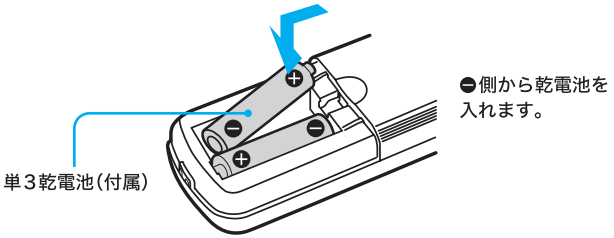
リモコンを準備する

1 **リモコンを裏返す。**

2 **リモコン裏面の乾電池入れのふたを開ける。**



3 **＋とーの方向を確かめて、付属の単3乾電池を2本入れる。**



ご注意

乾電池の使いかたを誤ると、液もれや破損のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

- ＋とーの向きを正しく入れてください。
- 新しい乾電池と使った乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池は充電しないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
- 乾電池が液もれしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

4 **乾電池入れのふたを閉める。**

電池の交換時期は約6か月です。リモコン操作できる距離が短くなったら、2本とも新しい乾電池に交換してください。

困ったときは

トラブルを解決するには

本機を操作していて困ったときや、トラブルが発生したときは、あわてずに次の流れに従ってください。
また、メッセージなどが表示されている場合は、書きとめておくことをおすすめします。

手順1　本書や電子マニュアル、ヘルプで調べる

- **「主なトラブルとその解決方法」**(130ページ)**をチェックする。**
- **本機電子マニュアルの「困ったときは」や関連する項目**
  「サイバーサポート」画面上部の質問文入力欄に質問文を入力し[検索]をクリックすることで、本機電子マニュアルの内容やVAIOカスタマーリンクに寄せられたQ&A(よくある質問とその回答)などから解決方法を検索できます。[条件設定]をクリックすると、検索対象を絞り込んだり、あらかじめ用意された質問文例などから検索することもできます。
  なお、「サイバーサポート」の使いかたについて詳しくは、「サイバーサポート」画面上部の ヘルプ をクリックして表示される情報をご覧ください。
- **ソフトウェアのヘルプ**
- **Windowsのヘルプ**
  [スタート]ボタンをクリックし、[ヘルプとサポート]をクリックして、「ヘルプとサポートセンター」をご覧ください。
- **VAIO ハードウェア診断ツール**
  CPUやハードディスクなどのハードウェアに故障があるかどうかを診断するソフトウェアです。

手順2　VAIOカスタマーリンクのホームページを確認する

VAIOカスタマーリンク ホームページでは、トラブルの解決方法や疑問の解消に役立つ情報やサービスを掲載しています。

VAIOカスタマーリンク ホームページ

http://vcl.vaio.sony.co.jp/

手順3　VAIOカスタマーリンクに電話で問い合わせる

128ページのお問い合わせ先にご相談ください。

VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）にアクセスし、「サイバーサポート」のキーワード検索で検索できる情報を更新することをおすすめします。

更新のしかたは、「サイバーサポート」画面上部の ヘルプ をクリックし、[「サイバーサポート」の使いかた]→[「サイバーサポート」で検索できる情報を更新する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。
なおこの機能を使うには、あらかじめインターネットに接続していることが必要です。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」（66ページ）をご覧ください。

「VAIO Update」について

「VAIO Update」は、ソニーがご提供するお客様への「重要なお知らせ」や「アップデートプログラム」の情報を、定期的にお知らせするソフトウェアです。このソフトウェアを利用することで、想定されるトラブルを未然に防ぐことができます。

詳しくは「サイバーサポート」画面左側の サービス・サポートのご案内 をクリックし、「「VAIO Update」を利用する」をクリックして表示される情報をご覧いただくか、または付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」の「「VAIO Update」を利用する」をご覧ください。

VAIOカスタマーリンク お問い合わせ先

ご注意

付属のソフトウェアについては、「サイバーサポート」画面左側の 付属ソフト *ご紹介 *お問い合わせ先 をクリックして表示される情報をご覧ください。また、各ソフトウェアのお問い合わせ先については、「付属ソフトウェアのお問い合わせ先」(211ページ)にも記載しています。

VAIOカスタマーリンク

電話番号　(0466)30-3000

お問い合わせには、「お客様サポート番号」または「VAIOカスタマーID」が必要です。(46ページ)

受付時間

平日　10時～20時

土、日、祝日　10時～17時

(年末年始は除く)

一般的にお電話は午前中より午後の方がつながりやすくなっております。

- お電話は音声認識を用いた自動音声のアナウンスに従って、ご希望のメニューをお選びください。各メニューの担当オペレーターが対応いたします。
- Windows XP Professional搭載モデルをお使いの場合、技術的なお問い合わせについては、本機のご購入から90日間無料で対応いたします。ご購入日から91日以降は、「アドバンストサポート」による有償でのサポートメニューをご用意しております。

  詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の サービス・サポートのご案内 をクリックして表示される情報をご覧いただくか、または付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

お電話の前に次の内容をご用意ください

①お客様の「お客様サポート番号」または「VAIOカスタマーID」

②本機の型名：IDラベル(25ページ)または、保証書に記載されています

③本機の製造番号：保証書などに記載されている7桁の番号です

④カスタマー登録していただいたときの電話番号、または登録予定の電話番号

発信者番号通知でお電話していただくとよりスムーズに担当者につながります。

⑤本機に接続している周辺機器名：メーカー名と型名

⑥表示されたエラーメッセージ

⑦本機に付属していないソフトウェアを追加した場合は、そのソフトウェアの名前とバージョン

⑧トラブルが発生する前または直前に行った操作

⑨トラブルがどのくらいの頻度で再現するか

⑩その他お気づきの点

修理の場合は

⑪VAIOカルテ：修理をお申し込みになるとき

⑫筆記用具：修理を受付する際にお伝えする修理受付番号を控えるのに必要です

主なトラブルとその解決方法

ここでは、本機の主なトラブルとその解決方法を説明します。

ご注意

再起動または電源を入れ直す場合は、必ず「電源を切る」(44ページ)の手順に従い、いったん電源を切ってください。
他の方法で本機の電源を切ると、作成したファイルが使えなくなることがあります。

- 電源(131ページ)
- Windowsの起動(133ページ)
- モデム・インターネット(135ページ)
- カスタマー登録(142ページ)
- 液晶ディスプレイ・外部ディスプレイ(143ページ)
- 拡大ボタン(146ページ)
- タッチパッド・キーボード(146ページ)
- テレビ再生／録画(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)(149ページ)
- リモコン(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)(152ページ)
- フロッピーディスク(152ページ)
- CD・DVDディスク(153ページ)
- “メモリースティック”(156ページ)
- DV機器・i.LINK機器(156ページ)
- プリンタ(158ページ)
- PCカード(158ページ)
- スピーカー・ヘッドホン(159ページ)
- マイク(161ページ)
- ファン(161ページ)
- パスワード(162ページ)
- 省電力動作モード(162ページ)
- ハードディスク(163ページ)
- 文字入力(164ページ)
- プロセッサ(CPU)(165ページ)
- メッセージ(165ページ)

付属の「VAIO ハードウェア診断ツール」ソフトウェアを使うと、CPUやハードディスクなどのハードウェアに故障があるかどうか自動的に診断できます。

詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の 付属ソフト ご紹介 お問い合わせ先 をクリックし、[サポート・ヘルプ]→[VAIO ハードウェア診断ツール]を順にクリックして表示される情報をご覧ください。

電源

電源が入らない。(⏻(パワー)ランプ(グリーン)がつかないとき)

電源が入らないときの状況によって対処方法が異なります。次の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ バッテリが正しく装着されているか確認する。(36ページ)

→ 本機とACアダプタ、ACアダプタと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれしっかりつながっているか確認する。(37ページ)

→ プログラム動作中の異常発生などにより、通常の操作で電源を切らなかった場合
プログラムの異常で、電源を制御するコントローラが停止している可能性があります。
クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチ(32ページ)を押してから、電源を入れ直してください。シャープペンシルの芯など折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。
それでも電源が入らない場合は、ACアダプタとバッテリをはずして1分ほど待ってから取り付け直し、再度電源を入れてください。

→ 寒い戸外から暖かい屋内に持ち込んだり、湿度の高い場所で使用した場合
本機内部に結露が生じている可能性があります。その場合は、1時間ほど待ってから電源を入れ直してください。
湿度の高い場所(80 %以上)でのご使用は、本機の故障の原因となりますのでおやめください。

電源を入れても、⏻(パワー)ランプ(グリーン)は点灯するが画面に何も表示されない。

電源が入らないときの状況によって対処方法が異なります。次の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ 外部ディスプレイに表示が切り替えられている可能性がある。
Fnキーを押しながら、F7キーを押して表示を切り替えてください。(62ページ)

→ しばらく様子を見ても画面に何も表示されないときは、下記の手順で操作を行ってください。

1 本機の⏻(パワー)ボタンを4秒以上押したままにし、⏻(パワー)ランプが消灯するのを確認してから、再度電源を入れ直す。

2 それでも画面に何も表示されない場合は、クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチ(32ページ)を押してから、再度電源を入れ直す。
シャープペンシルの芯など折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。

3 上記の操作を行っても何も表示されない場合は、本機の⏻(パワー)ボタンを4秒以上押したままにし、⏻(パワー)ランプが消灯するのを確認したあと、ACアダプタとバッテリをはずして1分ほど待ってから取り付け直し、再度電源を入れ直す。

→ 寒い戸外から暖かい屋内に持ち込んだり、湿度の高い場所で使用した場合本機内部に結露が生じている可能性があります。その場合は、1時間ほど待ってから電源を入れ直してください。
湿度の高い場所（80 %以上）でのご使用は、本機の故障の原因となりますのでおやめください。

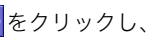
電源が切れない。

電源が切れないときの状況によって対処方法が異なります。次の点を確認した上で、それぞれの操作を行ってください。

→ 新しくインストールしたプログラムやデータ、その操作などを確認してください。

→ 使用中のソフトウェアをすべて終了する。

→ PCカードをお使いの場合は、「サイバーサポート」画面左側の



をクリックし、[拡張・接続／データのやりとり]→[PCカードを取り付ける／取り出す]の順にクリックし、「PCカードを取り出すには」の手順に従ってPCカードを取り出す。

→ USB機器を接続しているときは取りはずす。

→ 周辺機器を接続している場合やネットワークを使用している場合には、それらを使用しない状態にしてから電源を切る操作を行ってください。
Windows XPは、周辺機器やネットワークと通信を行っている間は、電源が切れないしくみになっています。また、周辺機器のデバイスドライバによっては、OSの強制的なプログラムの終了に対応していないものもあります。

→ 電源を切る操作（44ページ）をしても、「設定を保存しています」または「Windowsをシャットダウンしています」と表示されたまま動かない場合まず、Enterキーを押します。それでも電源が切れない場合は、本機の⏻（パワー）ボタンを4秒以上押したままにして、⏻（パワー）ランプが消灯するか確認してください。

→ 「スタート」メニューから[終了オプション]を選んでも電源が切れない場合起動しているアプリケーションを終了させるためにAltキーを押しながらF4キーを押してください。データが未保存の場合は、「保存しますか？」というメッセージが表示されるので、[はい]をクリックしてデータを保存してください。「コンピュータの電源を切る」画面が表示されるまでAltキーを押しながらF4キーを押し、画面上の[電源を切る]をクリックしてください。
Altキーを押しながらF4キーを数回押しても「コンピュータの電源を切る」画面が表示されない場合は、Ctrlキーと Altキーを押しながらDeleteキーを押し、「Windows タスク マネージャ」画面を表示させます。「シャットダウン」メニューをクリックし、[コンピュータの電源を切る]をクリックしてください。
それでも電源が切れない場合は、本機の⏻（パワー）ボタンを4秒以上押したままにして、⏻（パワー）ランプが消灯するか確認してください。

→ 本機の⏻(パワー)ボタンを4秒以上押したままにしても、電源が切れない場合
クリップなどの細い棒で本機底面のリセットスイッチ(32ページ)を押してください。
シャープペンシルの芯など折れやすいものは、本機の故障の原因となりますので使用しないでください。

→ 上記の操作を行っても電源が切れない場合は、ACアダプタとバッテリをはずしてください。

これらの操作を行うと、作成中のデータが破壊されるおそれがあります。また、本機の電源を入れ直した際、ディスクのチェックが行われます。その場合は、Windowsのデスクトップ画面が表示されるまで画面の指示に従って操作し、その後「電源を切る」(44ページ)の手順に従っていったん本機の電源を正しく切ってください。

電源が勝手に切れた。

→ バッテリで本機を使用中にバッテリの残量がわずかになると、自動的に休止状態になり、電源が自動的に切れます。

Windowsの起動

電源を入れると、「No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.」や「Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.」、「NTLDR is missing. Press any key to restart.」というメッセージが出て、Windowsが起動できない。

→ フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して、取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押す。

電源を入れると、「Operating system not found」と表示され、Windowsが起動できない。

→ USBフロッピーディスクドライブに起動ディスク以外のフロッピーディスクが入っている場合は、ディスクを取り出してからCtrlキーとAltキーを押しながらDeleteキーを押して本機を再起動する。

→ 再起動してもこのメッセージが表示され、Windowsが起動しない場合は、指定された方法以外のやりかたでパーティションサイズを変更している可能性があります。ハードディスク内のリカバリ機能や自作のリカバリディスクを使って、パーティションサイズを変更し、本機を再セットアップしてください。(186ページ)

電源を入れると、「System Disable」と表示され、Windowsが起動しない。

→ パワーオンパスワードを3回間違えて入力すると、「System Disable」と表示されWindowsが起動しません。
本機の⏻(パワー)ボタンを4秒以上押したままにして、⏻(パワー)ランプが消灯するか確認してください。
その後、再度本機の電源を入れ、正しいパスワードを入力してください。
パスワードを入力する際は、🔒(Num Lock)ランプや🔒(Caps Lock)ランプが点灯していないか確認してください。点灯している場合は、Num Lkキーを押すか、またはShiftキーを押しながらCaps Lockキーを押してランプを消灯させてから入力してください。

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押す。

電源を入れたあと、「Press <F1> to resume, <F2> to Setup」と表示され、Windowsが起動しない。

→ 内蔵バックアップバッテリが消耗している。
ACアダプタをつなぎ、本機を充電しながら、次の操作を行ってください。

1 電源を入れ、VAIOのロゴマークが表示されてから、F2キーを押す。
画面左下に「Entering SETUP...」と表示されたあと、BIOSセットアップ画面が表示されます。「Entering SETUP...」と表示されない場合は、F2キーを数回押してください。
2 日時を確認する。
「System Date」、「System Time」に正しい日時が表示されているか確認する。間違った日時が表示されている場合は次の操作をしてください。
① 「System Date」の項目に月／日／年(西暦)を入力する。
例:2003年1月31日と設定するには、1＋Enterキー＋31＋Enterキー＋2003＋Enterキーの順で入力します。
② ↓キーで「System Time」を選び、時刻を24時間表示で入力する。
例:午後2時35分00秒と設定するには、14＋Enterキー＋35＋Enterキー＋00＋Enterキーの順で入力します。
3 Escキーを押す。
4 ↓キーで[Get Default Values]を選択し、Enterキーを押す。
5 「Load default configuration now?」と表示されるので、「Yes」を選択して、Enterキーを押す。
6 [Exit(Save Changes)]が選ばれていることを確認してEnterキーを押す。
7 「Save configuration changes and exit now?」と表示されるので、「Yes」を選択して、Enterキーを押す。

上記の操作を行っても本機が起動しない場合は、VAIOカスタマーリンクにご相談ください。

モデム・インターネット

ダイヤルできない。

今まで一度もダイヤルできない場合

→ 一般電話回線に接続しているか確認する。
使用可能な回線は、一般電話回線です。その他の回線に接続した場合には、故障・発火の原因となることがあります。会社やホテルなどのPBX回線に接続する場合は、本機の内蔵モデムに対応しているかどうかを、回線管理者やホテルのフロントなどにお問い合わせください。

会社やホテルなどの回線が使用可能な場合
次の手順に従って外線発信番号を設定し（0発信など）、ダイヤルトーン（受話器を上げたときの「ツー」という音）を待たずにダイヤルするよう設定してください。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
3 [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。
「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
4 設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。
「所在地の編集」画面が表示されます。
5 ダイヤル元の市外局番を半角の数字で入力し、「市内通話の場合の外線発信番号」と「市外電話の場合の外線発信番号」に半角で「0」（ゼロ）と入力する（0発信の場合）。
6 [OK]をクリックする。
7 [モデム]タブをクリックする。
8 お使いのモデムをクリックして選び、[プロパティ]をクリックする。
9 [モデム]タブをクリックし、「ダイヤルの管理」の[発信音を待ってからダイヤルする]のチェックボックスをクリックして、チェックをはずす。
10 [OK]をクリックする。
11 「電話とモデムのオプション」画面で[OK]をクリックし、画面を閉じる。

→ 接続状態を確認する。

- テレホンコードの接続を確認する。
「発信音が聞こえません」とメッセージが表示されたときは、本機側の（モジュラジャック）と壁側の電話回線のコンセントの接続を確認します。「カチッ」と音がするまでモジュラジャックに差し込んでください。
また、予備のテレホンコードがあれば、テレホンコードを交換して試してみます。
- 分配器を使わずに、電話回線のコンセントにテレホンコードを直接接続しているか確認する。
また、テレホンコードが長すぎないか、電話機の子機に接続していないか確認する。
- ISDN回線に接続しているときは、ターミナルアダプタが使える状態になっているか確認する。
詳しくは、ターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。

→ モデムがWindowsに正しく認識されているか確認する。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
3 [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックし、[モデム]タブをクリックする。
4 お使いのモデムをクリックして選び、[プロパティ]をクリックし、[診断]タブをクリックする。
5 [モデムの照会]をクリックする。
コマンドとその応答が表示されたら、モデムは正しく認識されています。

正しく認識されていないときは

正しく認識されていないときは次の手順で操作し、COMポートのリソース(IRQなど)が他のデバイスと競合していないか確認する。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
3 [システム]アイコンをクリックする。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。
「デバイス マネージャ」画面が表示されます。
デバイスのアイコンに「!」がついているものは、他のデバイスと競合を起こしている可能性があります。

競合している場合は

競合している場合は次の手順でデバイスを無効にする。
また、競合しているデバイスが着脱可能な場合は、本機から取りはずせば競合は解消します。

1 「デバイス マネージャ」画面で競合しているデバイスをダブルクリックする。
2 [全般]タブの「デバイスの使用状況」の をクリックし、表示されるリストから[このデバイスを使わない(無効)]をクリックする。
3 [OK]をクリックする。

今までできていたのにできなくなった場合

→ 3分以内に3回以上同じ電話番号にかけた場合は、リダイヤル制限がかかりダイヤルできなくなります。
3分以上、時間をおいてからかけ直してください。

モデムはダイヤルしているが、接続できない。

接続の動作（ネゴシエーション）が始まらない場合

→ ダイヤル方法を確認する。
お使いの電話回線のダイヤル方法がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、次の手順に従って操作し、ダイヤル方法が正しく設定されているか確認する。

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線（基本）使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、契約している電話会社へお問い合わせください。

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［コントロール パネル］をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
2 ［プリンタとその他のハードウェア］アイコンをクリックする。
3 ［電話とモデムのオプション］アイコンをクリックする。
「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。
4 設定されている所在地をクリックして選び、［編集］をクリックする。
「所在地の編集」画面が表示されます。
5 「ダイヤル方法」が電話回線の種類と同じか確認する。
6 ［OK］をクリックする。
7 「電話とモデムのオプション」画面で［OK］をクリックし、画面を閉じる。

→ 接続先の設定（電話番号など）を再確認する。
「リモートコンピュータが応答していません」、「ユーザー名またはパスワード、あるいはその両方が無効なため、このドメインにアクセスできませんでした」といったメッセージが表示されるときは、次の手順でプロバイダやネットワークに接続するための設定を確認します。

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［コントロール パネル］をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
2 ［ネットワークとインターネット接続］アイコンをクリックする。
3 ［ネットワーク接続］アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
4 接続先のアイコンを右クリックし、表示されるメニューから［プロパティ］をクリックする。
5 契約しているプロバイダから提供された資料に従って設定を確認する。
特に、次の点を重点的に確認してください。
- ［全般］タブ
「接続の方法」と「電話番号」の設定
- ［ネットワーク］タブ
「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」の設定で「PPP:Windows 95/98/NT4/2000, Internet」が選択されていることと、「この接続は次の項目を使用します」の「インターネット プロトコル（TCP/IP）」がチェックされていることを確認してください。
また、「インターネット プロトコル（TCP/IP）」のプロパティを開き、その設定内容も確認してください。

ご注意

- チェックすべき項目以外はすべてチェックをはずしてください。
- プロバイダからDNSサーバーアドレスを指定されない場合(自動設定)は、[DNSサーバーのアドレスを自動的に取得する]をクリックしてください。

- プロバイダによっては、同じアクセスポイントでも一般電話回線とISDN回線で電話番号をわけていることもあります。使用する電話回線にあった電話番号かは、契約したプロバイダにお問い合わせください。
- DNSサーバーアドレス(プライマリDNSとセカンダリDNS)を入力し直す場合は、[次のDNSサーバーのアドレスを使う]をクリックしてから、正しいアドレスを入力します。

→ 接続先を作り直してみる。

設定などに問題がなかった場合は、次の手順でダイヤルアップ接続アイコンを作り直してから、接続してみてください。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。

2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。

3 [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。

4 接続先のアイコンをごみ箱にドラッグアンドドロップする。
ダイヤルアップ接続アイコンを削除するか確認するメッセージが表示されます。

5 [はい]をクリックする。
ダイヤルアップ接続アイコンが削除されます。

6 「ネットワーク タスク」の[新しい接続を作成する]をクリックする。
「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されます。

7 [次へ]をクリックする。
「ネットワーク接続の種類」画面が表示されます。

8 [インターネットに接続する]の◯をクリックして◉にし、[次へ]をクリックする。
「準備」画面が表示されます。
引き続き「接続のための設定をする」(87ページ)の手順5～10の操作を行ってください。
インターネット接続ウィザードが終了すると、「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面の中に新しいダイヤルアップ接続アイコンができます。
このアイコンをダブルクリックして、接続を試してください。

それでも接続できない場合は、接続先のサーバーが停止している可能性があります。時間をおいて再度ダイヤルし直してください。

→ NTTの117時報サービスにダイヤルできるか試してみる。

「ハイパーターミナル」ソフトウェアで時報にダイヤルできるか試します。ダイヤルできた場合、モデムや回線は正常に動作しているので、接続の設定をもう1度確認してください。

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[アクセサリ]から[通信]、[ハイパーターミナル]の順にクリックする。
「ハイパーターミナル」ソフトウェアが起動し、「接続の設定」画面が表示されます。

2 「名前」に任意の名前を入力し、[OK]をクリックする。

3 「電話番号」に「117」と入力し、[OK]をクリックする。
「接続」画面が表示されます。

4 [ダイヤル]をクリックする。

音が小さい場合は、次の手順に従って操作してください。

① [スタート]ボタンをクリックして[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。

② [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]をクリックする。

③ 画面左側の「関連項目」から、[詳細ボリューム コントロール]をクリックする。
「ボリューム コントロール」画面が表示されます。

④ WaveまたはPhone Lineの項目でスライダを上下に動かして好みの音量に調整する。
WaveまたはPhone Lineの項目が表示されていない場合は、[オプション]→[プロパティ]→[表示するコントロール]でWaveまたはPhone Lineの項目をチェックして表示してください。

接続の動作(ネゴシエーション)はするが接続できない場合

→ ユーザー名やパスワードを確認する。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。

2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。

3 [インターネット オプション]アイコンをクリックする。
「インターネットのプロパティ」画面が表示されます。

4 [接続]タブをクリックする。

5 「ダイヤルアップと仮想プライベートネットワークの設定」から接続先を選んでクリックし、[設定]をクリックする。
設定画面が表示されます。

6 「ユーザー名」や「パスワード」が正しいか確認する。

ユーザー名やパスワードを忘れてしまった場合は、プロバイダから郵送されてきた資料を確認してください。または、契約したプロバイダにお問い合わせください。

- 「モデムはダイヤルしているが、接続できない。」(137ページ)の内容も合わせてご覧ください。
- インターネット接続に関して詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

→ いったん切断してからかけ直す。
接続中の動作が長く続き接続が完了しないときは、いったん回線を切断してかけ直します。
高い通信速度で接続する場合、まれに接続に失敗して、接続確認の動作が終わらなくなることがあります。

→ アクセスポイントを変更する。
内蔵モデムやターミナルアダプタが発信しているのに、ネゴシエーションが始まらない場合は、次のような問題が考えられます。

- 接続先の回線の状態が良くない。
- 接続先の回線が混み合っている。
- 接続先のモデムが不調である。
この場合は、時間帯をずらして再度接続してみるか、アクセスポイントを変更して接続してみてください。

アクセスポイントを変更する

アクセスポイントを変更するには、次の手順に従って操作します。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。
2 [ネットワークとインターネット接続]アイコンをクリックする。
3 [ネットワーク接続]アイコンをクリックする。
「ネットワーク接続」画面が表示されます。
4 ダイヤルアップ接続名(チェックシートのダイヤルアップ接続名)のアイコンを右クリックし、表示されるメニューから[プロパティ]をクリックする。
ダイヤルアップ接続のプロパティ画面が表示されます。
5 「電話番号」の入力欄に別のアクセスポイントの電話番号を半角の数字で入力する。
6 [OK]をクリックする。

接続するが通信速度が遅い場合

→ 回線が混み合っている場合や回線の品質が悪い場合は、エラーが発生しないよう自動的に通信速度を落とします。

インターネットに接続できない。

ホームページが表示されない場合

→ webブラウザの設定を確認する。
プロバイダによっては、webブラウザの設定が必要な場合があります。契約したプロバイダから送られてくる資料などをご覧になり、設定を確認してください。

→ URLを確認する。
アドレスバーに表示されているURLが正しく入力されているか確認します。URLは半角英数字で入力してください。

電子メールを送受信できない場合

→ 「Outlook Express」ソフトウェアをお使いの場合。
次の手順に従って操作し、電子メールソフトウェアの設定を確認する。

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[Outlook Express]をクリックする。
「Outlook Express」が起動します。
「ダイヤルアップの接続」画面が表示されたときは、[キャンセル]または[オフライン作業]をクリックします。

2 画面上部の[ツール]をクリックし、表示されるメニューから[アカウント]をクリックする。
「インターネット アカウント」画面が表示されます。

3 [メール]タブをクリックする。

4 お使いのアカウントをクリックして選び、[プロパティ]をクリックする。

5 各タブをクリックし、各項目が正しく入力されているか確認する。

ご注意

文字は半角文字で入力してください。全角で入力してあると、電子メールソフトウェアが正しく設定されません。

→ 「Outlook Express」以外の電子メールソフトウェアをお使いの場合。
それぞれのソフトウェアの取扱説明書またはヘルプをご覧になり、正しく設定されているか確認してください。

電子メール送受信について詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

携帯電話を使って接続できない場合

→ 携帯電話や接続アダプタの設定を確認する。
お使いの携帯電話や接続アダプタに付属の取扱説明書をご覧になり、設定を確認してください。

→ 所在地情報を確認する。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。

2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。

3 [電話とモデムのオプション]アイコンをクリックする。
「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

4 設定されている所在地をクリックして選び、[編集]をクリックする。
「所在地の編集」画面が表示されます。

5 [全般]タブの「市外局番」に何も入力されていないときは、「000」など実在しない番号を入力する。

通信中にエラーメッセージが表示される。

→ 本機の内蔵モデムはソフトウェアで一部の機能を制御しています。そのため、インターネットやファックスの通信中に、他のソフトウェアや周辺機器が動作してシステムに負担がかかると、エラーメッセージが表示されることがあります。
このようなときは、他のソフトウェアを終了させるか、周辺機器を取りはずしてから、通信し直してください。

ネットワーク(LAN)に接続できない。

→ ご使用中に何らかの理由により、ネットワーク(LAN)の接続に必要な情報が消えてしまう場合があります。
次の手順に従って操作してください。

1 電源を入れ、VAIOのロゴマークが表示されてからF2キーを押す。
画面左下に「Entering SETUP...」と表示されたあと、BIOSセットアップ画面が表示されます。「Entering SETUP...」と表示されない場合は、F2キーを数回押してください。
2 Escキーを押す。
3 ↓キーで[Get Default Values]を選択し、Enterキーを押す。
4 「Load default configuration now?」と表示されるので、「Yes」を選択して、Enterキーを押す。
5 [Exit(Save Changes)]が選ばれていることを確認してEnterキーを押す。
6 「Save configuration changes and exit now?」と表示されるので、「Yes」を選択して、Enterキーを押す。

カスタマー登録

オンラインでカスタマー登録できない。

→ 本機が電話回線に正しく接続されているか確認する。(73ページ)

→ お使いの電話回線がトーン式ダイヤルかパルス式ダイヤルかを確認し、ダイヤルの種類に合わせて内蔵モデムを設定する。(73ページ)

お使いの電話回線のダイヤル方法がわからない場合は、電話会社から送られてくる請求内訳表をご覧ください。請求内訳表の中に「プッシュ回線使用料」と記載されている場合は「トーン式ダイヤル」です。回線(基本)使用料のみ記載されている場合は「パルス式ダイヤル」です。電話回線のダイヤル方法について詳しくは、契約している電話会社へお問い合わせください。

→ ISDN回線をお使いの場合は、本機の(USB)コネクタとターミナルアダプタのUSBコネクタをつないでください。(77ページ)

→ ターミナルアダプタ、携帯電話、PHSなど、お使いになる通信機器によっては、正しく接続できないことがあります。この場合は、本機の(モジュラジャック)と一般電話回線をつなぎ(73ページ)、通信を行ってください。

液晶ディスプレイ・外部ディスプレイ

液晶ディスプレイに何も表示されない。

→ LCD/Videoスタンバイになっている。タッチパッドに触れるか、キーボードのいずれかのキーを押す。

→ 外部ディスプレイに表示が切り替えられている。Fnキーを押しながら、F7キーを押して表示を切り替える。(62ページ)

液晶ディスプレイが暗い。

→ Fnキーを押しながら、F5キーを押すと、液晶ディスプレイの明るさを調節できます。(61ページ)

→ 本機はエネルギースター規格に基づいて設計されており、工場出荷時の設定ではAC電源でご使用中に約30分操作をしないと、自動的に現在作業中の状態を保持したまま、省電力動作モードへ移行します(スタンバイ[*1])。キーボードのいずれかのキーを押すか、⏻(パワー)ボタン[*2]を押すと、元の状態に戻ります。AC電源でご使用中に自動的にスタンバイに移行しないように設定することもできます[*3]。
また、バッテリで長時間使用できるようにするため、工場出荷時の設定では、バッテリでご使用中に約30分操作をしないと、システムの状態をハードディスクに書き込んでから自動的に本機の電源を切ります(休止状態[*1])。元の状態に復帰させるには、⏻(パワー)ランプの状態により次の操作を行ってください。

- ⏻(パワー)ランプがアンバー(赤褐色)で点滅(スタンバイ)
  キーボードのいずれかのキーまたは⏻(パワー)ボタンを押す[*2]。
- ⏻(パワー)ランプが消灯(休止状態または電源オフ)
  ⏻(パワー)ボタンを押す。

[*1] 詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[バイオインフォメーション]→[知っ得情報]→[省電力動作モードについて]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

[*2] ⏻(パワー)ボタンを4秒以上押しつづけると保存された状態が破棄されますのでご注意ください。

[*3] 詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[バッテリを節約する/パフォーマンスを調整する]→[プロファイルのパワーマネージメント設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

液晶ディスプレイの明るさ設定が変わってしまう。

→ Fnキーを押しながらF5キーを押すことで設定する液晶ディスプレイの明るさは、一時的なものです。液晶ディスプレイの明るさ設定を保存したい場合は、下記の手順に従って操作してください。
なおこの操作は、「コンピュータの管理者」アカウントを持つユーザーで行ってください。

1 デスクトップ画面右下の通知領域にある を右クリックして、表示されたメニューから[プロファイルの編集／作成]をクリックする。
「プロファイルエディタ」が起動します。

2 画面左から、バッテリ使用時の設定を変更したいときは「ノーマル」プロファイル*を、AC電源使用時の設定を変更したいときは「AC」プロファイル*を選択してください。

* 工場出荷時には、このプロファイルが設定されています。

3 画面右から[液晶ディスプレイの明るさ]をダブルクリックする。
設定値のリストが表示されます。現在有効な設定値がチェックされています。

4 好みの設定値をクリックする。

5 [ファイル]メニューをクリックし、[保存]をクリックする。

6 [ファイル]メニューをクリックし、[終了]をクリックする。
「プロファイルエディタ」が終了し、手順4で選んだ設定値が有効になります。

液晶ディスプレイに動画が表示できない。

→ Fnキーを押しながらF7キーを押して、表示を外部ディスプレイに切り替えたままの状態で外部ディスプレイの接続をはずすと、液晶ディスプレイで動画が表示できなくなります。この場合は動画再生を停止し、もう1度、Fnキーを押しながらF7キーを押して、表示を液晶ディスプレイに切り替えてから動画再生してください。

壁紙／スクリーンセーバーが勝手に変わってしまう。

→ 店頭展示用設定ツールが動作中は、店頭展示用の壁紙／スクリーンセーバーに設定されます。
設定を解除するには、次の手順に従って店頭展示用設定ツールを終了させてください。

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[店頭展示用設定ツール]の順にポインタをあわせ、[店頭展示用設定ツールを無効にする]をクリックする。
確認画面が表示されます。

2 [OK]をクリックする。

画面の解像度が勝手に変わってしまう。

→ 店頭展示用設定ツールが動作中は、画面の解像度／色数が工場出荷時の状態に設定されています。
設定を解除するには、次の手順に従って店頭展示用設定ツールを終了させてください。

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[店頭展示用設定ツール]の順にポインタをあわせ、[店頭展示用設定ツールを無効にする]をクリックする。
確認画面が表示されます。
2 [OK]をクリックする。

外部ディスプレイまたはテレビに何も表示されない。

→ 表示するディスプレイの設定を確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[画面表示の設定を変更する]→[表示するディスプレイを選ぶ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ 本機を起動中、ユーザーの簡易切り替えを行うと、その後Fnキーを押しながらF7キーを押して表示するディスプレイを変更することができません。本機起動時のユーザーでログオンし直すか、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[画面表示の設定を変更する]→[表示するディスプレイを選ぶ]の順にクリックして表示される情報をご覧になり、設定を変更してください。

液晶ディスプレイと外部ディスプレイに動画やDVDビデオなどを同時に表示できない。

→ 液晶ディスプレイと外部ディスプレイに動画やDVDビデオなどを同時に表示することはできません。表示するディスプレイを選択してください。
詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[画面表示の設定を変更する]→[表示するディスプレイを選ぶ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

外部ディスプレイの表示サイズ、表示位置がおかしい。

→ ディスプレイの調整つまみで設定する。詳しくは、ディスプレイの取扱説明書をご覧ください。

→ 外部ディスプレイや液晶プロジェクタと本機の液晶ディスプレイを同時に表示する場合は、画面表示の設定を変更してお使いください。
詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[画面表示の設定を変更する]→[ディスプレイの設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

デスクトップ画面上にウィンドウやアイコンの軌跡が残る。

→ キーを押しながらDキーを2回押す。

液晶ディスプレイとテレビの表示が切り替えられない。

→ 本機のドライブにDVDビデオディスクが入っているときは、DVDビデオディスクを取り出してから、表示を切り替えてください。

液晶プロジェクタに何も表示されない。

→ 本機の解像度を下げてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[画面表示の設定を変更する]→[ディスプレイの設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

拡大ボタン

⊕(拡大)ボタンを押しても、画面の解像度が切り替わらない。

→ 「画面のプロパティ」で液晶ディスプレイの解像度を設定した場合は、⊕(拡大)ボタンを押しても切り替わらないときがあります。

「画面のプロパティ」でお買い上げ時の設定に戻してから、⊕(拡大)ボタンを使用してください。

詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[画面表示の設定を変更する]→[ディスプレイの設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ 動画再生中やゲーム中に⊕(拡大)ボタンを押すと不具合が生じることがあります。その場合はソフトウェアを終了してから⊕(拡大)ボタンを押してください。

→ CPUに高い負担のかかるソフトウェアを実行中に、⊕(拡大)ボタンを押すと、不具合が生じることがあります。このような場合は、⊕(拡大)ボタンをお使いにならないことをおすすめします。

タッチパッド・キーボード

指がタッチパッドの端まできてしまい、これ以上動かせない。

→ 指をいったんタッチパッドから離し、中央に戻してください。

指がタッチパッドに触れただけで、クリックしてしまう。

→ タッチパッドの設定を変更し、タッピング機能を無効にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[タッチパッドをカスタマイズする]→[タッピング機能を無効にする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

タッチパッドが働かない。

→ タッチパッドが無効になっている。タッチパッドの設定を変更し、タッチパッドを有効にしてください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[本機の使用環境を設定する(「Sony Notebook Setup」の使いかた)]→[タッチパッドを無効にする/有効にする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ 次の手順でタッチパッドの設定を確認してください。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
2 [プリンタとその他のハードウェア]アイコンをクリックする。
3 [マウス]アイコンをクリックする。
「マウスのプロパティ」画面が表示されます。
4 [タッピング]タブをクリックする。
5 「コーナーでタップしない」がチェックされていないことを確認する。
チェックされているときは、クリックしてチェックをはずします。

→ 本機のタッチパッドは、人体の静電容量を利用して位置情報を求めているため、静電気の放電により一時的に動作しなくなることがあります。
この場合、数分間放置すれば通常の動作に戻ります。

画面上のポインタが動かない。

→ CD-ROMなどのディスクを再生しているときなどにポインタが動かなくなった場合は、Ctrlキーと Altキーを押しながら Deleteキーを押して「Windows タスク マネージャ」を表示させ、[アプリケーション]タブでディスクの再生を強制的に終わらせ、次の手順で本機を再起動する。

→ キーを押して「スタート」メニューを表示させ、↑キーを押して[終了オプション]を選んで Enterキーを押し、↑キーまたは↓キーを押して[電源を切る]または[再起動]を選び、Enterキーを押す。

→ 上記の操作で電源が切れないまたは再起動しない場合は、Ctrlキーと Altキーを押しながら Deleteキーを押して「Windows タスク マネージャ」を表示させ、Altキーを押しながら Uキーを押してから↑キーまたは↓キーを押して[コンピュータの電源を切る]または[再起動]を選び、Enterキーを押す。

→ 以上の操作でも何も起こらないときは、本機の⏻(パワー)ボタンを4秒以上押して電源を切る。

画面上のすべてのものが動かなくなってしまった。

→ Ctrlキーと Altキーを押しながら Deleteキーを押して「Windows タスク マネージャ」を表示させ、Altキーを押しながら Uキーを押してから↑キーまたは↓キーを押して[再起動]を選び、Enterキーを押して本機を再起動する。

→ 以上の操作でも何も起こらないときは、本機の⏻(パワー)ボタンを4秒以上押して電源を切る。

タッチパッドでスクロール機能が働かない。

→ ソフトウェアによっては、タッチパッドのスクロール機能が使えないことがあります。その場合は、タッチパッドの左右ボタンを同時に押して、オートスクロール機能を可能にしてからスクロールしてください。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ U、I、O、J、K、L、M、@ などの文字が入力できない場合は、Num Lock（ナムロック）が有効になっている場合があります。

(Num Lock) ランプが点灯していないか確認してください。点灯している場合は、Num Lk キーを押してランプを消灯させてから入力してください。（59ページ）

→ 次の手順で操作し、キーボードの項目が「日本語 PS/2 キーボード（106/109キー Ctrl+英数）」に設定されているか確認してください。異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［コントロール パネル］をクリックする。
2 ［パフォーマンスとメンテナンス］アイコンをクリックする。
3 ［システム］アイコンをクリックする。
4 ［ハードウェア］タブの［デバイス マネージャ］をクリックする。
5 キーボードの項目が「日本語 PS/2 キーボード（106/109キー Ctrl+英数）」に設定されているか確認する。

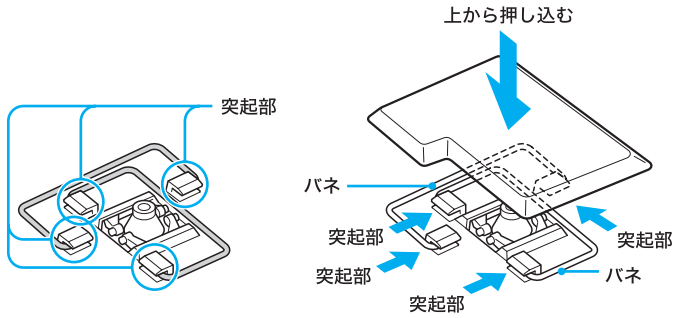
キートップがはずれた。

→ Enterキーと Shiftキー、スペースキーがはずれた場合は、次の図に従って取り付けてください。
その他のキートップがはずれたときは、元の位置に戻して「カチッ」と音がするまで上から押し込んでください。

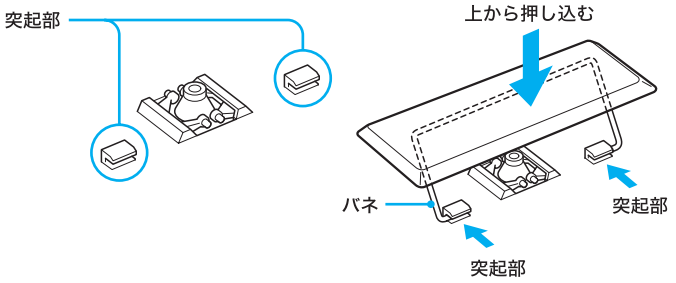
キートップの取り付けかた

キートップから針金のバネを取りはずして、突起部にひっかけ、キートップの中心を合わせて「カチッ」と音がするまで上から押し込みます。

Enterキー



Shiftキー、スペースキー



ご注意

- キートップを故意にはずさないでください。故障の原因となります。
- 取り付けるときに無理に力を加えると破損の原因となります。取り扱いには充分ご注意ください。

テレビ再生／録画（PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ）

テレビの映像が映らない、チャンネルの映像が映らない。

→ アンテナ接続ケーブルが本機の╥VHF/UHFコネクタと正しく接続されているか確認してください。（115ページ）

→ ご使用のアンテナの受信状況が良好か確認してください。
一般のテレビに接続して受信できるか、分配器を使用している場合は、分岐前のケーブルを接続して受信できるかどうかを確認してください。
アンテナを分配すると電波が弱くなり、映像が正常に表示されないことがあります。この場合は別売りのアンテナブースターをご使用ください。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアの地域設定が正しく設定されているか確認してください。（119ページ）

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアのチャンネル設定が正しく設定されているか確認してください。（121ページ）
設定が正しくない場合は、以下の手順に従って設定を変更してください。
また、「Giga Pocket」ソフトウェアのヘルプもあわせてご覧ください。
ここでは、「Giga Pocket」では「バイオテレビ」が「3チャンネル」に設定されているが、ご使用になっている地域では「20チャンネル」で放送されており、「バイオテレビ」のチャンネル設定を「3チャンネル」から「20チャンネル」に変更する例で説明します。

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[Giga Pocket]の順にポインタを合わせ、[Giga Pocket]をクリックする。
「Giga Pocket」ソフトウェアが起動します。

TV(テレビ)ボタンを押しても、「Giga Pocket」ソフトウェアを起動できます。

2 [設定]をクリックして、表示されるメニューから[チャンネルの設定]をクリックする。
「TV チューナーのプロパティ」画面が表示されます。

3 [チャンネルの設定]タブをクリックする。

4 変更するチャンネル名(ここでは「バイオテレビ」)を選択し、[変更]をクリックする。
「チャンネルの変更」画面が表示されます。

5 「受信チャンネル」から設定したいチャンネル(ここでは「20チャンネル」なので「20」)を選ぶ。

チャンネル番号がわからない場合は、「受信チャンネル」の をクリックして、設定したいテレビ局の映像が表示されるまでチャンネル番号(1～62チャンネル)を順番に選択してください。

6 [OK]をクリックする。
以上の手順を繰り返して、映らないチャンネルすべての設定をしてください。

「Giga Pocket」ソフトウェアを使って録画が正常にできない。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

番組を予約録画できない。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアの「予約マネージャー」が起動しているか確認してください。

→ 入力設定が間違っている可能性があります。「Giga Pocket」ソフトウェアの入力設定を確認してください。

→ バッテリ使用時の休止状態からは予約録画できません。ACアダプタをつないでください。

最初の部分が録画されていない。

→ 録画が始まるまでに数秒かかることがあります。実際に録画するときは、数秒早く[録画]をクリックしてください。

画面の色がきれいに表示されない、画面の表示サイズが大きすぎる(小さすぎる)。

→ ディスプレイの設定を「Giga Pocket」ソフトウェア用に設定しないと、正しく表示されません。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[画面表示の設定を変更する]→[ディスプレイの設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

「Giga Pocket」ソフトウェアの「Giga Pocket」が起動できない。

→ エクスプローラで動画ファイルのサムネールを表示していると「Giga Pocket」を起動できないことがあります。この場合は、エクスプローラを終了させてから、「Giga Pocket」を起動してください。

録画が強制的に停止される。

→ 録画中の負荷が高くなりすぎると録画が強制的に停止されることがあります。次のことをすると負荷を下げることができます。

- 録画中の「Giga Pocket」の表示をコンパクトサイズにする。
- フィルムロールを表示しない。
- 高画質モードでの追っかけ再生(スリップ再生)や録画中の再生をしない。
- 録画中は、他のソフトウェアを起動したり使用しない。

録画を実行しても何も録画されない。

→ 本機に接続した機器が正しく接続されているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[拡張・接続/データのやりとり]→[周辺機器を接続する]→[ビデオデッキをつなぐ(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ 本機に接続した機器が動作していない可能性があります。ビデオカメラレコーダーやビデオデッキから録画するときは、それらの機器の電源が入っているか確認してください。

→ ゲーム機器などの映像は、表示や録画ができないことがあります。
また、本機と接続したビデオ機器から映像を入力している場合、一時停止時などの画像や映像が入力されていないときの画面(青い画面など)や、本機に接続したビデオ機器が表示するメニュー画面などは表示や録画ができないことがあります。

縞状のノイズが多い。

→ アンテナケーブルは、他の電源コードや接続ケーブルからできるだけ離してください。

録画時と再生時の音量が違う。

→ ボリュームコントロールの設定を変更すると、テレビの録画や再生に支障をきたす場合があります。出荷時の音量設定に戻してください。(160ページ)

リモコン(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)

リモコンで操作できない。

→ リモコンとリモコン用受光ユニットの間に障害物がある。障害物を取り除く。

→ リモコンと受光ユニットの距離が離れすぎている。近寄って操作する。

→ リモコンの発光部が受光ユニットの方を向いていない。リモコンを受光ユニットに向ける。

→ リモコンの電池が+/−逆に入っている。正しい方向に入れ直す。

→ リモコンの乾電池が消耗している。電池を交換する。

→ 本機の近くにインバーター方式の蛍光灯がある。本機と蛍光灯を離して設置する。

「Giga Pocket」、「WinDVD」、「SonicStage」ソフトウェアを操作できない。

→ テレビ/PC切換スイッチが「PC」になっているか確認する。

テレビを操作できない。

→ テレビ/PC切換スイッチが「テレビ」になっているか確認する。

→ テレビのメーカー番号の設定を確認する。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[基本的な使いかた]→[バイオでテレビを見る/録画する(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)]→[リモコンで操作する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

フロッピーディスク

フロッピーディスクが取り出せない。

→ USBフロッピーディスクドライブを取りはずして、VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。

「ディスクがいっぱいです」というメッセージが表示され、ファイルなどをフロッピーディスクに保存できない。

→ フロッピーディスクの容量の空きがない。容量の空きが充分にある別のフロッピーディスクを使って保存し直す。

「書き込み禁止」というメッセージが表示された。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[基本的な使いかた]→[フロッピーディスクを使う]→[フロッピーディスクのデータを誤って消さないようにする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

「マイ コンピュータ」からフロッピーディスクを選んで初期化しようとしたができない。

→ フロッピーディスクが書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[基本的な使いかた]→[フロッピーディスクを使う]→[フロッピーディスクのデータを誤って消さないようにする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブにきちんと入っているか確認する。

「アプリケーションが使用中です」というメッセージが表示され、フロッピーディスクを初期化できない。

→ フロッピーディスクの内容が画面に表示されているときは初期化できないので、フロッピーディスクのウィンドウを閉じる。

フロッピーディスクにアクセスできない。

→ お使いになるフロッピーディスクのフォーマットなどをご確認ください。本機で使用できるフロッピーディスクについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[バイオインフォメーション]→[知っ得情報]→[使用できるフロッピーディスク]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

CD・DVDディスク

CD-ROMなどのディスクが再生できない。

→ ドライブが正しく装着されているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[基本的な使いかた]→[CDやDVDなどのディスクを使う]→[ドライブを取りはずす／取り付ける]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ ディスクが正しくトレイに置かれているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[基本的な使いかた]→[CDやDVDなどのディスクを使う]→[CDやDVDなどのディスクを入れる／取り出す]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ ディスクの再生面を柔らかい布できれいに拭き、汚れをとってください。（201ページ）

→ 結露（193ページ）が生じている可能性があります。1時間くらい待って電源を入れ直してから、もう1度再生してください。

→ 再生音量を確認してください。

→ 本機で使用できるディスクかどうか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[バイオインフォメーション]→[知っ得情報]→[使用できるCDやDVDなどのディスク]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

DVDが再生できない。

→ DVDディスクの地域番号（リージョンコード）が合っているか確認してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[バイオインフォメーション]→[制限事項]→[DVDビデオについてのご注意]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

ディスクの再生時、音がとぎれる。

→ ディスクの再生面を柔らかい布できれいに拭き、汚れをとってください。（201ページ）

ディスクが取り出せない。

→ 本機が省電力動作モードのときは、ディスクを取り出せません。通常モードに復帰させてから、イジェクトボタンを押してください。
省電力動作モードについて詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[バイオインフォメーション]→[知っ得情報]→[省電力動作モードについて]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

イジェクトボタンを押してもディスクが取り出せない。

→ 針金のようなもの（太めのクリップで代用可）を、本機のドライブ側面にあるマニュアルイジェクト穴に押し込んでください。

CD-RWの読み出しが遅い。

→ CD-RWディスクの読み出しは、一般にCD-RやCD-ROMの読み出しよりも時間がかかります。また、フォーマットの種類によっても大きく異なります。

ディスクに書き込めない。

→ ディスクにデータを書き込む際のご注意をご確認ください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[バイオインフォメーション]→[制限事項]→[CDやDVDなどのディスクにデータを書き込むときのご注意]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

CD-Rに書き込めない。

→ CD-Rは1度書き込むと書き替えはできません。ソフトウェアによっては、ディスクに空きがあるときは追記可能な場合があります。

DVD-R、DVD-RWに書き込めない。

→ CD-RW/DVDドライブ搭載モデルではDVDディスクへの書き込みはできません。

→ DVD-Rは1度書き込むと、書き替えはできません。
書き込んだデータを削除することもできません。

DVD+R、DVD+RWに書き込めない。

→ DVD±RWドライブ搭載モデルでのみ書き込めます。(28ページ)

→ DVD+Rは1度書き込むと、書き替えはできません。
書き込んだデータを削除することもできません。

DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RWの書き込みに時間がかかる。

→ DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RWにディスク・アット・ワンスで書き込む場合、データは最低限1 Gバイト(1倍速で約12分)で書き込む必要があります。
書き込むデータの容量が1 Gバイト以下の場合、本機では合計で1 Gバイトまでダミーの書き込みを行います。これは、規格上、再生互換を保つためです。
そのため、DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RWに書き込むときに、1 Gバイト未満のデータを書き込んだ場合、データの書き込みは終了していても、ダミーのデータ書き込み処理完了までさらに20分～40分かかることがあります。
ただし、DVD+RやDVD+RWに書き込むことができるのは、DVD±RWドライブ搭載モデルのみです。
CD-RW/DVDドライブ搭載モデルではDVDディスクに書き込むことはできません。

CD-RWに書き込んだMPEG2データを再生すると、正常に再生できない。

→ CD-RWディスクの読み込み速度は、DVD+RやDVD+RW、DVD-R、DVD-RW、CD-Rと比べて遅いため、高画質のMPEG2データは再生できないことがあります。
ハードディスクにコピーするか、DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RWに書き込むなどして、再生してください。
ただし、DVD+RやDVD+RWに書き込むことができるのは、DVD±RWドライブ搭載モデルのみです。
CD-RW/DVDドライブ搭載モデルではDVDディスクに書き込むことはできません。

「Click to DVD」ソフトウェアを使ってDVD+RWのディスクに書き込みをすると、「書き込み済みのディスクが挿入されています。このディスクに映像を書き込みます。このディスクのデータを消去してもよろしいですか？」というメッセージが表示される。

→ 書き込みしたことのあるDVD+RWのディスクを使用する場合、「Drag'n Drop CD+DVD」ソフトウェアなどでデータを削除したあとでも上記のメッセージが表示されることがあります。
この場合は、[はい]をクリックしてください。
[いいえ]または[キャンセル]すると書き出しはできません。

“メモリースティック”

「書き込み禁止」または「書き込み保護されています」というメッセージが表示された。

→ “メモリースティック”が書き込み禁止になっている。タブを動かして書き込み可能にする。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[基本的な使いかた]→[“メモリースティック”を使う]→[データを書き込み禁止にする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

DV機器・i.LINK機器

DV機器が使用できない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。

→ DV機器の電源が入っているか、またはケーブルが正しく接続されているか確認する。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[拡張・接続／データのやりとり]→[i.LINK対応機器とデータをやりとりする]→[i.LINK対応機器をつなぐ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ i.LINKでは、複数の機器を接続して動くように設計されていますが、機器との組み合わせによっては、動作が不安定になることがあります。接続されている機器すべての電源をいったん切り、なるべく不要な機器を取りはずして、ケーブルの接続を確認した後、再度電源を入れてください。

本機と接続したi.LINK対応機器が認識されない。または、「DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。」などのメッセージが表示される。

→ いったんi.LINKケーブルを抜き、再度接続し直してください。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[拡張・接続／データのやりとり]→[i.LINK対応機器とデータをやりとりする]→[i.LINK対応機器をつなぐ]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

「DVgate Plus」ソフトウェアを使用してテープに録画中、「DV機器への録画に失敗しました。DV機器の電源、接続の状態を確認して操作をやり直してください」というメッセージが表示される。

→ DV機器の電源やケーブルが正しく接続されているかどうか確認してください。また、続けて録画を行っていると、機器が正しく接続されていても、録画できなくなる場合があります。その場合、すべてのソフトウェアを終了してから本機を再起動してください。
さらに快適な環境でご使用いただくためには、メモリの増設をおすすめします。(168ページ)

「DVgate Plus」ソフトウェアを使用中にフレーム落ちが生じる。

→ 使用状況によってはフレーム落ちが生じることがあります。
その場合は、メモリの増設をしてください。(168ページ)

→ デフラグを行ってください。(186ページ)

→ 他のソフトウェアを終了してください。

→ スクリーンセーバーなどが動作しないように設定を変更してください。

→ 常駐型のディスクユーティリティや、ディスクのアクセスを高速化するユーティリティなどの使用を控えてください。

i.LINK接続したバイオどうしで接続できない。

→ お使いの機種によっては、本機とデータのやりとりができない場合があります。
詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[拡張・接続／データのやりとり]→[i.LINK対応機器とデータをやりとりする]→[i.LINK接続でデータをやりとりする]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ i.LINKケーブルをいったん抜いてもう1度挿し直してください。しばらく待って接続できないときは再起動してください。

→ ネットワークの設定によっては、省電力動作モードから復帰後に接続できなくなることがあります。その場合は、省電力動作モードに入らないようにしてご使用ください。

プリンタ

プリンタで印刷できない。

→ Windows XP対応でないプリンタドライバではお使いになれません。お使いのプリンタの製造元からWindows XPに対応したドライバを入手してお使いいただくか、プリンタの製造元へお問い合わせください。

→ プリンタポートのモード設定を変更する。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[設定を変更する]→[本機の使用環境を設定する(「Sony Notebook Setup」の使いかた)]→[プリンタポートの設定を変更する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ 本機とプリンタ、ACアダプタと電源コード、電源コードとコンセントがそれぞれ正しく接続されているか確認し、本機を再起動してください。

PCカード

PCカードが使えない。

→ Windows XP対応でないPCカードは使えないことがあります。

→ 以前使用できたPCカードが使用できなくなった場合は、次の手順でドライバの更新を行ってください。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
3 [システム]アイコンをクリックする。
4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。
5 動作しないPCカードをダブルクリックして、プロパティ画面を表示する。
6 [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックする。

→ ドライバの更新を行っても使用できない場合は、PCカード製造元にお問い合わせください。

スピーカー・ヘッドホン

スピーカーやヘッドホンから音が出ない。

→ 音声出力が「切」になっている。Fnキーを押しながら、F3キーを押す。(61ページ)

→ 音量設定が最小になっている。
Fnキーを押しながら、F4キーを押したあと、↑または→キーを押して音量を上げてください。(61ページ)
また、VOLUME(ボリューム)ボタンの[+]を押しても、音量を上げることができます。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、[基本的な使いかた]→[便利なボタンを使う]→[音量を調整する]の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

→ 使用するソフトウェアの再生音量を確認する。

→ 外部スピーカーやヘッドホンをお使いの場合は、本機とスピーカーやヘッドホンが正しく接続されているか確認する。

→ 外部スピーカーやヘッドホンの音量設定が最小になっている。
音量つまみで音量を上げる。詳しくは、スピーカーやヘッドホンに付属の取扱説明書をご覧ください。

→ 本機の内蔵スピーカーから音を出す場合に🎧(ヘッドホン)コネクタにケーブルをつないでいるときは、ケーブルをはずす。

音楽CDを再生してもスピーカーやヘッドホンから音が出ない。

→ マルチパーパスベイにドライブを取り付けた状態で次の手順で設定を確認してください。

1 [スタート]ボタンをクリックして[コントロール パネル]をクリックする。
2 [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]をクリックする。
3 [サウンドとオーディオ デバイス]をクリックする。
4 [ハードウェア]タブをクリックし、「デバイス」に表示されたリストからお使いのドライブを選んで[プロパティ]をクリックする。
5 [プロパティ]タブをクリックし、[このCD-ROMデバイスでデジタル音楽CDを使用可能にする]のチェックボックスがチェックされていることを確認する。
チェックされていないときは、クリックしてチェックします。

Fnキーを押しながらF3キーまたはF4キーを押しても、何も表示されない。

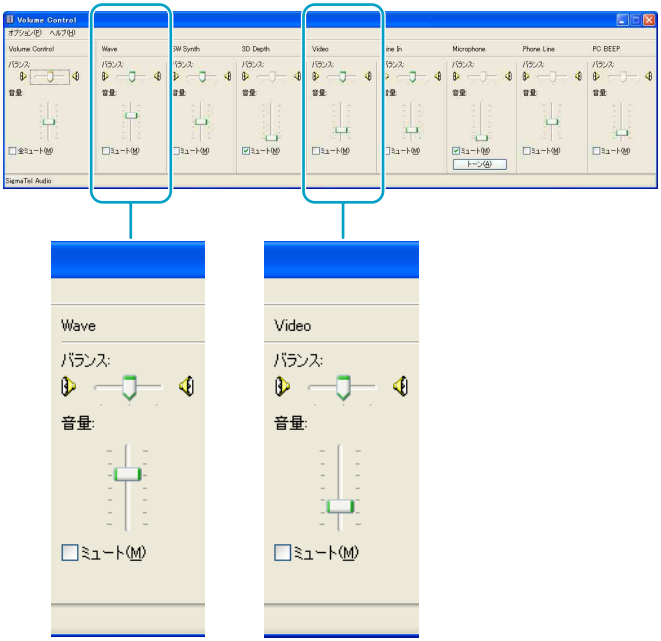
→ 次の手順で「デバイス マネージャ」画面を表示し、サウンドデバイスを使用できるように設定してください。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
3 [システム]アイコンをクリックする。
4 [ハードウェア]タブの[デバイス マネージャ]をクリックする。

「Giga Pocket」ソフトウェアでテレビの録画や再生をするために、スピーカーの音量設定を変更したい。(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)

→ 次の手順で音量設定を変更してください。

1. デスクトップ画面右下の通知領域にある をダブルクリックする。
2. 「Volume Control」のメニューから[オプション]→[プロパティ]を選択して、プロパティ画面を表示する。
3. 表示するコントロールの中から、[Video]をチェックして、[OK]をクリックする。
4. 「Volume Control」画面で、次の音量スライダとミュート設定を図のように調節する。
   - Wave
   - Video



マイク

マイクが使えない。

→ 録音デバイスとしてマイクが選択されていない可能性があります。次の手順に従って選択してください。

1 [スタート]ボタンをクリックして[コントロール パネル]をクリックする。
「コントロール パネル」画面が表示されます。

2 [サウンド、音声、およびオーディオ デバイス]をクリックする。

3 画面左側の「関連項目」から、[詳細ボリューム コントロール]をクリックする。
「ボリューム コントロール」画面が表示されます。

4 [オプション]メニューから[プロパティ]を選ぶ。

5 「音量の調整」の[録音]と「表示するコントロール」のマイクの項目をチェックし、[OK]をクリックする。

6 マイクの項目の[選択]がチェックされていることを確認する。
チェックされていないときは、クリックしてチェックします。

7 スライダを上下に動かして好みの音量に調整する。

→ 「Windows Media Player」などの音声を扱うソフトウェアと同時に動かしている場合は、それらのソフトウェアを終了させてください。

→ プラグインパワー方式に対応したマイクをご使用ください。

音声を扱うソフトウェアでエラーメッセージが表示された。

→ 他の音声を扱うソフトウェアと同時に動かしている場合は、それらのソフトウェアを終了させてください。

ファン

ファンが回らない。

→ CPUの発熱に応じて回転数を制御するため、電源が入っているときでもファンが回らない場合があります。また、ファンが回っていても回転音が静かで聞こえない場合があります。

何も操作していないのにファンから音がする。

→ 本機に搭載されている冷却ファンは、本体内の温度の上昇にあわせて回転数を調節します。何も操作していないときでも、CPUが何らかの処理を行っている場合などに、ファンの回転数が上昇することがあります。これは正常な動作であり、故障ではありません。

パスワード

パスワードを忘れた。

→ パスワードを忘れてしまったときは、修理(有償)が必要となります。VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。

省電力動作モード

バッテリ残量がわずかなのに、休止状態にならない。

→ 使用中のソフトウェアや接続している周辺機器によっては、Windowsからの指示で作業を一時中断することができないため、この機能が正しく働かないことがあります。

休止状態に移行できない。

次の操作を行ってください。

→ モデム通信やプリンタユーティリティなどが使用中の場合は、終了するか一時的に使用不可にする。

→ それでも休止状態に移行できない場合は、次の手順で操作してください。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
2 [パフォーマンスとメンテナンス]アイコンをクリックする。
3 [電源オプション]アイコンをクリックする。
「電源オプションのプロパティ」画面が表示されます。
4 [休止状態]タブで「休止状態を有効にする」がチェックされているか確認する。
チェックされていないときは、チェックボックスをクリックしてチェックしてください。
5 [詳細設定]タブをクリックする。
6 「電源ボタン」の「コンピュータの電源ボタンを押したとき」が「休止状態」になっているか確認する。
「休止状態」になっていないときは、 をクリックして[休止状態]を選び、[OK]をクリックしてください。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアが起動しているときは、休止状態に移行できません。「Giga Pocket」を終了してください。

→ 店頭展示用設定ツールが動作中は、タイマーで休止状態に移行できません。設定を解除するには、次の手順に従って店頭展示用設定ツールを終了させてください。

1 [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]→[店頭展示用設定ツール]の順にポインタをあわせ、[店頭展示用設定ツールを無効にする]をクリックする。
確認画面が表示されます。
2 [OK]をクリックする。

スタンバイに移行できない。

→ モデム通信やプリンタユーティリティなどが使用中の場合は、終了するか一時的に使用不可にする。

→ スクリーンセーバーの種類によっては、表示中はスタンバイに移行できないことがあります。

→ 「Giga Pocket」ソフトウェアが起動しているときは、スタンバイに移行できません。「Giga Pocket」を終了してください。

→ 店頭展示用設定ツールが動作中は、タイマーでスタンバイに移行できません。設定を解除するには、次の手順に従って店頭展示用設定ツールを終了させてください。

1 ［スタート］ボタンをクリックして［すべてのプログラム］→［店頭展示用設定ツール］の順にポインタをあわせ、［店頭展示用設定ツールを無効にする］をクリックする。
確認画面が表示されます。

2 ［OK］をクリックする。

電源オプションの設定が有効にならない。

→ 付属の「PowerPanel」ソフトウェアを使用して設定してください。本機では、「PowerPanel」で省電力動作モードを管理しています。
設定方法について詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の バイオの使いかた をクリックし、［設定を変更する］→［バッテリを節約する／パフォーマンスを調整する］→［プロファイルのパワーマネージメント設定を変更する］の順にクリックして表示される情報をご覧ください。

ハードディスク

誤ってハードディスクを初期化してしまった。

→ ハードディスク内のリカバリ機能や自作のリカバリディスクを使って、本機を再セットアップする必要があります。（176ページ）

ハードディスクから起動できない。

→ フロッピーディスクがUSBフロッピーディスクドライブに入っているときは、イジェクトボタンを押して取り出す。その後、キーボードのいずれかのキーを押す。

何も操作していないのにハードディスクから音がする。

→ OSの処理などにより、何も操作していない場合でもハードディスクの読み書きが行われ、動作音がすることがあります。これはCPUの正常な処理であり、故障ではありません。

→ ハードディスクからまれに「カチャン」という音がする場合があります。これはハードディスク内にあるヘッドが動作するときに発する音であり、異常ではありません。

文字入力

日本語が入力できない。

→ 「サイバーサポート」画面左側の できるWindows をクリックして表示される情報をご覧ください。

キーボードを使って正しく入力できない。

→ U、I、O、J、K、L、M、@ などの文字が入力できない場合は、Num Lock（ナムロック）が有効になっている場合があります。

(Num Lock) ランプが点灯していないか確認してください。点灯している場合は、Num Lk キーを押してランプを消灯させてから入力してください。（59ページ）

→ 次の手順で操作し、キーボードの項目が「日本語 PS/2 キーボード（106/109キー Ctrl+英数）」に設定されているか確認してください。異なるキーボードタイプに設定していると、入力したい文字と違う文字が表示されることがあります。

1 ［スタート］ボタンをクリックして、［コントロール パネル］をクリックする。
2 ［パフォーマンスとメンテナンス］アイコンをクリックする。
3 ［システム］アイコンをクリックする。
4 ［ハードウェア］タブの［デバイス マネージャ］をクリックする。
5 キーボードの項目が「日本語 PS/2 キーボード（106/109キー Ctrl+英数）」に設定されているか確認する。

入力した文字が表示されない。

→ 文字を入力したいソフトウェアの画面が前面に出ていない。（ディスプレイ上では薄い色の画面になります。）画面のどこかをクリックするか、Alt キーと Tab キーを同時に押して目的のソフトウェアを前面に出し、使える状態にする。

IMEの言語バーが表示されない。

→ IMEの言語バーが表示されない場合は、次の手順で操作し言語バーを表示させてください。

1 [スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックする。
2 [日付、時刻、地域と言語のオプション]、[地域と言語のオプション]アイコンを順にクリックする。
「地域と言語のオプション」画面が表示されます。
3 [言語]タブをクリックし、[詳細]をクリックする。
「テキスト サービスと入力言語」画面が表示されます。
4 [言語バー]をクリックする。
「言語バーの設定」画面が表示されます。
5 [言語バーをデスクトップ上に表示する]をクリックしてチェックし、[OK]をクリックする。
6 「テキスト サービスと入力言語」画面、「地域と言語のオプション」画面でそれぞれ[OK]をクリックして画面を閉じる。

言語バー右上の（最小化ボタン）をクリックすると言語バーはタスクバーに収納され、タスクバーに常に表示させておくことができます。

プロセッサ（CPU）

「システムのプロパティ」画面でCPUのクロック周波数が正しく表示されない。

→ 「システムのプロパティ」画面にはCPUのクロック周波数が低めに表示される場合があります。

メッセージ

表示されたメッセージの回避方法をご案内します。

アプリケーションが使用中です

→ 「フロッピーディスク」（153ページ）をご覧ください。

書き込み禁止（フロッピーディスク）

→ 「フロッピーディスク」（153ページ）をご覧ください。

ディスクがいっぱいです

→ 「フロッピーディスク」（152ページ）をご覧ください。

書き込み済みのディスクが挿入されています。このディスクに映像を書き込みます。このディスクのデータを消去してもよろしいですか？

→ 「CD･DVDディスク」(156ページ)をご覧ください。

「書き込み禁止」または「書き込み保護されています」(“メモリースティック”)

→ 「“メモリースティック”」(156ページ)をご覧ください。

DV機器が接続されていないか、電源が入っていないので、動作しません。

→ 「DV機器･i.LINK機器」(156ページ)をご覧ください。

DV機器への録画に失敗しました。DV機器の電源、接続の状態を確認して操作をやり直してください

→ 「DV機器･i.LINK機器」(157ページ)をご覧ください。

No System disk or disk error. Replace and press any key when ready.

→ 「Windowsの起動」(133ページ)をご覧ください。

Invalid system disk. Replace the disk, and then press any key.

→ 「Windowsの起動」(133ページ)をご覧ください。

NTLDR is missing. Press any key to restart.

→ 「Windowsの起動」(133ページ)をご覧ください。

Operating system not found

→ 「Windowsの起動」(133ページ)をご覧ください。

System Disable

→ 「Windowsの起動」(134ページ)をご覧ください。

Press <F1> to resume, <F2> to Setup

→ 「Windowsの起動」(134ページ)をご覧ください。

その他

メモリモジュールを取り付ける／取りはずす

本機にはメモリモジュールを取り付けるスロットが2つあり、最大1 Gバイトまでメモリを増設できます。*
メモリ容量が大きいと、データの処理速度や、複数のソフトウェアを同時に起動したときの処理が速くなります。

* PCG-GRT99/Pは、工場出荷時に512 Mバイトメモリモジュールが1枚取り付けられています。メモリを1 Gバイトまで増設する場合は、別売りの拡張用512 Mバイトメモリモジュールを1枚取り付けてください。
PCG-GRT77/Bは、工場出荷時に256 Mバイトメモリモジュールが2枚取り付けられています。メモリを1 Gバイトまで増設する場合は、すでに取り付けられているメモリモジュールを2枚とも取りはずし、別売りの拡張用512 Mバイトメモリモジュールを2枚取り付けてください。
PCG-GRT55/Bは、工場出荷時に256 Mバイトメモリモジュールが1枚取り付けられています。メモリを1 Gバイトまで増設する場合は、すでに取り付けられている256 Mバイトメモリモジュールを取りはずし、別売りの拡張用512 Mバイトメモリモジュールを2枚取り付けてください。

メモリモジュールを取り付けるには

ご注意

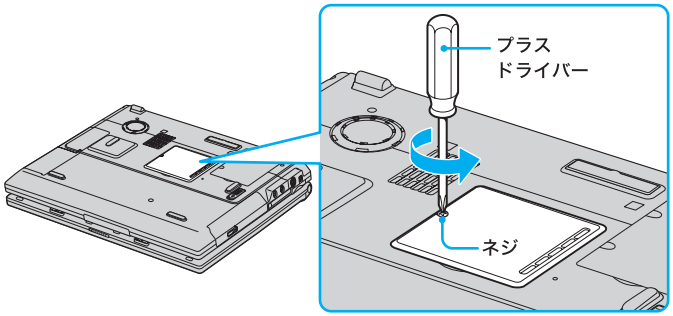
- メモリモジュールを取り付ける前に、本機の電源を切り、約1時間ほどおいてから作業を行ってください。電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをするおそれがあります。
- コンピュータ内部はとても精密にできています。そのため、メモリモジュールの取り付けや取りはずしは注意深く行う必要があります。取り付けかたや取りはずしかたを誤ると、本機の故障の原因になります。破損した場合は有償修理となります。
  メモリモジュールの取り付けや取りはずしに関するご相談やご質問は、VAIOカスタマーリンクまでご連絡ください。
- 別売りのソニー製メモリーモジュールPCGA-MM256D/MM512D以外では、正常に認識されなかったり、Windowsの動作が不安定になるものがあります。他社のメモリモジュールをお使いになる場合には、販売店またはメモリモジュールの製造メーカーにご相談ください。
- 水などの液体や、ネジなどの異物が入ると故障の原因となりますので、ご注意ください。

メモリモジュールの取り扱いについて

- 静電気でメモリモジュールを破壊しないように、メモリモジュールを取り扱うときは、次のことをお守りください。
  - ーメモリモジュールを取り付けるときは、静電気の起こりやすい場所（カーペットの上など）では作業しないでください。
  - ー静電気を体から逃がすため、本機の金属部に触れてから作業を始めてください。
    ただし、本機内部の金属部には触らないようご注意ください。
  - ーメモリモジュールは静電気防止袋に入っています。取り付け直前まで袋から出さないでください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードやバッテリ、およびすべての接続ケーブルを取りはずす。

2 本機を裏返し、底面のふたを開ける。



ご注意

- ドライバーはネジのサイズにあったもの（精密ドライバーなど）をお使いください。
- 指定以外のネジをはずしたり、ゆるめたりしないでください。本機の故障の原因となるおそれがあります。
- はずしたネジが、周囲のすき間から機器内に落ちないようご注意ください。

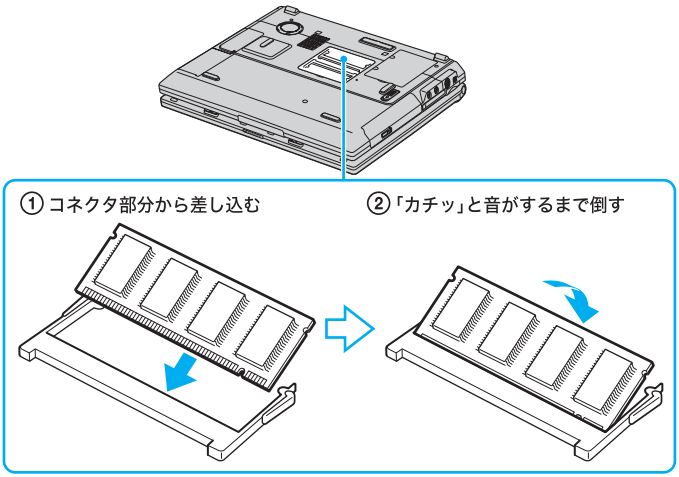
3 本機の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを静電気防止袋から取り出す。

ただし、本機内部の金属部には触らないようご注意ください。

4 メモリモジュールを取り付ける。

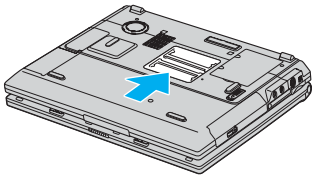
①メモリモジュールのエッジコネクタ部分を下にむけ、切り欠き部分をスロットの溝にあわせて、奥までしっかりと差し込む。

②「カチッ」と音がするまで、矢印の方向にメモリモジュールを倒す。メモリモジュールの両端が固定されます。



ご注意

- メモリモジュール以外の基板には触れないようご注意ください。
- メモリモジュールを1枚しか使わない場合は、必ず次の矢印で示した側のスロットに取り付けてください。



5 ふたを元に戻し、ネジをしっかり締める。

6 メモリの容量を確認する。

①本機の電源を入れる。

②[スタート]ボタンをクリックして、[すべてのプログラム]→[VAIO ソフトウェアはこちら]→[ユーティリティ]の順にポインタを合わせ、[Sony Notebook Setup：ハードウェア情報の管理と設定]をクリックする。

「Sony Notebook Setup」画面が表示されます。

③[システム情報]タブをクリックして、「システム メモリ」の項目を確認する。

メモリ容量が正しくないときは、本機の電源を切って、もう1度正しく取り付けの手順を繰り返してください。

メモリモジュールを取りはずすには

ご注意

メモリモジュールを取りはずす前に、本機の電源を切り、約1時間ほどおいてから作業を行ってください。電源を切ったすぐあとは、本機の内部が熱くなっており、やけどをするおそれがあります。

メモリモジュールの取り扱いについて

- 静電気でメモリモジュールを破壊しないように、メモリモジュールを取り扱うときは、次のことをお守りください。
  - メモリモジュールを取りはずすときは、静電気の起こりやすい場所（カーペットの上など）では作業しないでください。
  - 静電気を体から逃がすため、本機の金属部に触れてから作業を始めてください。

    ただし、本機内部の金属部には触らないようご注意ください。
- メモリモジュールを保管するときは、静電気防止袋またはアルミホイルで覆ってください。

1 本機と周辺機器の電源を切り、電源コードやバッテリ、およびすべての接続ケーブルを取りはずす。

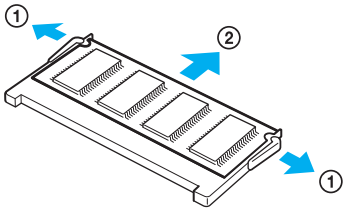
2 「メモリモジュールを取り付けるには」の手順2を行う。

3 本機の金属部に触れて体の静電気を逃がしてから、メモリモジュールを取りはずす。

ただし、本機内部の金属部には触らないようご注意ください。

①メモリモジュールを固定しているタブを、注意しながら同時に押し広げる。

②メモリモジュールを矢印の方向に引き抜く。



4 ふたを元に戻し、ネジをしっかり締める。

再セットアップ(リカバリ)について

再セットアップ(リカバリ)とは

下記のような場合に本機のハードディスクの内容を工場出荷時の状態に戻すことを「再セットアップ」または「リカバリ」といいます。

- コンピュータウイルスに感染し、本機が起動できなくなったとき
- 何らかの原因で本機が不安定になったとき
- 誤ってC:ドライブを初期化してしまったとき

工場出荷時の本機ハードディスクのリカバリ領域には、再セットアップに必要なすべてのファイルが保存されていますので、ハードディスクから再セットアップをすることができます。
また、リカバリディスクを作成することもできます。(183ページ)

VAIOカスタマーリンクでは、リカバリディスクを有償にてご提供するサービスを行っています。VAIOカスタマーリンクが別途指定するWebページ「マイサポーター」からお申し込みいただけます。詳しくは下記のホームページをご覧ください。
http://vcl.vaio.sony.co.jp/cdromss/rdisc.html

* ご購入にはVAIOカスタマーご登録(46ページ)が必要です。

再セットアップ(リカバリ)でできること

- ハードディスクを初期化した上で、すべてのファイルを復元する(工場出荷時の状態に戻る)。
- ハードディスクのパーティションのサイズを変更する。(186ページ)

ご注意

- 本機で作成したリカバリディスクは本機でのみ使用できます。他の製品には使用できません。詳しくは、「リカバリディスクを作成する」(183ページ)をご覧ください。
- 再セットアップ(リカバリ)で復元できるのは、本機に標準で付属されているソフトウェアのみです。ご自分でインストールしたソフトウェアや作成したデータを復元することはできません。また、Windowsだけを復元することもできません。
- ご自分で変更された設定は、再セットアップ(リカバリ)後はすべて工場出荷時の設定に戻ります。再セットアップ後に、もう1度設定し直してください。
- 再セットアップ(リカバリ)する際は、必ず「システムリカバリ」と「アプリケーションリカバリ」の両方の再セットアップを行ってください。「アプリケーションリカバリ」を行わずに再セットアップを完了すると、本機の動作が不安定になる場合があります。

- 「Sony Notebook Setup」でパスワードを登録している場合、パスワードを忘れるとリカバリができなくなります。パスワードは必ずメモを取るなどして、忘れないようにしてください。
  万一パスワードを忘れてしまったときは、修理（有償）が必要となります。VAIOカスタマーリンクにご連絡ください。
- パーティションを操作する一部のプログラムをインストールすると、ハードディスクのリカバリ領域を使ってリカバリしたり、リカバリディスクの作成が行えなくなることがあります。
  そのような場合に備えて、リカバリディスクを作成しておくことをおすすめします。

再セットアップ（リカバリ）の種類

再セットアップ（リカバリ）方法を次の3種類から選択することができます。通常は、「システムドライブをリカバリ」を行うことをおすすめします。

システムドライブをリカバリ	C:ドライブにあるすべてのファイルを削除した上で、出荷時の設定を復元します。C:ドライブ以外のドライブにあるファイルは削除されません。
パーティションサイズを変更してリカバリ	現在あるC:ドライブとD:ドライブのパーティションを削除して、サイズを変更します。その後ハードディスクをフォーマットした上で出荷時の設定を復元します。それ以前にハードディスクにあったデータは、C:ドライブ、D:ドライブとも失われてしまいます。リカバリディスクを作成している場合（183ページ）は、リカバリディスクを使ってリカバリ領域*を削除することができます。
出荷時状態へリカバリ	現在あるC:ドライブとD:ドライブのパーティションを削除し、出荷時状態へパーティションを強制的に戻します。その後ハードディスクをフォーマットした上で出荷時の設定を復元します。それ以前にハードディスクにあったデータは、C:ドライブ、D:ドライブとも含めてすべて失われてしまいます。リカバリディスクを作成している場合（183ページ）は、リカバリディスクを使って、削除したリカバリ領域*を復元することができます。

* リカバリ領域とは、再セットアップを行うための「システムリカバリ」と「アプリケーションリカバリ」がおさめられているハードディスク内の領域のことです。

再セットアップ(リカバリ)する前に

本機を再セットアップする前に、大切なデータは必ずバックアップをとってください。
バックアップをとるには、次の方法があります。

- フロッピーディスクにコピーする。
- CDなどのディスクにコピーする。
- D:ドライブにデータを残して、再セットアップ(リカバリ)を行う。

本機のハードディスクは、C:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれています。「再セットアップ(リカバリ)する」(176ページ)の手順に従って操作すると、C:ドライブのファイルはすべて消えてしまいますが、D:ドライブにあるファイルは残ります。

ご注意

再セットアップ(リカバリ)する前に、以下の点を確認してください。

- すべての周辺機器をはずし、ACアダプタのみを接続してから、作業を行ってください。周辺機器は、再セットアップ(リカバリ)が終わったあとに再び接続してください。
- Windowsが完全に起動できなかった場合などに本機を再セットアップするときは、「Windowsが起動しない状態で再セットアップ(リカバリ)する」(182ページ)をご覧ください。
- パーティションサイズを変更するときは、「パーティションサイズを変更する」(186ページ)をご覧ください。

再セットアップ(リカバリ)する

Windowsから再セットアップ(リカバリ)する

以下の手順に従って本機を再セットアップ(リカバリ)します。Windowsが起動しない場合には「Windowsが起動しない状態で再セットアップ(リカバリ)する」(182ページ)をご覧ください。

1 **[スタート]をクリックして[すべてのプログラム]→[VAIO リカバリツール]の順にポインタを合わせ、[VAIO リカバリユーティリティ]をクリックする。**

「VAIO リカバリユーティリティ」画面が表示されます。

「リカバリ領域が見つかりませんでした」画面が表示された場合は、「リカバリディスクでリカバリ領域を作成する」(188ページ)をご覧ください。

2 **[システムリカバリ]を選んでクリックし、[OK]をクリックする。**

「再起動します」画面が表示されます。

3 **[OK]をクリックする。**

本機が再起動して、しばらくすると「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

4 **内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。**

「はじめに」画面が表示されます。

5 **引き続き内容をよく読んで、[次へ]をクリックする。**

「メイン メニュー」画面が表示されます。

6 **[システムドライブをリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。**

「実行確認」画面が表示されます。

7 **表示された内容をよく読み、[次へ]をクリックする。**

リカバリ開始確認画面が表示されます。

8 [はい]をクリックする。

「リカバリ」画面が表示され、リカバリ作業が自動的に開始されます。再セットアップを中止するときは、リカバリ開始確認画面で[いいえ]をクリックし、続いて「実行確認」画面で[キャンセル]をクリックします。

9 「「システムリカバリ」の処理が完了しました。」と表示されたら[OK]をクリックする。

「「システムリカバリ」が完了しました。」画面が表示されます。

10 [完了]をクリックする。

本機が自動的に再起動します。
Windowsのロゴの画面が表示されてから、「Microsoft Windowsへようこそ」画面が表示されるまでにしばらく時間がかかります。そのままお待ちください。途中で電源を切るなどの操作を行うと、本機の故障の原因となります。

11 「Windowsを準備する」(40ページ)の手順に従って、Windowsのセットアップを行う。

12 [OK]をクリックする。

自動的にアプリケーションソフトウェアのセットアップが始まります。

PCG-GRT99/PなどのOffice XP Personalがプレインストールされていないモデルをお使いの場合は、アプリケーションソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、[OK]をクリックして本機を再起動してください。

PCG-GRT77/B・GRT55/BなどのOffice XP Personalプレインストールモデルをお使いの場合は、引き続き次の手順を行ってください。

13 「Officeのインストールを行います。」画面が表示されるので、付属のOffice XP Personal プレインストール パッケージで、Microsoft(R) Office XP Personalをインストールする。

次の手順で、画面の指示に従ってインストールしてください。詳しくは、パッケージに付属の「セットアップガイド」をご覧ください。

①Office CDをドライブに入れ、画面の指示に従って操作する。

②「インストールの種類を指定してください」画面が表示されたら、[カスタム]のチェックボックスをクリックし、[次へ]をクリックする。

③[アプリケーションごとにオプションを指定してインストールします]のチェックボックスをクリックして、[次へ]をクリックする。

④「Microsoft Office」左横のアイコンをクリックし、表示されたポップアップメニューから[マイコンピュータからすべて実行]をクリックする。

⑤[Microsoft Excel for Windows]をダブルクリックして「読み上げ」左横のアイコンをクリックし、表示されたポップアップメニューから[インストールしない]をクリックする。

⑥[Office共有機能]、[入力システムの拡張]の順にダブルクリックし、「音声」左横のアイコンをクリックして表示されたポップアップメニューから[インストールしない]をクリックする。

⑦[次へ]をクリックする。
「インストールを開始します」画面が表示されるので、[完了]をクリックすると、インストールが始まります。
インストールが終了してメッセージが表示されたら[いいえ]をクリックしてください。

⑧Microsoft Office XPツールCDを挿入し、「ツールセットアップ」画面が表示されたら[Outlook Plus! 2.0のセットアップ]をクリックする。
「Microsoft Outlook Plus! Version 2.0インストールウィザードへようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックしてください。
「使用許諾契約書」画面が表示されたら、内容を確認して[「使用許諾契約書」の条項に同意します]をクリックしてから[次へ]をクリックします。その後は画面の指示に従ってインストールを行い、
「Microsoft Outlook Plus! ツールは正常にインストールされました」画面が表示されたら、[完了]をクリックしてください。

⑨Microsoft Office XPツールCDをいったん取り出してから再度挿入し、「ツールセットアップ」画面が表示されたら[Bookshelf Basic 3.0のセットアップ]をクリックする。
「Microsoft Bookshelf Basic Version 3.0のウィザードへようこそ」画面が表示されたら、[次へ]をクリックしてください。
セットアップタイプ選択画面が表示されたら、[標準]をクリックします。その後は画面の指示に従ってインストールを行い、「ウィザードを完了しました」画面が表示されたら、[完了]をクリックしてください。

⑩インストール終了後、[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[スタートアップ]から[QuickShelf]を右クリックし、表示されたポップアップメニューから[削除]をクリックする。
「ショートカット削除の確認」画面が表示されるので、[ショートカットの削除]をクリックして削除してください。

⑪[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[スタートアップ]から[Microsoft Office]を右クリックし、表示されたポップアップメニューから[削除]をクリックする。
「ショートカット削除の確認」画面が表示されるので、[ショートカットの削除]をクリックして削除してください。

⑫[スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[Microsoft Reference]から[Microsoft Bookshelf Basic Version 3.0]をクリックする。
Bookshelf Basicが起動します。

⑬「ツール」メニューから[オプション]をクリックして、「QuickShelfの設定」の[QuickShelfの開始]のチェックボックスをクリックしてチェックをはずし、[OK]をクリックする。

デスクトップ画面右下の通知領域に「QuickShelf3」の アイコンが存在しないことを確認し、「ファイル」メニューから[終了]をクリックしてBookshelf Basicを終了してください。

⑭[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]をクリックして「マイコンピュータ」画面を表示させ、[ローカルディスク(C:)]→[Program Files]→[OFFICE10]→[SP1]→[SP1]→[STANDARD]→[SP1CDPAK.EXE]の順にダブルクリックする。

⑮「展開されたファイルを保存する場所を指定してください」画面が表示されるので、[参照]をクリックし、「C:￥Program Files￥OFFICE10￥SP1￥SP1￥STANDARD」を指定して[OK]をクリックする。
指定した場所が正しいことを確認し、再度[OK]をクリックしてください。

⑯「Oxpsp1.exe」(展開されたファイル)をダブルクリックし、「このアップデートプログラムをインストールしますか？」と表示されたら、[はい]をクリックする。使用許諾契約書が表示されたら内容を確認して[はい]をクリックし、画面の指示に従ってインストールを行ってください。ディスクを挿入するようメッセージが表示された場合は、Office CDをドライブに入れて[OK]をクリックしてください。
「アップデートは正常に適用されました」と表示されたら、[OK]をクリックし、「マイ コンピュータ」画面を閉じてください。

⑰[スタート]ボタン→[マイコンピュータ]をクリックして「マイコンピュータ」画面を表示させ、[ローカルディスク(C:)]→[Program Files]→[OFFICE10]→[SP2]→[STANDARD]→[SP2CDPAK.EXE]の順にダブルクリックする。

⑱「展開されたファイルを保存する場所を指定してください」画面が表示されるので、[参照]をクリックし、「C:￥Program Files￥OFFICE10￥SP2￥STANDARD」を指定して[OK]をクリックする。
指定した場所が正しいことを確認し、再度[OK]をクリックしてください。

⑲「Oxpsp2.exe」(展開されたファイル)をダブルクリックし、「このアップデートプログラムをインストールしますか？」と表示されたら、[はい]をクリックする。
使用許諾契約書が表示されたら内容を確認して[はい]をクリックし、画面の指示に従ってインストールを行ってください。ディスクを挿入するようメッセージが表示された場合は、Office CDをドライブに入れて[OK]をクリックしてください。
「アップデートは正常に適用されました」と表示されたら、[OK]をクリックし、「マイ コンピュータ」画面を閉じてください。

通常は上記の手順で標準アップデートを行ってください。管理者用アップデートやOffice XP Service Packについては、「C:￥Program Files￥OFFICE10￥SP2￥SP2INST.HTM」をご覧ください。

ステップバイステップ インタラクティブのインストールについて詳しくは、パッケージに付属の「セットアップガイド」をご覧ください。

14「Officeのインストールを行います。」画面の[OK]をクリックする。

引き続き、自動的に残りのアプリケーションソフトウェアのセットアップが始まります。

15アプリケーションソフトウェアのセットアップが終わるとメッセージが表示されるので、ディスクを取り出してから[OK]をクリックして本機を再起動する。

16Microsoft(R) Office XPのライセンス認証を行う。

次のいずれかの方法で「ライセンス認証ウィザード」を起動して、ライセンス認証を行ってください。
また、手続きの方法はインターネット経由と電話の2種類が用意されています。
詳しくは、パッケージに付属の「セットアップガイド」をご覧ください。

- Officeのいずれかのソフトウェアを起動する。
- [スタート]ボタンをクリックして[すべてのプログラム]にポインタを合わせ、[Microsoft Office ツール]から[ライセンス認証]をクリックする。

なお、ライセンス認証については、次の専用窓口にお問い合わせください。

ライセンス認証専用窓口
電話番号:(0120)801-734　　受付時間:24時間受付

ご注意

インターネット経由で手続きを行う場合は、この手順を行う前にインターネットに接続するための準備を済ませておく必要があります。インターネット接続について詳しくは、「インターネットを始める」(66ページ)をご覧ください。

Windowsが起動しない状態で再セットアップ(リカバリ)する

Windowsが完全に起動しないときは、以下の手順に従って本機を再セットアップ(リカバリ)します。
また、リカバリディスクを作成している場合には、その中のリカバリ起動ディスクを使用して再セットアップ(リカバリ)を開始できます。(183ページ)

1 **(パワー)ボタンを押して本機の電源を入れる。**

2 **VAIOのロゴマークが表示されたらF10キーを押す。**

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

リカバリ起動ディスクでもVAIO システムリカバリユーティリティを起動させることができます。本機の電源が入っている状態で、ドライブにリカバリ起動ディスクを入れて電源を切り(44ページ)、再び電源を入れてください。

ご注意

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されない場合は、再び手順1からやり直してください。

- 「本機のハードディスクにはリカバリ領域が存在します」と表示される場合
  「ハードディスクのリカバリ領域を使用する」を選んで[OK]をクリックしてください。
- 「リカバリディスクに入れ替えて[OK]ボタンをクリックしてください」と表示される場合(リカバリ領域がない場合)
  リカバリディスク(183ページ)をドライブに入れ、[OK]をクリックしてください。

3 **「Windowsから再セットアップ(リカバリ)する」(176ページ)の手順4以降の操作をおこなってください。**

リカバリディスクを作成する

「リカバリディスク作成ツール」を使うと、リカバリディスクとリカバリ起動ディスクを作成できます。リカバリディスクを用意しておくと本機のハードディスク上のリカバリ領域を使わなくても、再セットアップ（リカバリ）をすることができます。

リカバリディスクとは

ハードディスクリカバリに対応した「バイオ」を再セットアップ（リカバリ）する機能をもったディスクです。

リカバリ起動ディスクとは

ハードディスクリカバリに対応した「バイオ」を Windows が起動していない状態でハードディスク（またはリカバリディスク）から再セットアップ（リカバリ）を始める時に使用する起動ディスクです。

VAIOカスタマーリンクでは、リカバリディスクを有償にてご提供するサービスを行っています。VAIOカスタマーリンクが別途指定するWebページ「マイサポーター」からお申し込みいただけます。詳しくは下記のホームページをご覧ください。
http://vcl.vaio.sony.co.jp/cdromss/rdisc.html

* ご購入にはVAIOカスタマーご登録（46ページ）が必要です。

リカバリディスクを作成する

ご注意

本機で作成したリカバリディスクは本機でのみ使用できます。他の製品には使用できません。

本機は再セットアップ（リカバリ）（173ページ）するための情報をハードディスクのリカバリ領域に保存していますが、ハードディスクが破損したときや、再セットアップするための情報を削除してより大きなハードディスク容量を確保したいときのために、再セットアップに必要となる情報をDVD-RやCD-Rなどのディスクに書き出すことができます。

リカバリディスク作成に必要なもの

- リカバリ起動ディスク作成用CD-R　1枚
- リカバリディスク作成用 CD-R　複数枚

PCG-GRT99/P・GRT77/BなどのDVD±RWドライブ搭載モデルまたはPCG-GRT55/BなどのDVD-RWドライブ搭載モデルの場合、リカバリディスクはDVD+R（1枚）、DVD-R（1枚）またはCD-R（複数枚）のうちいずれかを選んで作成できます。
ただし、DVD+Rを選択できるのはPCG-GRT99/P・GRT77/BなどのDVD±RWドライブ搭載モデルのみです。

ご注意

リカバリディスクを作成するときには、必ず管理者権限をもつユーザーで行ってください。

1 [スタート]をクリックして[すべてのプログラム]→[VAIO リカバリツール]の順にポインタを合わせ、[リカバリディスク作成ツール]をクリックする。

「リカバリディスク作成ツール はじめに」画面が表示されます。

2 [はい]をクリックする。

DVD±RWドライブ、DVD-RWドライブ非搭載モデルをお使いの場合は、手順4へ進んでください。

「リカバリディスク作成ツール ディスクの選択」画面が表示されます。

ご注意

リカバリディスク作成用にDVD+R、DVD-RまたはCD-Rのいずれかが必要となります。必要なディスクの枚数は、「リカバリディスク作成ツール ディスクの選択」画面で確認できます。

また、DVD+RかDVD-Rでリカバリディスクを作成する場合でも、リカバリディスクのうちリカバリ起動ディスクを作成するためにCD-Rが1枚必要となります。

3 使用するディスクを選択する。

作成するディスクに合わせて選択し、[OK]をクリックします。

4 「リカバリディスク作成ツール」画面が表示されたら、[開始]をクリックする。

「未使用ディスクの挿入」画面が表示され、リカバリディスクの作成が始まります。

リカバリディスクの作成が2回目以降の場合は、ここでリカバリディスクを選択し、希望するリカバリディスクのみ作成することができます。

5 指示されたディスクをドライブに挿入し[はい]をクリックする。

「リカバリディスク作成ツール」画面に現在の作成状況が表示されます。画面の指示に従って操作してください。

ディスクへの書き込みが完了すると、ドライブからトレイが自動的に引き出されます。

すでに作成したことがあるリカバリディスクを再び選択すると「このリカバリディスクは以前に作成されています。再度作成しますか？」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックすると作成を続けることができます。

6 「リカバリディスク作成ツール 完了」メッセージが表示されるので、画面の指示に従って、ディスク名を油性のフェルトペンなどでディスクのレーベル面（データが記録されていない面）に書き込み、[OK]をクリックする。

はじめてリカバリディスクを作成しているときは、すべてのリカバリディスクを作成するまで手順5、6を繰り返します。

リカバリディスクの作成がすべて完了すると、上記の「リカバリディスク作成ツール 完了」メッセージが表示されます。

7 [OK]をクリックする。

「リカバリディスク作成ツール」画面が表示されます。

8 [終了]をクリックする。

「終了確認」画面が表示されます。

9 [はい]をクリックする。

これでリカバリディスクの作成は終了です。

パーティションサイズを変更する

本機のハードディスクはC:ドライブとD:ドライブの2つのパーティションに分かれており、D:ドライブは、動画などの容量が大きいデータを保存したり、操作したりするための領域（データスペース）として使えるように設定されています（工場出荷時）。
動画の取り込みや書き出しを行う場合は大容量のデータを高速で読み書きするため、ハードディスクの断片化が起こることがあります。ハードディスクの断片化はフレーム落ちの原因となるため、データスペースとしてお使いになるパーティションは、ハードディスクの空き容量が常に連続になるよう、最適化（デフラグ）またはフォーマットを行ってください。
パーティションを区切ると、WindowsはC:ドライブにインストールされます。C:ドライブを最適化するには非常に時間がかかる場合がありますので、D:ドライブをデータスペースとしてお使いになることをおすすめします。

ご注意

ハードディスクのパーティションサイズを変更すると、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけではなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。パーティションサイズを変更する前に、大切なデータはCDなどのディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

パーティションサイズを変更するには

以下の手順に従ってパーティションサイズを変更します。

1 **「Windowsから再セットアップ（リカバリ）する」（176ページ）の手順1～5を行う。**
「メインメニュー」画面が表示されます。

2 **[オプションリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。**
「オプション メニュー」画面が表示されます。

3 **[パーティションサイズを変更してリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。**
「パーティション メニュー」画面が表示されます。
ここで現在のパーティションサイズを確認できます。

4 **C:ドライブのパーティションサイズをリストから指定し、[次へ]をクリックする。**
「実行確認」画面が表示されます。

5 **表示された内容をよく読んでから[次へ]をクリックする。**
リカバリ開始確認画面が表示されます。

6 **「Windowsから再セットアップ（リカバリ）する」（176ページ）の手順8以降の操作を行う。**

リカバリ領域を削除する

再セットアップ(リカバリ)するための情報を削除して、より大きなハードディスク容量を確保したいときは、以下の手順でハードディスク上のリカバリ領域を削除できます。

ご注意

- リカバリディスクを作成していない場合は、「リカバリディスクを作成する」(183ページ)の手順に従ってリカバリディスクを作成してください。
- リカバリ領域を削除した場合、ハードディスクから再セットアップできなくなります。リカバリ領域を削除した後、再セットアップ(リカバリ)するためには、リカバリディスクで再セットアップ(リカバリ)するか、リカバリ領域を作成(188ページ)してから行ってください。
- この操作を行うと、それ以前にハードディスク上にあったファイルは、C:ドライブだけではなくD:ドライブのものも含めてすべて消えてしまいます。リカバリ領域を削除する前に、大切なデータはCDなどのディスクに保存するなどして、必ずバックアップをとってください。

1 本機の電源が入っている状態で、「リカバリ起動ディスク」をドライブに入れる。

2 [スタート]、[終了オプション]を順にクリックして「コンピュータの電源を切る」画面を表示し、[電源を切る]をクリックして本機の電源を切る。

3 ⏻(パワー)ボタンを押して本機の電源を入れる。

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

ご注意

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されない場合は再び手順2からやり直してください。

4 リカバリディスクをドライブに入れ、[OK]をクリックする。

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

5 内容をよく読み、[次へ]をクリックする。

「はじめに」画面が表示されます。

6 引き続き内容をよく読み、[次へ]をクリックする。

「メイン メニュー」画面が表示されます。

7 [オプションリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。

「オプション メニュー」画面が表示されます。

8 **[パーティションサイズを変更してリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。**

「リカバリ領域 オプション」画面が表示されます。

9 **[削除する]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。**

「パーティション メニュー」画面が表示されます。

10 **内容をよく読んでから、[次へ]をクリックする。**

「実行確認」画面が表示されます。

11 **引き続き内容をよく読んで、[次へ]をクリックする。**

「リカバリを開始して本当によろしいですか？」画面が表示されます。

12 **「Windowsから再セットアップ(リカバリ)する」(176ページ)の手順8以降の操作を行ってください。**

リカバリディスクでリカバリ領域を作成する

本機のハードディスク上にリカバリ領域がない場合は、以下の手順でリカバリ領域を復元させると同時に、本機を再セットアップ(リカバリ)できます。

ご注意

作成したリカバリディスクを紛失してしまった場合は、VAIOカスタマーリンクで、リカバリディスクを有償にてご提供するサービスを行っています。VAIOカスタマーリンクが別途指定するWebページ「マイサポーター」からお申し込みいただけます。詳しくは下記のホームページをご覧ください。
http://vcl.vaio.sony.co.jp/cdromss/rdisc.html
ご購入にはVAIOカスタマーご登録(46ページ)が必要です。

1 **本機の電源が入っている状態で、「リカバリ起動ディスク」をドライブに入れる。**

2 **[スタート]、[終了オプション]を順にクリックして「コンピュータの電源を切る」画面を表示し、[電源を切る]をクリックして本機の電源を切る。**

3 **(パワー)ボタンを押して本機の電源を入れる。**

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

ご注意

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されない場合は再び手順2からやり直してください。

4 **「リカバリディスク」をドライブに入れ、[OK]をクリックする。**

「VAIO システムリカバリユーティリティ」画面が表示されます。

5 **内容をよく読み、[次へ]をクリックする。**

「はじめに」画面が表示されます。

6 **引き続き内容をよく読み、[次へ]をクリックする。**

「メイン メニュー」画面が表示されます。

7 **[オプションリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。**

「オプションメニュー」画面が表示されます。

8 **[出荷時状態へリカバリ]を選んでクリックし、[次へ]をクリックする。**

「実行確認」画面が表示されます。

9 **[次へ]をクリックする。**

「リカバリを開始して本当によろしいですか？」画面が表示されます。

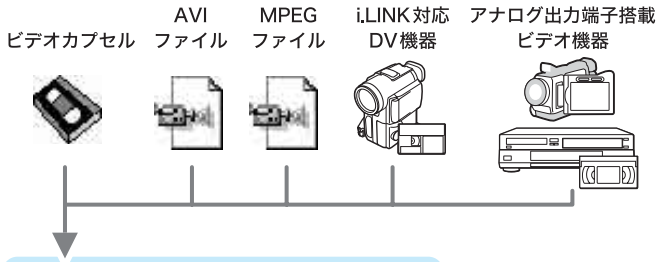
10 **「Windowsから再セットアップ(リカバリ)する」(176ページ)の手順8以降の操作を行う。**

動画系ソフトウェアの操作の流れ

本機には動画を扱うソフトウェアが数多く付属しています。
それぞれのソフトウェアの役割と操作の流れを簡単に紹介します。
それぞれのソフトウェアの使いかたについて詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧ください。

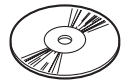
DVDビデオを作成したい

きれいなメニューのオリジナルDVDビデオを手軽に作成



Click to DVD ＊1

ビデオカメラで撮影した映像や、デジタルスチルカメラで写した静止画像を、集めたり編集したりして、手軽にオリジナルのDVDビデオを作成できます。



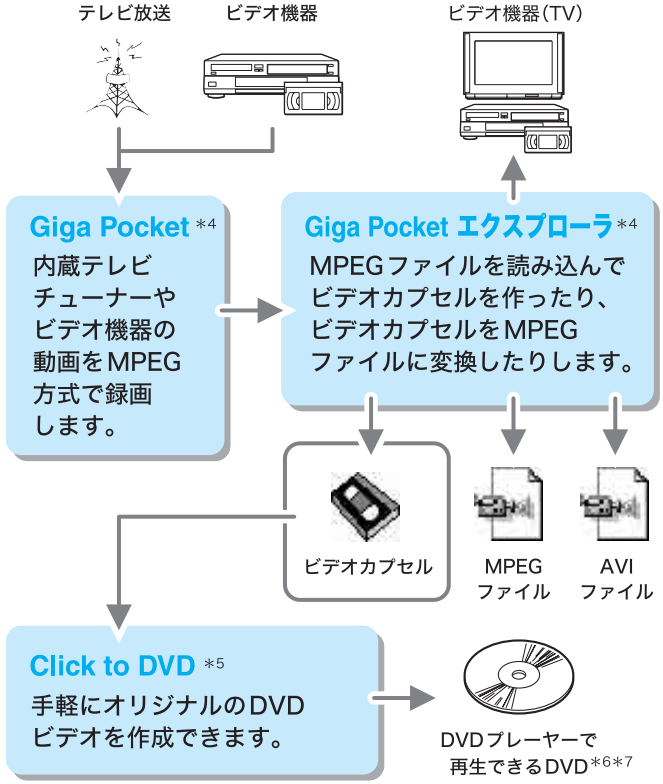
DVDプレーヤーで再生できるDVD ＊2＊3

＊1　PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/BなどのDVD±RWドライブまたはDVD-RWドライブ搭載モデルのみに付属。

＊2　DVD+RやDVD+RWに書き込むことができるのは、PCG-GRT99/P・GRT77/BなどのDVD±RWドライブ搭載モデルのみです。

＊3　バイオおよびDVDプレーヤーでの再生について詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

テレビ番組を見たい、録画したい



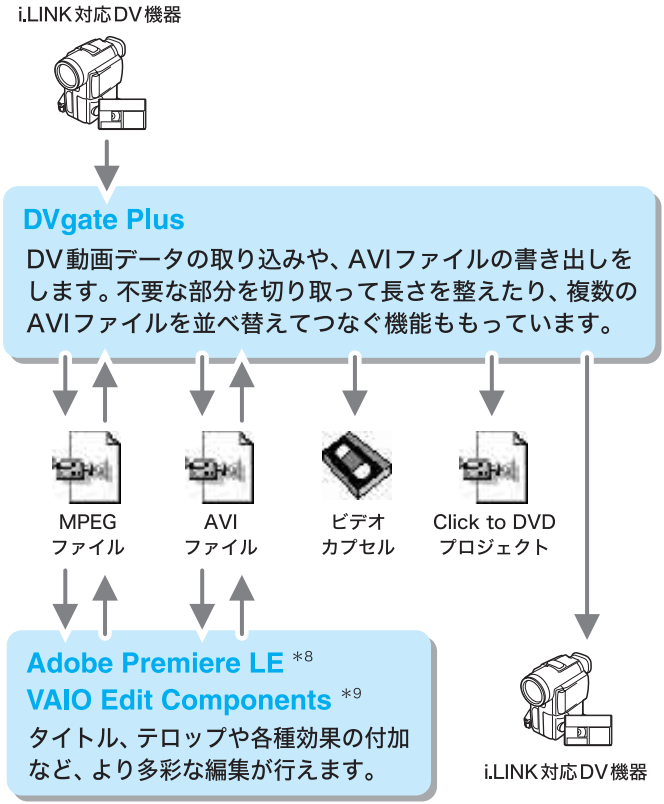
*4 PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」ソフトウェア搭載モデルのみに付属。

*5 PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/BなどのDVD±RWドライブまたはDVD-RWドライブ搭載モデルのみに付属。

*6 DVD+RやDVD+RWに書き込むことができるのは、PCG-GRT99/P・GRT77/BなどのDVD±RWドライブ搭載モデルのみです。

*7 バイオおよびDVDプレーヤーでの再生について詳しくは、VAIOカスタマーリンクのホームページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp/）をご覧ください。

ビデオを編集したい



＊8　PCG-GRT99/Pなどの「Adobe Premiere LE」ソフトウェア搭載モデルのみに付属。

＊9　PCG-GRT99/Pなどの「VAIO Edit Components」ソフトウェア搭載モデルのみに付属。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

- 本機に手やひじをつくなどして力を加えないでください。本機の液晶ディスプレイはガラスでできています。力を加えると、ガラスが割れてしまいます。
- 衝撃を加えたり、落としたりしないでください。記録したデータが消失したり、本機の故障の原因となります。
- 炎天下や窓をしめきった自動車内など、異常な高温になる場所には置かないでください。本機が変形し、故障の原因となることがあります。
- クリップなどの金属物を本機の中に入れないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- キーボードの上に物を置いたり落としたりしないでください。また、キートップを故意にはずさないでください。キーボードの故障の原因となります。

結露について

結露とは本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときなどに、本機の表面や内部に水滴がつくことで、そのままご使用になると故障の原因となります。
結露が起きたときは、電源を入れずに約1時間放置してください。

液晶ディスプレイについて

- 液晶ディスプレイの表面をぬれたもので拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- 液晶ディスプレイに物をのせたり、落としたりしないでください。また、手やひじをつくなどして力を加えないでください。
- 本機を戸外など寒い場所から室内へ持ち込むと、液晶ディスプレイに結露が生じることがあります。結露が生じたら、水滴をよく拭き取ってからご使用ください。水滴を拭き取るときは、ティッシュペーパーをお使いになることをおすすめします。液晶面が冷えているときは、水滴を拭き取っても、また結露が生じてしまいます。液晶面が室温に暖まるまでお待ちください。
- 画面上に常時点灯している輝点（赤、青、緑など）や滅点がある場合があります。液晶パネルは非常に精密な技術で作られておりますが、ごくわずかの画素欠けや常時点灯する画素があります。また、見る角度によってすじ状の色むらや明るさのむらが見える場合があります。これらは、液晶ディスプレイの構造によるもので、故障ではありません。
- キーボードの上にボールペンなどを置いたまま、液晶ディスプレイを閉じないでください。また、閉じた液晶ディスプレイの上に重いものを載せたり、強く押したりしないでください。本機の破損の原因となります。

ハードディスクの取り扱いについて

ハードディスクは、フロッピーディスクに比べて記憶密度が高く、データの書き込みや読み出しに要する時間も短いという特長があります。その一方、衝撃や振動、ほこりに弱い装置でもあります。また、フロッピーディスク同様に磁気を帯びた物に近い場所での使用は避けなければなりません。
ハードディスクには衝撃や振動、ほこりからデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記憶したデータを失ってしまうことのないよう、次の点に特にご注意ください。

- 衝撃を与えないでください。
- 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
- 電源を入れたまま、本機を動かさないでください。
- データの書き込み中や読み込み中は、電源を切ったり再起動したりしないでください。
- 急激な温度変化（毎時10 ℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。
- テレビやスピーカー、磁石、磁気ブレスレットなどの磁気を帯びたものを本機に近づけないでください。

何らかの原因でハードディスクが故障した場合、データの修復はできませんのでご注意ください。
また、ハードディスクドライブを取りはずさないでください。故障の原因となります。

ハードディスクのバックアップをとる

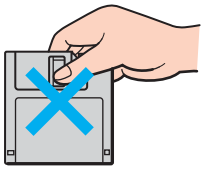
ハードディスクは非常に多くのデータを保存することができますが、その反面、ひとたび事故で故障すると多量のデータが失われ、取り返しのつかないことになります。万一のためにも、ハードディスクの内容は定期的にバックアップを取ることをおすすめします。
ソフトウェアはオリジナルがCD-ROMやフロッピーディスクにありますので、バックアップが必要なのはデータなどです。ハードディスクのバックアップ、バックアップの内容の戻しかたについて詳しくは、Windowsのヘルプをお読みください。
データの損失については、一切責任を負いかねます。

フロッピーディスクの取り扱いについて

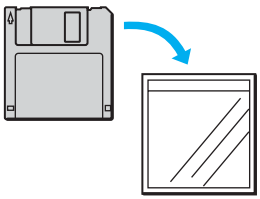
フロッピーディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものに近づけないでください。フロッピーディスクに記録されているデータが消えてしまうことがあります。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しないでください。フロッピーディスクが変形し、使用できなくなります。

- 手でシャッターを開けてディスクの表面に触れないでください。フロッピーディスクの表面の汚れや傷により、データの読み書きができなくなることがあります。

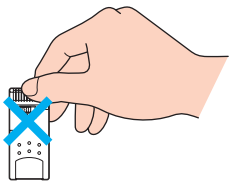


- フロッピーディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、フロッピーディスクはフロッピーディスクドライブから取り出して、必ずケースなどに入れて保管してください。



“メモリースティック”の取り扱いについて

- 端子部には手や金属で触れないでください。



- ラベル貼り付け部には専用ラベル以外は貼らないでください。
- ラベルを貼るときは、所定のラベル貼り付け部からはみ出さないように貼ってください。
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック”に付属の収納ケースに入れてください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 次のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所

“メモリースティック デュオ”使用上のご注意

- “メモリースティック デュオ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れてからお使いください。
  メモリースティック デュオ アダプターに装着されていない状態で挿入すると、“メモリースティック デュオ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに入れるときは、正しい挿入方向を確認してください。

- “メモリースティック デュオ”をメモリースティック デュオ アダプターに装着して本機でご使用になるときは、正しい挿入方向をご確認の上ご使用ください。間違った方向に挿入すると、機器の破損の原因となりますのでご注意ください。
- メモリースティック デュオ アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されていない状態で、本機に挿入しないでください。このような使い方をすると、機器に不具合が生じることがあります。

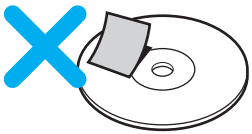
“メモリースティック PRO”使用上のご注意

本機における“メモリースティック PRO”の読み込み／書き込み速度は、“メモリースティック”の読み込み／書き込み速度と同等になります。

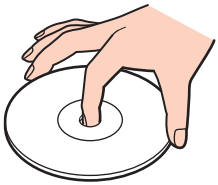
CDやDVDなどのディスクの取り扱いについて

ディスクに記録されているデータなどを保護するため、次のことにご注意ください。

- 紙などを貼ったり、傷つけたりしないでください。



- 文字の書かれていない面（再生面）に触れないようにして持ちます。

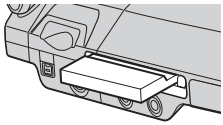


- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクに液体をこぼさないでください。
- 大切なデータを守るため、ディスクは必ずケースなどに入れて保管してください。

PCカードの取り扱いについて

- じゅうたんの上など、静電気の発生しやすいところに放置しないでください。静電気の影響でカードの部品が壊れてしまうことがあります。
- コネクタ部には手や金属で触れないでください。
- カード内部には精密な電子部品があります。落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- カードを水でぬらさないでください。
- 以下のような場所でのご使用や保存は避けてください。
  - 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  - 直射日光のあたる場所
  - 湿気の多い場所や腐食性のある場所
  - ほこりの多い場所

- PCカードスロットからはみ出すPCカード（PHSカードなど）を挿入してお使いの場合は、次の点にご注意ください。



－PCカードを挿入した状態で、本機を移動しないでください。
移動時にPCカードに強い衝撃を与えると、本機が破損するおそれがあります。
－PCカード部分を持って本機を持ち上げるなど、PCカードに力を加えると、本機が破損するおそれがあります。
－PCカードを挿入した状態で、本機をカバンやキャリングケースなどの中へ入れないでください。PCカードに予期せぬ力が加わり、本機が破損するおそれがあります。

ACアダプタについて

- AC電源をつながない状態で本機の電源を入れたまま、または本機がスタンバイのときにバッテリを取りはずすと、作業中の状態や保存されていないデータは失われます。
- 本機には、付属のACアダプタをご使用ください。指定以外のACアダプタを使用すると、故障の原因になることがあります。
- ACアダプタを海外旅行者用の「電子式変圧器」などに接続しないでください。発熱や故障の原因となります。
- ケーブルが断線したアダプタは危険ですので、そのまま使用しないでください。

バッテリについて

- バッテリは充電後、使用していない場合でも、少量ずつ自然に放電するため、長期間放置した場合、使用可能時間が短くなる場合があります。使用前には、再度、充電することをおすすめします。
- バッテリは、充電回数、使用時間、保存期間に伴い少しずつ性能が劣化していきます。
このため、充分に充電を行っても使用可能時間が短くなったり、寿命で使えなくなることがあります。
この場合には、新しいバッテリをお買い求めください。
- 本機には、付属のバッテリまたは本機専用の別売りのバッテリをご使用ください。指定以外のバッテリを使用すると、故障の原因になることがあります。

コンピュータウイルスについて

コンピュータウイルスとは、コンピュータの中のファイルやプログラムに悪影響を与えるプログラムのことです。ほとんどがいたずら半分で作成されたものですが、次の「コンピュータウイルスに侵入されると…」に見られるような被害が起きてしまいます。
コンピュータウイルスは他のプログラムと異なり、それ自体が増殖し、データのコピーなどを通じて他のコンピュータにも悪影響を及ぼしていきます。

コンピュータウイルスに侵入されると...

- 意味不明なメッセージや、ウイルスが侵入したことを知らせるメッセージが画面上に表示される。
- ファイルがかってに消去される。
- ハードディスク上の情報が意味のないものに書き換えられる。
- 画面上に意味のないものが表示される。
- ハードディスクの空き容量が急に少なくなる。

本機には、コンピュータウイルス検査・ウイルス除去用ソフトウェアとして「Norton AntiVirus」ソフトウェアがインストールされています。コンピュータウイルスから守るため、定期的なウイルスチェックをおすすめします。「Norton AntiVirus」の操作方法について詳しくは、「Norton AntiVirus」のヘルプをご覧になるか、下記にお問い合わせください。

シマンテック
テクニカルサポートセンター
電話番号：(03)5836-2621
ファックス番号：(03)5836-2623
電話受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)
なお、シマンテック テクニカルサポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにて、カスタマーIDの取得が必要です。
http://www.symantecstore.jp/oem/sony/
カスタマーID取得については、下記にお問い合わせください。

シマンテック
カスタマーサービスセンター
電話番号：(03)5836-2654
ファックス番号：(03)5836-2655
電話受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)

「Norton AntiVirus」は、本機初回起動時より90日間無償でウイルス定義ファイル(ワクチンファイル)のアップデートができます。それ以降は、ウイルス定義ファイルのアップデートは有償になります。新種のウイルスに対応するため、ウイルス定義ファイルは常に更新することをおすすめします。
また、テクニカルサポート提供期間は、ウイルス定義ファイル無償更新期間と同じく、90日間となります。ただし、有償アップデートのお申し込みを頂くとテクニカルサポートの提供期間も延長されます。
ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテック ホームページをご覧になり、お申し込みください。
http://www.symantecstore.jp/oem/sony/
ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。

シマンテックストア
電話番号：(03)3476-1192
ファックス番号：(03)5836-3871
電話受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時(年末年始・祝日を除く)

セキュリティについて

インターネットに接続してご使用中は、常にセキュリティが守られなくなる可能性や、コンピュータウイルスによる被害などの危険性が潜んでいます。
セキュリティやウイルスに関する最新情報および修正プログラムを入手することにより、より安全な環境でご使用いただけます。
ソニーでは、セキュリティやウイルスに関する最新情報を下記のホームページにて提供しております。定期的に最新情報をご確認ください。

VAIOカスタマーリンク ホームページ
セキュリティについて
http://vcl.vaio.sony.co.jp/notices/security.html

また、セキュリティに関するご質問・ご相談につきましては、下記の窓口までお問い合わせください。

VAIOカスタマーリンク セキュリティ お問い合わせ窓口
電話番号：(0466)30-3016
受付時間：平日　10:00～20:00、
土・日・祝日　10:00～17:00

ソフトウェアと周辺機器の動作について

一般的にWindows XP用、DOS/V用などと表記している市販ソフトウェアや周辺機器の中には、本機で使用できないものがあります。ご購入に際しては、販売店または各ソフトウェアおよび周辺機器の販売元にご確認ください。
市販ソフトウェアおよび周辺機器を使用された場合の不具合や、その結果生じた損失については、一切責任を負いかねます。また、本機に付属のOS以外をインストールした場合の動作保証はいたしかねます。

ソフトウェアの不正コピー禁止について

本機に付属のソフトウェアは、ライセンスあるいはロイヤリティ契約のもとに供給されています。これらのソフトウェアを不正にコピーすることは法律で禁止されています。
また、店頭で購入したソフトウェアを人に貸したり、人からソフトウェアを借りてコピーして使うことは禁じられています。ソフトウェアの使用許諾書をよくお読みのうえ、お使いください。

ドライブの地域番号書き替えについて

工場出荷時、本機のDVD±RWドライブ(PCG-GRT99/P・GRT77/Bなどの DVD±RWドライブ搭載モデルのみ *)、DVD-RWドライブ(PCG-GRT55/Bなどの DVD-RWドライブ搭載モデルのみ *)またはCD-RW/DVDドライブ(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bを除く CD-RW/DVDドライブ搭載モデルのみ *)の地域番号(リージョンコード)は「2」(日本)に設定されています。

* お使いのドライブを確認するには、本機左側面のマーク(28ページ)をご覧ください。

一部のソフトウェアには地域番号を書き替える機能がありますが、ご使用にならないでください。これらの機能を使用した結果生じた不具合につきましては、保証期間内であっても、有償修理とさせていただきます。

CD再生／録音についてのご注意

本機は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本機で再生・録音できない場合があります。

コンピュータ廃棄時などのハードディスク上のデータ消去について

コンピュータを廃棄などするときには、お客様の重要なデータを消去する必要があります。
データを消去する場合、一般には次のような作業を行います。

- データを「ごみ箱」に捨てる
- 「削除」操作を行う
- 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ハードディスク内のリカバリ機能や自作のリカバリディスクを使い、工場出荷状態に戻す

これらの作業では、一見データが消去されたように見えますが、ハードディスク内のファイル管理情報が変更され、WindowsなどのOSのもとで呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っています。
従って、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある第三者により、重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。
廃棄時などにハードディスク上の重要なデータが流出するトラブルを回避するためには、ハードディスク上に記録された全データを、**お客様の責任において消去することが非常に重要となります。**消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（いずれも有償）を利用するか、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊して、データを読み取れなくすることをおすすめします。
なお、消去のための専用ソフトウェアなどについての詳細は、VAIOホームページ内「サポート」ページ（http://vcl.vaio.sony.co.jp）の「セキュリティについて」より「ハードディスク上のデータ消去に関するご注意」をご覧ください。

お手入れ

本機のお手入れ

- 本機についたゴミやほこりなどは、乾いた布で軽く拭き取ってください。
- 液晶ディスプレイは、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。汚れてきたと思ったら、こまめに拭くように心がけてください。
- キーボード（キートップ）の隙間に落ちたゴミやほこりなどは、精密機器専用のブロワーなどを使って吹き飛ばしてください。
  キートップは、故意にはずさないでください。また、家庭用掃除機などで吸引すると、故障の原因となります。

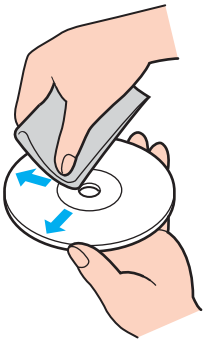
ご注意

- ぬれたもので液晶ディスプレイを拭かないでください。内部に水が入ると故障の原因となります。
- アルコールやシンナーなど揮発性のものは、表面の仕上げを傷めますので使わないでください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書きに従ってください。

CDやDVDなどのディスクのお手入れ

DVD-ROM、CD-ROMディスクのお手入れ

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、読みとりエラーの原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた布で拭いたあと、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などはディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RW、CD-R、CD-RWディスクのお手入れ

- DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RW、CD-R、CD-RWディスクは、データを記録する前には絶対にクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロワーを使って吹き飛ばしてください。
- ベンジンやシンナー、静電気防止剤などはディスクを痛めることがありますので、使わないでください。
- DVD+R、DVD+RW、DVD-R、DVD-RW、CD-R、CD-RWの未記録部分にキズやほこりがあると正しいデータが記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。

保証書とアフターサービス

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より3か月間です。ユーザー登録していただいたお客様は1年間になります。

アフターサービスについて

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはVAIOカスタマーリンクへご連絡ください

VAIOカスタマーリンクについては、「サイバーサポート」画面左側の サービス・サポートのご案内 をクリックするか、付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。ただし、保証期間内であっても、有償修理とさせていただく場合がございます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

修理について

当社ではノートブックコンピュータの修理は引取修理を行っています。当社指定業者がお客様宅に修理機器をお引き取りにうかがい、修理完了後にお届けします。詳しくは、「サイバーサポート」画面左側の サービス・サポートのご案内 をクリックするか、付属の「バイオ サービス・サポートのご案内」をご覧ください。

データのバックアップのお願い

修理に出すまえに、ハードディスクなどの記録媒体のプログラムおよびデータは、お客様にてバックアップされますようお願いいたします。当社の修理により、ハードディスク内のプログラムおよびデータが万一消去あるいは変更された場合に関しても、当社は一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。なお、ハードディスクなどの記録媒体そのものの故障の場合には、プログラムおよびデータの修復はできません。

部品の保有期間について

当社ではノートブックコンピュータの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後6年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、VAIOカスタマーリンク修理窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名：IDラベル（25ページ）または保証書に記載されています
製造番号：本機底面または保証書に記載されています
故障の状態：できるだけ詳しく
購入年月日：

修理用補修部品について

ソニーでは、長期にわたる修理部品のご提供、ならびに環境保護などのため、修理サービスご提供の際に、再生部品を使用することがあります。
また原則として交換した部品は、上記の理由によりソニーの所有物として回収させていただいておりますので、あらかじめご了承ください。

主な仕様

プロセッサ

PCG-GRT99/P

インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.80 GHz *1

キャッシュ(プロセッサに内蔵)
1次:12 Kμ 命令実行トレースキャッシュ/8 Kバイト データキャッシュ
2次:512 Kバイト

プロセッサシステムバス
533 MHz

PCG-GRT77/B

インテル® Pentium® 4 プロセッサ 2.66 GHz *1

キャッシュ(プロセッサに内蔵)
1次:12 Kμ 命令実行トレースキャッシュ/8 Kバイト データキャッシュ
2次:512 Kバイト

プロセッサシステムバス
533 MHz

PCG-GRT55/B

モバイル インテル® Celeron® プロセッサ 1.80 GHz *1

キャッシュ(プロセッサに内蔵)
1次:12 Kμ 命令実行トレースキャッシュ/8 Kバイト データキャッシュ
2次:256 Kバイト

プロセッサシステムバス
400 MHz

*1 プロセッサの処理能力は使用状況により変化します。

チップセット

SIS® 648 チップセット

メインメモリ

PCG-GRT99/P・GRT77/B
512 Mバイト SO-DIMM(DDR SDRAM)
(最大1 Gバイトまで拡張可能)

メモリバス
266 MHz

PCG-GRT55/B
256 Mバイト SO-DIMM(DDR SDRAM)
(最大1 Gバイトまで拡張可能)

メモリバス
266 MHz

メモリスロット

SO-DIMMスロット(2)
(PCG-GRT99/Pは512 Mバイトメモリ1枚内蔵、PCG-GRT77/Bは256 Mバイトメモリ2枚内蔵、PCG-GRT55/Bは256 Mバイトメモリ1枚内蔵)

グラフィックアクセラレータ

PCG-GRT99/P
デュアルディスプレイ対応
3Dグラフィックアクセラレーション対応
NVIDIA® GeForce™ FX Go5600

PCG-GRT77/B・GRT55/B
デュアルディスプレイ対応
3Dグラフィックアクセラレーション対応
NVIDIA® GeForce4™ 420 Go

ビデオメモリ

PCG-GRT99/P

64 Mバイト

PCG-GRT77/B・GRT55/B

32 Mバイト

液晶ディスプレイ

PCG-GRT99/P

16.1 型、UXGA対応、TFTカラー液晶

PCG-GRT77/B

16.1 型、SXGA+対応、TFTカラー液晶

PCG-GRT55/B

15.0 型、XGA対応、TFTカラー液晶

液晶ディスプレイ表示モード *2

1,600 × 1,200 ドット（約1,677万色）
（PCG-GRT99/PなどのUXGA対応モデルのみ）
1,400 × 1,050 ドット（約1,677万色）
（PCG-GRT77/BなどのSXGA+対応モデルのみ）
1,280 × 1,024 ドット（約1,677万色）
（PCG-GRT99/PなどのUXGA対応モデルまたはPCG-GRT77/Bなどの SXGA+対応モデルのみ）
1,280 × 768 ドット（約1,677万色）
（PCG-GRT99/PなどのUXGA対応モデルまたはPCG-GRT77/Bなどの SXGA+対応モデルのみ）
1,024 × 768 ドット（約1,677万色）
800 × 600 ドット（約1,677万色）

*2 約1,677万色はグラフィックアクセラレータのディザリングにより実現

外部ディスプレイ表示モード *3

2,048 × 1,536 ドット（約1,677万色）
（PCG-GRT99/PなどのNVIDIA® GeForce™ FX Go5600対応モデルのみ）
1,920 × 1,440 ドット（約1,677万色）
1,920 × 1,200 ドット（約1,677万色）
1,600 × 1,200 ドット（約1,677万色）
1,400 × 1,050 ドット（約1,677万色）
（PCG-GRT77/BなどのSXGA+対応モデルのみ）
1,280 × 1,024 ドット（約1,677万色）
1,280 × 768 ドット（約1,677万色）
1,024 × 768 ドット（約1,677万色）
800 × 600 ドット（約1,677万色）

*3 外部ディスプレイによっては、使えない表示モードがあります。

ハードディスクドライブ

PCG-GRT99/P

約80 Gバイト（Ultra ATA/100対応）
（C:約15 Gバイト／D:約60 Gバイト）*4 *5
（工場出荷時）

PCG-GRT77/B・GRT55/B

約60 Gバイト（Ultra ATA/100対応）
（C:約15 Gバイト／D:約41 Gバイト）*4 *5
（工場出荷時）

*4 本機は、ハードディスクドライブ内にリカバリ（工場出荷時の状態に戻す）に必要なデータを保持します。このリカバリ用の領域として、PCG-GRT99/Pは約5 Gバイト、PCG-GRT77/B・GRT55/Bは約4 Gバイトを消費します。

*5 1 Gバイトを10億バイトで計算した場合の数値です。Windowsのシステムでは、1 Gバイトを1,073,741,824バイトで計算しています。Windows起動時に認識できる容量は、PCG-GRT99/Pは約70.4 Gバイト、PCG-GRT77/B・GRT55/Bは約52.2 Gバイトになります。ファイルシステムはNTFSです。

DVD±RW ドライブ（PCG-GRT99/P・GRT77/Bなどの DVD±RW ドライブ搭載モデルのみ）

読み出し
DVD+R、DVD+RW：最大2倍速
DVD-R、DVD-RW：最大2倍速
DVD-ROM：最大5倍速
CD-R、CD-ROM：最大24倍速

書き込み
DVD+R、DVD+RW：最大2倍速
DVD-R、DVD-RW：等倍速
CD-R：最大16倍速
CD-RW：最大8倍速
マルチセッション対応、12／8 cm対応トレイタイプ

DVD-RW ドライブ（PCG-GRT55/Bなどの DVD-RW ドライブ搭載モデルのみ）

読み出し
DVD-R、DVD-RW：最大4倍速
DVD-ROM：最大8倍速
CD-R、CD-ROM：最大24倍速

書き込み
DVD-R、DVD-RW：等倍速
CD-R：最大16倍速
CD-RW：最大8倍速
マルチセッション対応、12／8 cm対応トレイタイプ

CD-RW/DVD-ROM 一体型ドライブ（PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bを除く CD-RW/DVD ドライブ搭載モデルのみ）

読み出し
DVD-ROM：最大8倍速
CD-R、CD-ROM：最大24倍速

書き込み
CD-R：最大24倍速
CD-RW：最大10倍速
マルチセッション対応、12／8 cm対応トレイタイプ

外部接続

外部ディスプレイ出力（MONITOR）
アナログRGB、ミニD-SUB 15ピン（1）

USB（ ）
USB2.0（3）（High-speed/Full-speed/Low-speed対応）、Type-Aコネクタ

マイク入力（ ）
モノラルミニジャック、プラグインパワー対応（1）

i.LINK（IEEE1394）（ S400）
S400 4ピン（1）　S400＝400 Mbps

ヘッドホン出力（ ）
ステレオミニジャック（1）

モデム用モジュラジャック（ ）
RJ-11コネクタ（1）

プリンタポート（ PRINTER）
ECP、D-SUB 25 ピン（1）

ネットワーク(LAN)コネクタ(品)
RJ-45コネクタ(1)

AV出力(⇨)
NTSC/PAL対応、ステレオ音声出力、ミニジャック(1)

ポートリプリケーターコネクタ
専用コネクタ、100 ピン(1)

S映像入力(S VIDEO)
(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)
NTSC対応、S映像入力端子(1)

AV入力(AV IN)
(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)
NTSC対応、ステレオ音声入力、ミニジャック(1)

TVアンテナ入力(╖VHF/UHF)[*6]
(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)
ミニジャック(1)

[*6] VHF 1ch-12ch、UHF 13ch-62ch、CATV C13ch-C63ch、ステレオ、2か国語対応。衛星放送の受信はできません。
また、CATVの受信はサービス(放送)の行われている地域でのみ可能です。
CATVを受信するときは、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。さらにスクランブルのかかった有料放送の視聴・録画はできません。

インジケータ

パワーランプ(⏻)
バッテリ1ランプ(▭1)
バッテリ2ランプ(▭2)
ハードディスク アクセスランプ(🛢)
メモリースティック アクセスランプ(▬)
Num Lockランプ(1)
Caps Lockランプ(A)
Scroll Lockランプ(↕)
DVD±RWドライブ アクセスランプ(PCG-GRT99/P・GRT77/Bなどの DVD±RWドライブ搭載モデルのみ)
DVD-RWドライブ アクセスランプ(PCG-GRT55/Bなどの DVD-RWドライブ搭載モデルのみ)
CD-RW/DVD-ROM一体型ドライブ アクセスランプ(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bを除く CD-RW/DVDドライブ搭載モデルのみ)

PCカードスロット

PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/B**などの「Giga Pocket」搭載モデル**
Type I／II × 1、16 bit/CardBus対応

PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/B**を除く「Giga Pocket」非搭載モデル**
Type III × 1またはType I／II × 2、16 bit/CardBus対応

メモリースティックスロット

マジックゲート対応メモリースティックスロット(1)

オーディオ機能

ウィンドウズサウンドシステム互換、AC97準拠、ソフトウェアMIDI音源、ステレオスピーカー

ネットワーク(LAN)

IEEE 802.3 10BASE-T
IEEE 802.3u 100BASE-TX
オートネゴシエーション、全二重　対応

内蔵モデム

V.92およびV.90対応
データ受信時最大56 kbps
ファックス送受信時最大14.4 kbps

入力デバイス

インテリジェント タッチパッド、キーボード

テレビキャプチャ(PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ)

キャプチャ形式

MPEG2
720 × 480(AV INコネクタ、S VIDEO(S VIDEO IN)コネクタ、┐╔VHF/UHFコネクタ)

ビットレート
高画質:8 Mbps (CBR)
標準:4 Mbps (CBR)

キャプチャフレーム数
最大 30フレーム/秒

オーディオ形式
MPEG1 Audio Layer2、256 kbps、16 ビット、48 kHz、ステレオ

MPEG1
352 × 240(AV INコネクタ、S VIDEO(S VIDEO IN)コネクタ、┐╔VHF/UHFコネクタ)

ビットレート
長時間:1.41 Mbps (CBR)

キャプチャフレーム数
最大 30フレーム/秒

オーディオ形式
MPEG1 Audio Layer2、224 kbps、16 ビット、44.1 kHz、ステレオ

リモコン（PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「Giga Pocket」搭載モデルのみ）

電源

DC3 V、単3型乾電池2個使用

外形寸法

約56 × 24 × 210 mm
（幅／高さ／奥行き）

質量

本体：約120 g
ご使用時：約150 g（乾電池含む）

電源・その他

電源

ACアダプタまたはバッテリ
DC端子入力 DC19.5 V

バッテリ駆動時間 *7

PCG-GRT99/P
約1.5時間（1本）
約3.5時間（2本）

PCG-GRT77/B
約1.5時間（1本）
約3.5～4時間（2本）

PCG-GRT55/B
約2.5～3時間（1本）
約5～6.5時間（2本）

バッテリ充電時間 *7

PCG-GRT99/P
バッテリ1本使用時：
約2.5時間（約85%）
約3.5時間（約100%）

PCG-GRT77/B
バッテリ1本使用時：
約3時間（約85%）
約4時間（約100%）

PCG-GRT55/B
バッテリ1本使用時：
約2.5時間（約85%）
約3.5時間（約100%）

*7 使用状況や設定等により上記時間と異なる場合があります。

外形寸法

PCG-GRT99/P・GRT77/B
約357 × 44.8 × 300.3 mm
（幅／高さ（最薄部）／奥行き）

PCG-GRT55/B
約327 × 41.6 × 271.6 mm
（幅／高さ（最薄部）／奥行き）

質量

PCG-GRT99/P・GRT77/B
約3.9 kg
（バッテリ1本、ウェイトセーバー装着時）

PCG-GRT55/B
約3.4 kg
（バッテリ1本、ウェイトセーバー装着時）

ACアダプタ *8

電源

AC100～240 V、50/60 Hz
（付属電源コードはAC100 V用）

*8 その他の仕様については、ACアダプタのラベルをご覧ください。

バッテリ

出力電圧
14.8 V

付属品

「付属品を確かめる」(19ページ)をご覧ください。

別売り品

ACアダプター
PCGA-AC19V7

リチャージャブルバッテリーパック
PCGA-BP2NX

ポートリプリケーター
PCGA-PRGT1

USBフロッピーディスクドライブ
PCGA-UFD5

メモリーモジュール
256 Mバイト増設メモリーモジュール [*9]
PCGA-MM256D
512 Mバイト増設メモリーモジュール [*9]
PCGA-MM512D

キャリングポーチ
(液晶ディスプレイ16.1型用)
PCGA-CPE1/A

キャリングポーチ
(液晶ディスプレイ15.0型用)
PCGA-CPD1

[*9] 工場出荷時にメモリ増設済みの場合があります。メモリスロットの状況をご確認の上(168ページ)、お買い求めください。

動作・保存環境

動作温度
5 ℃～35 ℃(温度勾配10 ℃／時以下)

動作湿度
20 %～80 %(結露のないこと)ただし35 ℃における湿度は65 %以下(湿球温度29 ℃以下)

保存温度
-20 ℃～60 ℃(温度勾配10 ℃／時以下)

保存湿度
10 %～90 %(結露のないこと)ただし60 ℃における湿度は20 %以下(湿球温度35 ℃以下)

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

付属ソフトウェアのお問い合わせ先

本機に付属のソフトウェアはそれぞれお問い合わせ先が異なります。各ソフトウェアごとに記載された先へお問い合わせください。
なお、本機に付属のソフトウェアの起動方法やお使いになる際のご注意など詳しい情報は、下記の手順で本機電子マニュアル「サイバーサポート」を表示させてご覧ください。

1 デスクトップ画面上の をダブルクリックする。

「サイバーサポート」が表示されます。

2 画面左側の をクリックする。

ご注意

Windows XPは、Windows Meなどとは異なり、使用者がOS上で作業を行うには一定のユーザー権利とアクセス許可が必要です。
本機に付属のソフトウェアの中でも同様に、一定のユーザー権利とアクセス許可が必要なものがあります。
インストールができない、機能の一部が使用できない、またはソフトウェアが起動できない場合などは、ログインしているユーザーに必要なユーザー権利とアクセス許可が与えられていない可能性があります。
その場合は、システムの管理が可能なユーザー名で再度ログインするか、お使いのユーザー名に「コンピュータの管理者」の権利を与える設定にして作業をやり直してください。
「コンピュータの管理者」の権利使用を許可されていない場合は、職場などのシステム管理者にご相談ください。
ユーザー権利とアクセス許可について詳しくは、デスクトップ画面左下の[スタート]ボタンをクリックし、[コントロール パネル]→[ユーザーアカウント]を順にクリックして表示される「ユーザーアカウント」画面左のヘルプをご覧ください。
なお、ソフトウェアによっては、ユーザーの簡易切り替えに対応していないものがあります。詳しくは、各ソフトウェアのヘルプをご覧になるか、各ソフトウェアの「お問い合わせ先」にお問い合わせください。

テレビ録画

- ❑ Giga Pocket（PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「GigaPocket」搭載モデルのみに付属）
  VAIOカスタマーリンク
- ❑ iRCommander（PCG-GRT99/P・GRT77/B・GRT55/Bなどの「GigaPocket」搭載モデルのみに付属）
  VAIOカスタマーリンク

ビデオ編集・再生

- ❑ DVgate Plus
  VAIOカスタマーリンク
- ❑ Adobe(R) Premiere(R) LE 日本語版（PCG-GRT99/Pなどのモデルのみに付属）
  アドビ システムズ テクニカルサポート
  電話番号：0570-023623（ナビダイヤル）
  初回コールより90日間の無料サポート。以降は同社による有料サポートメニューが用意されています。
  有料サポートのお申し込み手続きについては、アドビシステムズサポート契約センターへ（電話：(03)5350-8688）
- ❑ VAIO Edit Components（PCG-GRT99/Pなどのモデルのみに付属）
  VAIOカスタマーリンク
- ❑ LightWave 3D express for VAIO（PCG-GRT99/Pのみに付属）
  株式会社ディ・ストーム
  電子メール：lwxv@dstorm.co.jp
  ホームページ：http://www.dstorm.co.jp/LW3DforVaio/
- ❑ RealOne Player
  リアルネットワークス株式会社
  電話番号：(03)5302-2313
  受付時間：月曜～金曜10:00 - 17:00（12:00- 13:00 除く）当社規定の休日・祝日を除く
  ホームページ：http://service.jp.real.com/
- ❑ Windows Media(TM) Player
  VAIOカスタマーリンク
- ❑ QuickTime(R)
  VAIOカスタマーリンク
- ❑ WinDVD for VAIO
  VAIOカスタマーリンク

DVD作成

❑ Click to DVD（PCG-GRT99/P・GRT77/BなどのDVD±RWドライブ搭載モデルまたはPCG-GRT55/BなどのDVD-RWドライブ搭載モデルのみに付属）
VAIOカスタマーリンク

音楽

❑ SonicStage
VAIOカスタマーリンク

❑ SonicStage Mastering Studio
VAIOカスタマーリンク

❑ DigiOnSound(R) L.E. for VAIO（PCG-GRT99/Pなどのモデルのみに付属）
株式会社デジオン サポートセンター
電話番号：(092)833-6288
受付時間：月曜～金曜：10時～12時、13時～17時（祝日、特別休業日を除く）
ファックス番号：(092)833-6278
電子メール：support@digion.com
ホームページ：http://www.digion.com/

❑ Gen-On
VAIOカスタマーリンク

静止画・写真

❑ PictureGear Studio
VAIOカスタマーリンク

❑ Adobe（R） Photoshop（R） Elements
アドビ システムズ テクニカルサポート
電話番号：0570-023623（ナビダイヤル）
初回コールより90日間の無料サポート。以降は同社による有料サポートメニューが用意されています。
有料サポートのお申し込み手続きについては、アドビシステムズサポート契約センターへ（電話：(03)5350-8688）

ホームネットワーク

❑ VAIO Media
VAIOカスタマーリンク

❑ VAIO Media Platform
VAIOカスタマーリンク

コミュニケーション

❑ Network Smart Capture
VAIOカスタマーリンク

インターネット・メール

❑ Microsoft(R) Outlook Express
VAIOカスタマーリンク

❑ Microsoft(R) Internet Explorer
VAIOカスタマーリンク

❑ i-フィルター Personal Edition
デジタルアーツ株式会社　ユーザーサポート
電話番号：(03)5485-1334
受付時間：月曜～金曜：10時～18時(祝日を除く)
ファックス番号：(03)5485-1337
電子メール：support@daj.co.jp

ISP サインアップ

インターネット接続サービスご紹介

❑ So-net簡単スターター
So-netインフォメーションデスク
電話番号：(0570)00-1414(全国共通)
携帯・PHSからおかけになる場合は、こちらへおかけください。
札幌(011)711-3765／仙台(022)256-2221／東京(03)3446-7555／
名古屋(052)819-1300／大阪(06)6577-4000／広島(082)286-1286／
福岡(092)624-3910
受付時間：9時～21時　年中無休
ご入会方法、サービス内容のお問い合わせ、各種会員情報の変更方法や課金状況の確認などのお問い合わせは、上記の電話番号のほか、ファックスや電子メールでも承ります。また、ホームページ でもご確認いただけます。
ファックス番号：(03)3446-7557
電子メール：info@so-net.ne.jp
ホームページ：http://www.so-net.ne.jp/support/

❑ @niftyでインターネット

ニフティ株式会社　@nifty入会センター
電話番号：(0120)816-042(フリーダイヤル)
携帯・PHS・国際電話の場合：
(03)5753-2374(電話料金はお客様ご負担となります)

ご注意

お問い合わせの際は、電話番号をよくお確かめください。
受付時間：毎日 9時～21時
(ビルの電源工事などによりお休みさせていただく場合があります。)
電子メール(Web入力フォーム)：
http://www.nifty.com/support/madoguchi/madoguchi_join.htm
ホームページ：http://www.nifty.com/support/

❑ ODNスターターキットソフトウェア

日本テレコム株式会社　ODNサポートセンター
電話番号(簡単インターネットコース(おてがる、まるごと、ベーシック、モバイルの各プラン)に関するお問い合わせ)：0088-86(無料)
電話番号(快適ブロードバンドコース(ADSL、フレッツADSL、Bフレッツの各プラン)に関するお問い合わせ)：0088-222-375(無料)
受付時間：24時間自動音声受付　9時～18時はオペレーターによるご案内も選択できます。
電子メール：odn-support@odn.ad.jp(簡単インターネットコース)
info-adsl@odn.ad.jp(快適ブロードバンドコース)
ホームページ：http://www.odn.ne.jp/counter/

❑ DION オンラインサインアッププログラム

KDDIカスタマーサービスセンター
電話番号(サービス内容に関するお問い合わせ)：(0077)7192(無料)
受付時間：9時～21時
電子メール：メールでのお問い合わせはホームページから。
http://www.dion.ne.jp/cs/
電話番号(接続・設定などに関するお問い合わせ)：(0077)7084(無料)
受付時間：ADSLの接続・設定についてのご質問は24時間受付中！
※「フレッツ・ADSL」コースについては、お問い合わせ内容によってお答えできない場合がございます。
電子メール：メールでのお問い合わせはホームページから。
http://www.dion.ne.jp/cs/

❑ OCNスタートパック for Windows

OCNスタートパックヘルプデスク
電話番号：(0120)047-747(フリーダイヤル)
受付時間：9時～21時(月曜～金曜)、9時～17時(土曜・日曜・祝日)
年末年始は休業とさせていただきます。
電子メール：info@ocn.ad.jp

❑ ぷらら入会／接続ソフト（P'zDialer）

株式会社ぷららネットワークス「ぷららダイヤル」
電話番号（入会に関するお問い合わせ）：009192-39（通話料無料）
受付時間：10時～22時（12/29～1/3および5/3～5/5を除く）
※携帯電話・PHS・公衆電話・海外などからご利用の場合
（03）5954-5330
（受付時間：月曜～金曜 12時～21時、土曜日曜祝日12時～19時、
12/29～1/3および5/3～5/5を除く）
通話料金は、お客様負担となりますのでご注意ください。
電話番号（設定などに関するお問い合わせ）：009192-33（通話料無料）
受付時間：月曜～金曜：12時～21時、土曜日曜祝日：12時～19時
（12/29～1/3および5/3～5/5を除く）
※携帯電話・PHS・公衆電話・海外などからご利用の場合
（03）5954-5330
（受付時間：月曜～金曜 12時～21時、土曜日曜祝日12時～19時、
12/29～1/3および5/3～5/5を除く）
通話料金は、お客様負担となりますのでご注意ください。

❑ BIGLOBEでインターネット

BIGLOBEカスタマーサポート　インフォメーションデスク
電話番号：（0120）86-0962（フリーダイヤル）
携帯電話・PHS・CATV電話：（03）3947-0962
受付時間：9時～22時 365日
電子メール：お問い合わせは以下のフォームをご利用ください。
http://support.biglobe.ne.jp/ask.html
ホームページ：http://support.biglobe.ne.jp/

エンターテインメント

❑ 電車でＧＯ！

株式会社アンバランス　ユーザーサポート
電話番号：（03）5283-3625
受付時間：月曜～金曜：13:00～18:00（年末年始、祝日を除く）
ファックス番号：（03）5283-3665
電子メール：support@unbalance.co.jp
ホームページ：http://www.unbalance.co.jp/support/

❑ アルカノイド

株式会社アンバランス　ユーザーサポート
電話番号：（03）5283-3625
受付時間：月曜～金曜：13:00～18:00（年末年始、祝日を除く）
ファックス番号：（03）5283-3665
電子メール：support@unbalance.co.jp
ホームページ：http://www.unbalance.co.jp/support/

❑ スペースインベーダー

ユーザーサポートセンター
電話番号：(052)779-6549
受付時間：11:00～12:00、13:00～17:00
(土曜・日曜・祝日は受け付けておりません)
ホームページ：http://www.cyberfront.co.jp/

❑ 大富豪

株式会社アンバランス　ユーザーサポート
電話番号：(03)5283-3625
受付時間：月曜～金曜：13:00～18:00(年末年始、祝日を除く)
ファックス番号：(03)5283-3665
電子メール：support@unbalance.co.jp
ホームページ：http://www.unbalance.co.jp/support/

ワープロ・表計算

❑ Microsoft(R) Office XP Personal(Service Pack2 含む)
(PCG-GRT77/B・GRT55/Bなどのモデルのみに付属)

マイクロソフト　スタンダードサポート
電話番号：東京(03)5354-4500／大阪(06)6347-4400
受付時間：9時30分～12時、13時～19時(月曜～金曜)、10時～17時(土曜)
(同社指定休業日、年末年始、日曜・祝日を除く)

- 基本操作に関するお問い合わせについては、4インシデント(4件のご質問)までは無償、それ以降は有償になります。
- セットアップ、インストール中のトラブルに関するお問い合わせについては、期間、回数の制限はありません。

本件について詳しくは、付属の「Office XP プレインストールパッケージ」をご確認いただくか、マイクロソフト スタンダードサポートまでお問い合わせください。

ご注意

お電話をおかけいただく前に、住所、氏名、電話番号、郵便番号、プロダクトIDをご用意ください。プロダクトIDの確認方法については、付属の「Office XP プレインストールパッケージ」をご覧ください。
その他のサポートに関する詳しい情報は

- 付属の「Office XP プレインストールパッケージ」をご確認ください。
- Office XP関連のお問い合わせは、VAIOカスタマーリンクではお受けしておりません。

実用ツール

❑ Drag'n Drop(R) CD+DVD

イージーシステムズジャパン株式会社
ホームページ：http://www.ddcd.jp/dd3/sony/cd/index.html
製品FAQページ：http://www.ddcd.jp/dd3/sony/cd/faq.html
オンラインサポート*：http://www.ddcd.jp/dd3/sony/cd/tosupport.html

* Drag'n Drop CDは180日間のオンラインサポートのみとなります。

❑ 駅すぱあと

ユーザーサポートセンター
電話番号（テクニカル）：(03)5373-3522
電話番号（バージョンアップ）：(03)5373-3521
受付時間：月曜～金曜：9時～12時、13時～17時
（祝日、年末年始、夏期休暇を除く）
ファックス番号：(03)5373-3523
電子メール：support@val.co.jp
ホームページ：http://ekiworld.net/

❑ Zm@p on net for PC

(株)ゼンリンデータコム お客様相談室
電話番号：(03)3518-0021
受付時間：月曜～金曜：10時～17時（祝日・弊社指定休日は除く）
電子メール：zmaponnet@zenrin-datacom.net
ホームページ：http://www.zmap.net/

❑ Adobe(R) Acrobat(R) Reader

VAIOカスタマーリンク

❑ Norton AntiVirus 2003

シマンテックテクニカルサポートセンター
電話番号：(03)5836-2621
受付時間：月曜～金曜10時～12時、13時～17時（年末年始・祝日を除く）
ファックス番号：(03)5836-2623

ご注意

なお、上記サポートセンターをご利用いただくためには以下のシマンテックホームページにてカスタマーIDの取得が必要です。
http://www.symantecstore.jp/oem/sony/
カスタマーID取得に関するお問い合わせ
シマンテック カスタマーサービスセンター
電話番号：(03)5836-2654
受付時間：月曜～金曜10時～12時、13時～17時（年末年始・祝日を除く）
ファックス番号：(03)5836-2655

ご注意

Norton AntiVirusは、本機初回起動時より90日間無償でウイルス定義ファイル（ワクチンファイル）のアップデートができます。それ以降は、ウイルス定義ファイルのアップデートは有償になります。新種のウイルスに対応するため、ウイルス定義ファイルは常に更新することをおすすめします。
テクニカルサポート提供期間はウイルス定義ファイル無償更新期間と同じく90日間となります。
ウイルス定義ファイルの有償アップデートについて詳しくは、以下のシマンテックホームページをご覧になり、お申し込みください。
http://www.symantecstore.jp/oem/sony/
ウイルス定義ファイルの有償アップデートのお申し込みについては、下記にお問い合わせください。
シマンテックストア
電話番号：(03)3476-1192
受付時間：月曜～金曜 10時～12時、13時～17時（年末年始・祝日を除く）
ファックス番号：(03)5836-3871

設定・ユーティリティ

❑ バイオメニュー
VAIOカスタマーリンク

❑ メモリースティックフォーマッタ
ソニー株式会社　お客さまご相談センター
電話番号（ナビダイヤル）：0570-00-3311
電話番号（携帯電話・PHSでのご利用）：(03)5448-3311
ファックス番号：(0466)31-2595
受付時間：月～金 9:00～20:00、土・日・祝日 9:00～17:00
ホームページ：http://www.sony.net/memorystick/support/

❑ PowerPanel
VAIOカスタマーリンク

❑ Sony Notebook Setup
VAIOカスタマーリンク

サポート・ヘルプ

❑ CyberSupport for VAIO
VAIOカスタマーリンク

❑ VAIO ハードウェア診断ツール
VAIOカスタマーリンク

❑ できるWindows XP for VAIO
インプレスカスタマーセンター
電話番号：(03)5213-9295

❑ How to VAIO
VAIOカスタマーリンク

❑ VAIOリカバリユーティリティ
VAIOカスタマーリンク

❑ リカバリディスク作成ツール
VAIOカスタマーリンク

❑ VAIO Update
VAIOカスタマーリンク

その他

❑ VAIOオンラインカスタマー登録
ソニーマーケティング株式会社　カスタマー専用デスク
電話番号：(0466)38-1410
受付時間：月曜～金曜日 10時～18時（土曜、日曜、祝日、年末年始を除く）

❑ UI Design Selector
VAIOカスタマーリンク

❑ おトク情報紹介
ソニー株式会社「Grami（グラミ）お問い合わせ窓口」
電子メール：info@grami.ne.jp
受付時間：月曜～金曜日：9時～17時30分（年末年始、祝日を除く）

各種サービスの紹介

❑ イメージステーション
ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：(0466)30-3012
受付時間：10時～18時（土・日・祝日・年末年始は除く）
電子メール：info@imagestation.jp

❑ Webpocket
株式会社ウェブポケット
ウェブポケットカスタマーセンター
電子メール：wp-info@webpocket.net
受付時間：10時～18時（土・日・祝日、および年末年始は除く）

❑ 今すぐとろう！バイオメールアドレス
ソニースタイルカスタマーセンター
電話番号：(0466)30-3012
受付時間：10時～18時（月曜～金曜。土・日・祝日・年末年始を除く）
電子メール：v-networkservice@vs01.vaio.ne.jp
ホームページ：http://www.vaio.ne.jp/

❑ テレビ電話のご紹介

ソニーマーケティング株式会社　ソニースタイルカスタマーセンター
電子メール：info@meetid.net
電話番号：(0466)30-3012
受付時間：10時～18時(土・日・祝日・年末年始は除く)

❑ VAIO Game Centerのご紹介

ソニーマーケティング株式会社
ホームページ：http://www.vaio.sony.co.jp/game/index.html

オンライン学習ストアーご紹介

❑ i-フィルター Personal Edition

デジタルアーツ株式会社 ユーザーサポート
電話番号：(03)5485-1334
ファックス番号：(03)5485-1337
受付時間：10時～18時(土・日・祝日は除く)
技術サポートメール：support@daj.co.jp
ホームページ：http://www.daj.co.jp

❑ アルクの通信講座

(株)アルク カスタマーサービス部
電話番号：(03)3327-1101
受付時間：9時～17時(月曜～金曜)
電子メール：csss@alc.co.jp
ホームページ：http://www.alc.co.jp/shop/

❑ ももんがクラブおためしゲーム

ジャストシステムインフォメーションセンター
電話番号：東京(03)5412-3939　大阪(06)6886-9300
受付時間：月曜～金曜：10時～19時(年末年始、祝日を除く)
電子メール：momonga@justsystem.co.jp

❑ 旺文社の英語講座

(株)旺文社 P カレッジ事務局
電話番号：(03)3266-6018
受付時間：10時～17時(土・日・祝日を除く)
電子メール：p_office@p-college.obunsha.co.jp
ホームページ：http://p-college.obunsha.co.jp/toeic/contents/index.html

❑ ソースネクストの学習ソフトシリーズ

ソースネクスト・カスタマーインフォメーションセンター
電話番号：(03)5350-4844
受付時間：10時～18時(土・日・祝日・年末年始・ゴールデンウィークを除く)
電子メール：info@sourcenext.info
ホームページ：http://www.sourcenext.com/

❑ アマゾン英語学習ストア

Amazon.co.jp　カスタマーサービス
電子メール：info＠amazon.co.jp
ホームページ：http://www.amazon.co.jp

❑ ブロードバンド英会話 e-EnglishGym

e-EnglishGymカスタマー専用デスク
受付時間：24時間（電子メールのみ対応）
電子メール：info＠e-englishgym.com
ホームページ：http://www.e-englishgym.com/

❑ メディアファイブ（お試し版）

メディアファイブ　ユーザーサポートセンター
電子メール：support＠media-5.co.jp
電話番号：（048）839-3535
受付時間：月曜～金曜（祝日除く）10時～12時、13時～18時
ホームページ：http://www.media-5.co.jp/

❑ がくげい

電子メール：info＠gakugei.co.jp
電話番号：（06）6365-5315
受付時間：月曜～金曜（祝日除く）9時30分～17時30分
ホームページ：http://www.gakugei.co.jp

索引

【ア行】

アンテナ接続ケーブル.....20
インターネット.....66, 135
ウイルス.....197
ウェイトセーバー.....20
液晶ディスプレイ.....23, 143, 193
オンラインカスタマー登録.....46, 142

【カ行】

拡大ボタン.....25, 26, 146
カスタマー登録.....46, 142
キートップを取り付ける.....148
キーボード.....23, 58, 146
　ショートカット.....61
吸気口.....27, 32
休止状態.....39, 62, 133, 143, 162
クリック.....57
　ダブルクリック.....57
　右クリック.....57
結露.....193
コンピュータウイルス.....197

【サ行】

再セットアップ.....173
サイバーサポート.....4, 5
省電力動作モード.....162
スクロール.....57
スタンバイ.....39, 143, 163
スピーカー.....25, 26, 61, 159
セキュリティ.....199
ソフトウェア
　不正コピー禁止について.....199
　付属ソフトウェア.....211

【タ行】

ダイヤルアップ接続.....87, 98, 138
タッチパッド.....23, 56, 146
　クリックする.....57
　スクロールする.....57
　ダブルクリックする.....57
　使う.....56
　ドラッグアンドドロップする.....57
　ドラッグする.....57
　左ボタン.....23, 56
　右クリックする.....57
　右ボタン.....23, 56
ダブルクリック.....57
チャンネルボタン.....25
ディスク
　お手入れ.....201
　取り扱いについて.....196
ディスプレイパネルを開く.....36
テレビ.....149
　ボタン.....25
　見る.....112
テレホンコード.....75, 135
電源.....131
　入れる.....36
　切る.....44
　コード.....19, 37
トーン式ダイヤル.....50, 84
ドライブ.....19
　アクセスランプ.....28
　イジェクトボタン.....28
　マニュアルイジェクト穴.....28
　CD-RW/DVDドライブ.....28
　DVD-RWドライブ.....28
　DVD±RWドライブ.....28
ドラッグ.....57
ドラッグアンドドロップ.....57

【ナ行】

内蔵スピーカー.....25, 26, 61, 159
ネットワーク(LAN)コネクタ.....31

【ハ行】

パーティションサイズを変更する...186
ハードディスク.....163
　アクセスランプ.....24
　データ消去について.....200
　取り扱いについて.....194
　バックアップをとる.....194
排気口.....27, 31
パスワード.....162
バッテリ.....19, 197
　ベイ.....27
　ランプ.....24
パルス式ダイヤル.....50, 84
パワーボタン.....23, 38
パワーランプ.....24, 38
左ボタン.....23, 56
ファン.....161
付属ソフトウェア.....211
プリンタ.....158
　コネクタ.....31
プロセッサ.....165, 204

フロッピーディスク 152
取り扱いについて 194
ヘッドホン 61, 159
コネクタ 31
ポインタ 40, 56, 147
ポートリプリケーターコネクタ 32
ボリュームボタン 25, 26

【マ行】

マイク 161
コネクタ 31
マルチパーパスベイ 28
取りはずしレバー 32
右クリック 57
右ボタン 23, 56
メッセージ 165
メモリ
増設する 168
モジュールを取り付ける 168
モジュールを取りはずす 171
メモリースティック 156
アクセスランプ 24
スロット 29, 30
取り扱いについて 195
文字入力 164
モジュラジャック 31, 74, 75
モデム 67, 74, 135
モニタコネクタ 31

【ラ行】

リカバリ 173
ディスクを作成する 183
リカバリ領域を削除する 187
リカバリ領域を作成する 188
リセットスイッチ 32, 131, 133
リモコン 20, 33, 152
受光ユニット 20
準備する 123

【A】

ACアダプタ 19, 37, 197
AC電源 37
AV INコネクタ 29
A/V OUTコネクタ 31

【C】

Caps Lockキー 60, 134
Caps Lockランプ 24, 60, 134
CDディスク 153
お手入れ 201
取り扱いについて 196
CHANNELボタン 25

【D】

DC INコネクタ 31, 37
DVDディスク 153
お手入れ 201
取り扱いについて 196

【F】

Fnキー 60, 61

【G】

Giga Pocket 112, 149, 152, 160

【I】

IDラベル 25, 26, 128, 203
i.LINK 156
コネクタ 29, 30

【L】

LCD/Videoスタンバイ 143

【M】

MONITORコネクタ 31

【N】

Num Lkキー 59
Num Lockランプ
..... 24, 59, 134, 148, 164

【P】

PCカード 158
イジェクトボタン 29, 30
スロット 29, 30
取り扱いについて 196
PRINTERコネクタ 31

【S】

S VIDEOコネクタ 29
Scroll Lockランプ 24, 62
Sony Notebook Setup 171

【T】
TVボタン 25

【U】
USBコネクタ.....31

【V】
VHF/UHFコネクタ 29
VOLUMEボタン 25, 26

【W】
Windows 40, 133, 176, 182
Windowsキー 60

商標について

- VAIO はソニー株式会社の商標です。
- “MagicGate Memory Stick”（“マジックゲートメモリースティック”）および“Memory Stick”（“メモリースティック”）、MEMORY STICK 、 、 、MEMORY STICK PRO 、MEMORY STICK DUO 、“MagicGate”（“マジックゲート”）、 MAGICGATE、OpenMG、OpenMG はソニー株式会社の商標です。
- i.LINKは、IEEE1394-1995とIEEE1394a-2000を示す呼称です。i.LINKとi.LINKロゴ“ ”はソニー株式会社の商標です。
- So-net、ソネットおよびSo-netロゴはソニー株式会社の登録商標です。
- 「Webpocket」はソニー株式会社の商標です。
- テレビ王国、iRCommander、アイアールコマンダーは、ソニー株式会社の登録商標です。
- iCommand、アイコマンドは、ソニー株式会社の商標です。
- 「iモード」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
- "SBM/Super Bit Mapping" is a Trademark of Sony Corp.
- Equaliser for VAIO from Sony Oxford. Copyright (C) 2003 Sony Business Europe.
- L1 Ultramaximizer, S1 Stereo Imager and Renaissance Bass plug-ins by Waves Ltd.
- Noise Reduction Effector Powered by DigiOn, Inc. Copyright (C) 2003 DigiOn, Inc.
- ASIO Interface Technology by Steinberg Media Technologies AG.
- VST PlugIn Interface Technology by Steinberg Media Technologies AG.
- Gen-Onはソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社の商標です。
- Grami（おトク情報紹介）
  All rights Reserved. Copyright (c) Sony Corporation.
  Contains IP3 Technology licensed from Visionarts, Inc.
  Portions of this software are based in part on the work of the Independent JPEG Group.
- Intel、Pentium、Celeron、SpeedStepはIntel Corporationの商標または登録商標です。
- Microsoft、MS-DOS、Windows Media、Windows、OutlookおよびBookshelfは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

- Bookshelf Basicは、次の書籍を基に制作されました。
  『新英和中辞典』 第6版(c)研究社 1967,1994,1998,
  『新和英中辞典』 第4版(c)研究社 1933,1995,1998,
  『新明解国語辞典』 第5版(c)三省堂 1972,1974,1981,1989,1997
- IBMおよびPC/AT、PS/2は、米国International Business Machines Corporationの商標および登録商標です。
- ドルビー、DOLBY、ダブルD記号 □□ 、AC-3およびプロロジックはドルビーラボラトリーズの商標です。
- Adobe、Premiere、Photoshop、Acrobat ReaderはAdobe Systems Incorporated(アドビシステムズ社)の商標です。
- LightWave,LightWave 3Dは米国NewTek社の登録商標です。
  D-STORM,D-STORMロゴは株式会社ディ・ストームの商標です。
- Copyright (C)1995 - 2003 RealNetworks(TM),Inc.
- QuickTime and QuickTime Player are trademarks of Apple Computer,Inc., registered in the U.S. and other countries.
- WinDVDは、InterVideo,Inc.の商標です。
- Recording Technology by Sonic Solutions.
- DigiOn、DigiOnSoundは、株式会社デジオンの登録商標です。
- Copyright (C) 2000-2002 Digital Arts Inc.
- @niftyはニフティ株式会社の商標です。
- ODNは日本テレコム株式会社の商標です。
- DIONはKDDI株式会社の登録商標です。
- ＯＣＮは、ＮＴＴコミュニケーションズ株式会社の商標です。
- 「ぷらら」は株式会社ぷららネットワークスの登録商標です。
- BIGLOBEは日本電気株式会社の登録商標です。
- (C)TAITO CORP. 1996,2001
  ＪＲ東日本・ＪＲ西日本 商品化許諾済
  制作協力:株式会社ジェイアール東日本企画
- Licensed by Taito Corp. (C)TAITO Corp.1996,1998
- (C)Cyberfront 1999 (C)TAITO Corp. 1994 All Rights Reserved.
  TAITO is a registered trademark of TAITO CORP. SPACE INVADERS is a trademark of TAITO CORP.
- (C) 2001 UNBALANCE Corporation.
- Copyright (C)2000-2003 DigiOn Inc. and Easy Systems Japan Ltd. All rights reserved.
  Drag'n Dropはイージーシステムズジャパン(株)と(株)デジオンの登録商標です。

- Copyright(c) 1988-2003 Val Laboratory Corporation All rights reserved
- 「Zm@p on net for PC」は、株式会社ゼンリンデータコムの登録商標です。
- Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirusはSymantec Corporationの登録商標です。
  2003 Symantec Corporation. All Rights Reserved.
- PowerPanelは米国フェニックス テクノロジーズ社の商標です。
- 「ConceptBase」「ConceptBase Search」「CBSearch」は株式会社ジャストシステムの登録商標です。
  Portion Copyright 2000 株式会社ジャストシステム
  Portion Copyright 1981-1988 Microsoft Corporation
- 「できる」は株式会社インプレスの登録商標です。
- DIRECTOR(R) COPYRIGHT(C)1994,1996 Macromedia, Inc.
- Made with Macromediaは、Macromedia, Inc.の商標です。
- その他、本書で登場するシステム名、製品名、サービス名は、一般に各開発メーカーの登録商標あるいは商標です。なお、本文中では(TM)、(R)マークは明記していません。

ソフトウェアをお使いになる前に、必ずお買い上げのコンピュータに添付のソフトウェア使用許諾契約書をご覧ください。

国際エネルギースタープログラムについて

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象商品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピュータをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっております。対象となる製品はコンピュータ、ディスプレイ、プリンタ、ファクシミリおよび複写機等のオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

マクロビジョンについて

本機は、マクロビジョンコーポレーションやその他の権利者が保有する、米国特許上の方法クレームおよびその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンコーポレーションの許諾が必要であり、マクロビジョンコーポレーションが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。リバースエンジニアリングまたは分解は禁止されています。

充電式電池の収集・リサイクルについて

リチウムイオン電池は、リサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部にセロハンテープなどの絶縁テープを貼って充電式電池リサイクル協力店へお持ちください。

Li-ion

充電式電池の収集・リサイクルおよびリサイクル協力店に関する問い合わせ先:
社団法人電池工業会
ホームページ: http://www.baj.or.jp

- 権利者の許諾を得ることなく、本機に付属のソフトウェアおよびこの説明書の内容の全部または一部を複製すること、およびソフトウェアを賃貸することは、著作権法上禁止されております。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアを使用したことによって生じた損害、逸失利益、および第三者からのいかなる請求等につきましても、当社は一切その責任を負いかねます。
- 本機の保証条件は、同梱の当社所定の保証書の規定をご参照ください。
- 本機に付属のソフトウェアは、本機以外には使用できません。
- 本機、および本機に付属のソフトウェアの仕様は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご容赦ください。
- CD-ROMや音楽CDからのコピーの作成およびその利用は、使用許諾条件または著作権法に違反する場合があります。コピーの作成およびその利用にあたっては、オリジナルCDの利用許諾条件および著作権法を遵守してください。使用許諾条件、著作権法についてご不明な点がある場合は、法律の専門家にご相談ください。
- 各種サービスは、都合によりソニーおよび提供者の判断にてご提供を中止・中断する場合があります。その場合、対象ソフトウェアまたは対象ソフトウェアの一部機能がご使用いただけなくなることがありますので、あらかじめご了承ください。

サポート情報は
VAIOカスタマーリンクホームページへ
http://vcl.vaio.sony.co.jp/

VAIOホームページ
バイオを楽しく使っていただくための情報をご案内します。
http://www.vaio.sony.co.jp/

ソニー株式会社　〒141-0001　東京都品川区北品川6-7-35
http://www.sony.co.jp/

Printed in China

4 6 7 5 4 3 3 0 1